CSR報告2011

CSRホーム
CSR報告2011
トップコミットメント
CSRの考え方
アンリツのCSR達成像
CSRマネジメント
達成像1
安全・安心で快適な社会構築への貢献
達成像2
グローバル経済社会との調和
達成像3
地球環境保護の推進
達成像4
コミュニケーションの推進
2010年度の実績、
2011年度の目標
事業概要
第三者意見
第三者意見を受けて
編集方針

バックナンバー

詳細（Web）
- 2010 日本語版 英語版
- 2009 日本語版 英語版

ダイジェスト（PDF）
- 2010 日本語版 英語版
- 2009 日本語版 英語版
- 2008年以前は こちら から

CSR報告 2011
CORPORATE SOCIAL RESPONSIBILITY REPORT 2011

達成像1　安全･安心で快適な社会構築への貢献

- お客さまへのサービス
- 企業ブランドの確立
- 社会的課題への積極的対応

■ダイジェスト版PDF（P8-9）

達成像2　グローバル経済社会との調和

- コンプライアンスの定着
- リスクマネジメントの推進
- サプライチェーンマネジメント
- 人権の尊重と多様性の推進
- 人材育成
- 労働安全衛生
- 社会貢献活動の推進

■ダイジェスト版PDF（P10-11）

達成像3　地球環境保護の推進

- エコマネジメント、エコマインド
- エコオフィス、エコファクトリー
- エコプロダクツ開発
- サプライチェーンマネジメントの推進
- アンリツグループ環境負荷マスバランス(10年度)
- サイト別環境データ集（10年度）
- 環境会計（10年度）
- 環境管理活動の歴史

■ダイジェスト版PDF（P12-13）

達成像4　コミュニケーションの推進

- ステークホルダーとのコミュニケーション

■ダイジェスト版PDF（P14-15）

「CSR報告2011ダイジェスト」PDFダウンロード

ダウンロード

「CSR報告書2011詳細(Web)」PDFダウンロード

ダウンロード

※こちらのPDFは「CSR報告2011」WEBサイトを一括して印刷する為のデータとして掲載しています。

Copyright© Anritsu Corporation

トップコミットメント

CSRホーム
CSR報告2011
トップコミットメント
CSRの考え方
アンリツのCSR達成像
CSRマネジメント
達成像1
安全・安心で快適な社会構築への貢献
達成像2
グローバル経済社会との調和
達成像3
地球環境保護の推進
達成像4
コミュニケーションの推進
2010年度の実績、
2011年度の目標
事業概要
第三者意見
第三者意見を受けて
編集方針

バックナンバー

詳細（Web）

- 2010 日本語版 英語版
- 2009 日本語版 英語版

ダイジェスト（PDF）

- 2010 日本語版 英語版
- 2009 日本語版 英語版
- 2008年以前は こちら から

トップコミットメント

誠と和と意欲によって、新しい未来の創造を。

■共生と連帯の輪で、五方よしを推進

東日本大震災で被災された方々に心よりお見舞い申し上げますとともに、一刻も早い復興をお祈り申し上げます。
東北地方の復興のために何ができるのか？ この問いに対する答えは人それぞれであり、おのおのの立場でできることに取り組んでいく以外にありません。
しかし、その根底には共通したものがあるのではないか、私はそう考えています。 それが「共生と連帯」です。
アンリツグループでは、福島県郡山市の郡山事業所および製造子会社である東北アンリツ(株)の建物に一部損傷を受けましたが、2週間後にはすべての製品生産ラインを通常体制に戻すことができました。 生産ラインの早期復旧は、お客さま、取引先さま、輸送業者さま、社員が心を一つにして取り組んだ成果です。 この過程で、あらゆるステークホルダーの皆さまとの共生を実感し、連帯して課題を解決することの重要性をあらためて認識しました。
私は社長就任時より、CSR経営の根幹として「五方よし」を提唱しています。 五方は、「売り手」、「働き手」、「買い手」、「世間」、「自然」を指します。それぞれの利害が調和するように考え、行動する誠実な企業こそ、私たちが目指す姿です。 アンリツグループは、あらゆるステークホルダーの皆さまとの「共生と連帯」の輪を広げ、人と社会、自然が調和した持続可能な社会づくりの一翼を担ってまいります。

■イノベーションで新たな価値を提供する

私は、東北地方の復興は、日本がこれからどのような国づくり、社会づくりを行っていくのかにかかわる課題であると認識しています。
その重要な役割を担うのが、情報通信技術です。 今回の大震災を通して、「つながることの大切さ」を多くの皆さまが実感したのではないでしょうか。 まさに情報通信ネットワークは重要なライフラインです。 しかもその技術革新はとどまるところを知らず、環境や医療・福祉、行政サービスなどさまざまな分野で一層の利活用が進展し、社会に新たな価値、利便性向上をもたらすことが期待されています。
アンリツグループは、被災した計測器の修理支援、光ファイバーの保守用計測器の無料貸し出しなどを実施しています。
今後もこうした取り組みを着実に実行するとともに、これまで以上に付加価値の高いソリューションを提供し、復興に役立ちたいと考えています。
その基盤となるのが、イノベーションです。アンリツグループは、計測、映像配信、センシング、異物・質量検査などさまざまな技術を保有しています。 これらの技術を新たな着想、アイデアで見直し、安全・安心で快適な社会の実現を支えるソリューションを生み出したいと考えています。

■国際社会の進歩に貢献する

これからもアンリツグループが本業を通して社会的課題の解決に貢献するためには、全世界のグループ社員が価値観、倫理観を共有することが重要です。
現在アンリツグループは、計測事業をはじめ、産業機械事業、光デバイス事業などほとんどの事業をグローバルに展開しており、連結売上高の約6割、主力の計測事業では7割が日本国外のお客さまによるものです。 また、日本国外で働く社員は4割にのぼり、資材の海外調達も進んでいます。 法制度や習慣、文化が異なる国での事業展開やステークホルダーとの協力関係を強化していくためには、グループ全社員共通の指針が必要になります。そこで、アンリツグループは、企業行動憲章とともに「国連グローバル・コンパクト」を全員で共有しています。 国際的なイニシアチブの行動原則を日常業務に組み込み、国際社会で信頼され、認められる企業を目指してまいります。

■「誠と和と意欲」で未来を紡ぐ

アンリツグループは、情報通信、食品・医薬品、社会インフラなど多岐にわたる分野で事業を営んでいます。 これらの事業活動の礎となるのが、経営理念に掲げる「誠と和と意欲」です。
アンリツグループは、2015年に創業120周年を迎えます。一般的に一つの事業が輝く期間は30年と言われます。変化の激しい情報通信分野で当社が長い歴史を刻んでこられたのは、「オリジナル＆ハイレベル」な商品とサービスの継続的提供を目指しイノベーションを繰り返してきたからです。「誠と和」という創業以来の「変わらない価値」と、「イノベーション」という「変わることへの“意欲”」の両方が、アンリツのDNAです。これからもこのDNAを未来へ紡いでいき、社会の持続的発展と当社の利益ある持続的成長の実現に邁進していきます。
今後ともアンリツグループの企業活動にご支援とご協力をお願い申し上げます。

2011年7月

アンリツ株式会社
代表取締役社長 橋本紡一

■国連グローバル・コンパクト (United Nations Global Compact)

アンリツは、国連グローバル・コンパクトの活動に賛同し、2006年3月に参加を表明しました。
※国連グローバル・コンパクト：人権、労働基準、環境および腐敗防止に関する10原則を支持する団体の集まりです。1999年1月に開かれた世界経済フォーラムにおいて、コフィー・アナン前国連事務総長が提唱し、2000年7月ニューヨークの国連本部で正式に発足しました。

2010年6月24日・25日、ニューヨーク(アメリカ)で開催された「国連グローバル・コンパクト・リーダーズ・サミット」の中で発表された調査報告書「**国連グローバル・コンパクトーアクセンチュア CEO Study 2010**」に、当社社長橋本裕一のメッセージが掲載されました。

▲ページ先頭へ戻る

Copyright© Anritsu Corporation

CSRの考え方

CSRホーム
CSR報告2011
トップコミットメント
CSRの考え方
アンリツのCSR達成像
CSRマネジメント
達成像1
安全・安心で快適な社会構築への貢献
達成像2
グローバル経済社会との調和
達成像3
地球環境保護の推進
達成像4
コミュニケーションの推進
2010年度の実績、
2011年度の目標
事業概要
第三者意見
第三者意見を受けて
編集方針

バックナンバー

詳細（Web）
- 2010 日本語版 英語版
- 2009 日本語版 英語版

ダイジェスト（PDF）
- 2010 日本語版 英語版
- 2009 日本語版 英語版
- 2008年以前は こちら から

▶アンリツグループ企業行動憲章 ▶アンリツグループ行動規範

■社会の要請とアンリツのソリューション

アンリツグループは、主に情報通信や食品・医薬品にかかわる分野でグローバルに事業を展開しています。
情報通信の進展は、「人と人」、「人と社会」、「企業と企業」をつなぐことを可能にし、人びとの生活やビジネス面で大きな変化をもたらしています。例えば、遠隔による教育・医療、交通システムのIT化、環境負荷削減への応用（Green by ICT）など、多くの分野で活用が進められています。これらは、途上国における情報格差是正や受診機会の提供、交通事故の削減、地球環境保護など、社会的課題への対応であり、かつ社会の持続可能な発展につながっています。
アンリツグループは、情報通信の分野で携帯電話端末、通信用電子部品の研究開発・製造用計測ソリューション、通信インフラの建設・保守サービス用計測ソリューション、さらに通信ネットワークの品質を保証するソリューションを提供しています。
また、光通信用デバイスや通信ネットワーク上のデータの流れを制御する帯域制御システムなども提供し、確実につながり安定した品質の通信環境づくりに貢献しています。特に、次世代通信システムであるLTE向けデバイス、携帯電話端末の研究開発用計測ソリューションおよび携帯電話向け基地局の建設・保守用計測ソリューションでは、世界トップポジションを確保し、グローバルに商品・サービスを提供しています。
食品・医薬品は、人びとの生活、健康の根幹であり、世界的に安全・安心への要望・期待がますます高まっています。 このような背景の中、食品メーカーなどでは今まで以上に商品の品質向上に注力しています。アンリツ産機システム（株）は、このような社会的要請に応えるために、食料品に金属片やプラスチック、骨などが入っていないかを検査するX線異物検出機をはじめとするさまざまな品質保証ソリューションを提供し、食の安全と安心を支えています。

携帯電話基地局用計測器

X線異物検出機

■事業のグローバル化とCSR

情報通信分野で計測ソリューションを提供する計測事業では、海外売上比率が71％（2009年度）から73％（2010年度）に増加し、グローバル化が進展しています。現在進行中の中期経営計画GLP2012で参入領域におけるグローバル市場シェアを10%（2009年度）から13%（2012年度）に、また食品・医薬品分野を対象とする産業機械事業では、海外売上比率を29%（2009年度）から33%（2012年度）まで拡大することを目標にしています。一方、社員構成では、連結海外社員比率が37%（2009年度）から38%（2010年度）に増加しました。 豊富な品揃えを支える開発力、お客さまに対するサポート力、グローバルに事業展開できる人材と組織などを最大限活用し、イノベーションを追求することで豊かなグローバル社会の発展に貢献するとともに、自社の持続的成長も実現していきます。 事業を推進するにあたっては、アンリツグループの経営理念、経営ビジョン、経営方針が掲げる基本指針を実践するとともに、グローバル企業として行動すべき原則を示す国連グローバル・コンパクト、および企業の行動理念を示すアンリツグループ企業行動憲章を守ることを通して、社会的責任を果たしていきます。

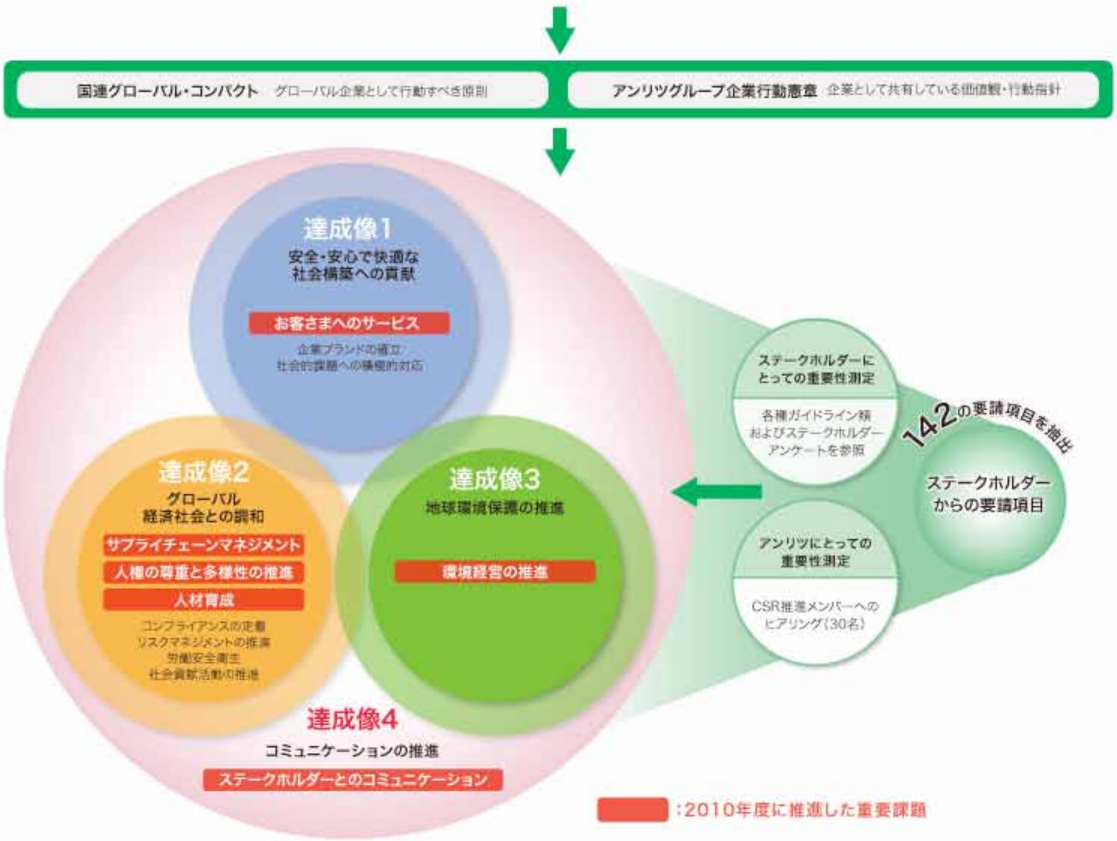
■CSR経営のあるべき姿を目指して

アンリツグループは、2006年に自らの将来におけるあるべき姿を4つの達成像として設定し、事業のグローバル展開に即したかたちで、CSR経営基盤を確立する取り組みを実践してきています。
達成像1「安全・安心で快適な社会構築への貢献」は、まさに事業を通じて実施するアンリツグループの貢献です。達成像2「グローバル経済社会との調和」は、グローバルに事業展開しているがゆえに必須の社員の多様性の確保、サプライチェーン全体への配慮、地域社会への貢献などあるべき姿を示しています。達成像3「地球環境保護の推進」は、製品ライフサイクル全体を通じて環境保護へ取り組む決意であり、達成像4「コミュニケーションの推進」は、CSR経営全般を支えるステークホルダーとのコミュニケーション力の強化です。今後も達成像の実現に向け、マネジメントの推進およびステークホルダーとのコミュニケーション促進の両面から取り組んでいきます。

■「達成像」実現に向けた12の重要課題

アンリツは、経営理念・経営ビジョン・経営方針が掲げる基本原則を実践するとともに、グローバル企業として行動すべき原則を示すグローバル・コンパクト、および具体的な価値観・行動指針を示すアンリツグループ企業行動憲章を守ることを通して、CSR活動を推進しています。

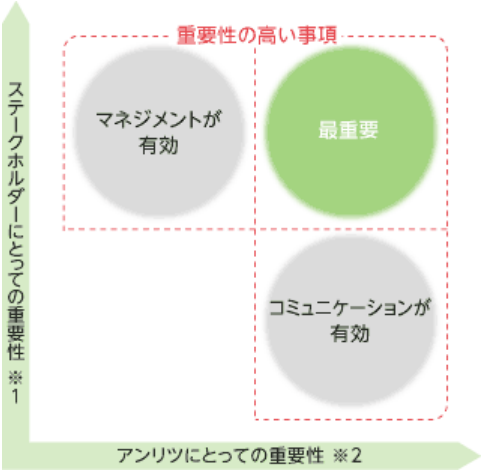
アンリツは、CSR活動の方向性をより明確化・具体化するための中長期的な計画「CSR達成像」を定めて活動しています。2008年度に「達成像」実現に向けて、CSR活動を事業活動と一体のものとして推進し、中長期的な企業価値向上につなげるため、CSR課題の重要性を測定しました。下図のような手順に従って、「12の重要課題」を把握しました。さらに、その中でも注力すべき課題を絞り込み、CSR活動の向上に努めています。



■重要性測定の手法と結果

測定のプロセス
客観性と網羅性に配慮するため、まず、社会からの要請項目として想定される142項目を抽出。各項目の測定結果を、「ステークホルダーにとっての重要性（＝社会の影響・関心度合い）」（Y軸）、および「アンリツにとっての重要性（=企業価値への影響度合い）」（X軸）の2軸でプロットしました。アンリツにとっての重要性について30名の社員にヒアリングしたことは、事業活動の実態に即した課題意識を把握するだけでなく、重要性に対する主体的な気付きを醸成し、認識の共有化にもつながりました。

抽出された12の重要課題
測定の結果、142項目のうちでとくに重要性が高い領域（下図の赤枠部分）にプロットされた12項目を、アンリツにとっての重要課題ととらえました。さらに、この領域を「最重要」「マネジメントが有効」「コミュニケーションが有効」の3つの領域に分類することで、具体的対策への手掛かりを得ることができました。



※1 各種ガイドラインや調査・格付機関の調査項目、および社内外のステークホルダーへのアンケート結果の中で要請されている内容と頻度をもとに、10段階で測定。

※2 各CSR領域の責任者・担当者であるCSR推進部会およびCSR推進メンバー30名へのヒアリングを通して、中長期的な企業価値へおよぼす影響度を重要度 5段階で測定。

注）経済人コー円卓会議日本委員会様の手法を採用しました。

最重要

ステークホルダーにとってもアンリツにとっても重要性が高く、優先的に対応する必要がある。

- お客さまへのサービス
- 企業ブランドの確立
- コンプライアンスの定着
- リスクマネジメントの推進
- 人権の尊重と多様性の推進
- 環境経営の推進
- ステークホルダーとのコミュニケーション

マネジメントが有効

ステークホルダーにとって重要性が高く、リスク低減の観点から、ステークホルダーの期待レベルに対応した取り組みがより一層求められる。

- 社会的課題への積極的対応
- 人材育成
- 労働安全衛生

コミュニケーションが有効

自社にとって重要性が高く、社会的な認知を高めることにより機会の獲得（強み）になり得る。

- サプライチェーンマネジメント
- 社会貢献活動の推進

▲ページ先頭へ戻る

Copyright© Anritsu Corporation

アンリツのCSR達成像

CSRホーム
CSR報告2011
トップコミットメント
CSRの考え方
アンリツのCSR達成像
CSRマネジメント
達成像1
安全・安心で快適な社会構築への貢献
達成像2
グローバル経済社会との調和
達成像3
地球環境保護の推進
達成像4
コミュニケーションの推進
2010年度の実績、
2011年度の目標
事業概要
第三者意見
第三者意見を受けて
編集方針

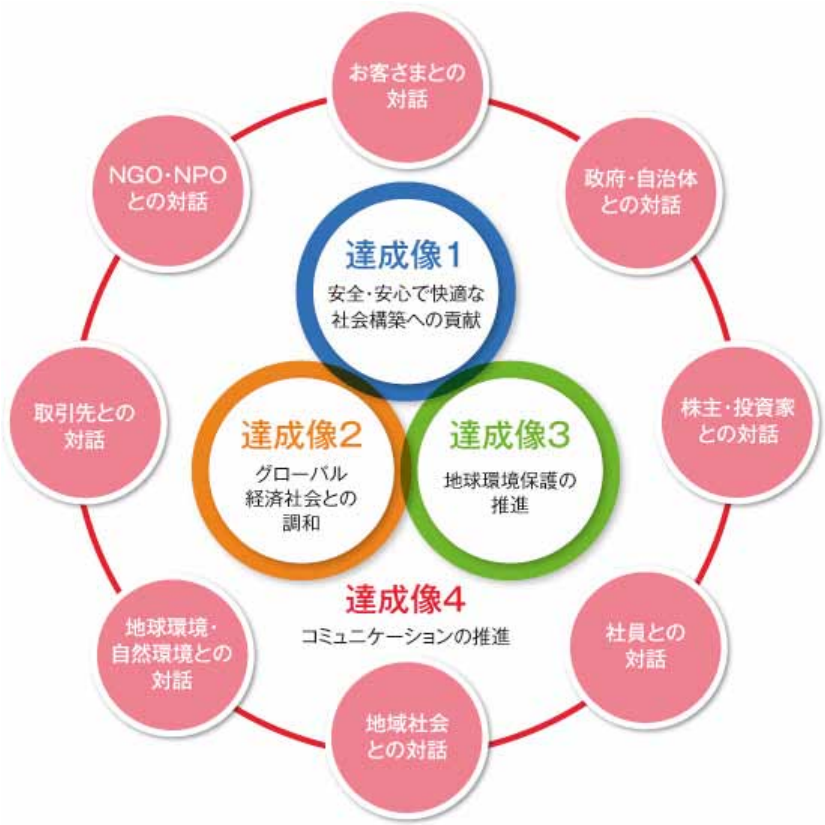
バックナンバー

詳細（Web）
- 2010 日本語版 英語版
- 2009 日本語版 英語版

ダイジェスト（PDF）
- 2010 日本語版 英語版
- 2009 日本語版 英語版
- 2008年以前は こちら から

■アンリツのCSR達成像

2008年度にアンリツは、2006年度に策定した「達成像」を見直しました。今後もその実現に向け、マネジメントの推進およびステークホルダーとのコミュニケーション促進の両面から、重要課題の取り組みを展開していきます。



達成像1　安全・安心で快適な社会構築への貢献

●アンリツの姿

アンリツは、オリジナル＆ハイレベルな技術によって、皆さまの安全と安心を守るために貢献している。

●社員の姿

社員一人ひとりが、お客さまの声を聞き、市場の期待を上回る品質の商品・サービスと迅速なサポートを提供している。

●社会からの評価

そして、アンリツの技術に対する一定の評価をいただきつづけ、アンリツブランドの信頼を築いている。

【重要課題】
- お客さまへのサービス
- 企業ブランドの確立
- 社会的課題への積極的対応

達成像2　グローバル経済社会との調和

●アンリツの姿

アンリツは、グローバル展開において、各地域の文化や特性と調和した事業活動を行い、サプライチェーン全体で社会的責任を果たしている。

●社員の姿

社員一人ひとりが、コンプライアンスを意識し人権を尊重し、多様な属性・文化・価値観のもとで活き活きと働き、成長している。

●社会からの評価

そして、地域に密着した社会貢献活動により、地域・社会との信頼関係を構築している。

【重要課題】
- コンプライアンスの定着
- リスクマネジメントの推進
- サプライチェーンマネジメント
- 人権の尊重と多様性の推進
- 人材育成
- 労働安全衛生
- 社会貢献活動の推進

達成像3　地球環境保護の推進

●アンリツの姿

アンリツは、環境理念のもと、製品ライフサイクル全体を通じて、地球温暖化防止、循環型社会の形成、地球のクリーン化に取り組む環境経営が定着している。

●社員の姿

社員一人ひとりが、エコマインドを高め、自身の業務に密着した環境活動を自立して実践している。

●社会からの評価

そして、グローバル環境経営を推進し、地球環境保護に積極的に貢献する企業として社会から認知されている。

【重要課題】
・環境経営の推進

達成像4　コミュニケーションの推進

●アンリツの姿

アンリツは、事業活動全体を通して、ステークホルダーへの積極的な情報開示と対話を行い、パートナーシップを構築している。

●社員の姿

社員一人ひとりが、ステークホルダーからの期待に耳を傾け、積極的なコミュニケーションを行い、相互理解を醸成している。

●社会からの評価

そして、ステークホルダーに対してアンリツの姿を正しく伝え、アンリツに対する評価と信頼を築いている。

【重要課題】
・ステークホルダーとのコミュニケーション

▲ページ先頭へ戻る

Copyright© Anritsu Corporation

CSRマネジメント

CSRホーム
CSR報告2011
トップコミットメント
CSRの考え方
アンリツのCSR達成像
CSRマネジメント
達成像1
安全・安心で快適な社会構築への貢献
達成像2
グローバル経済社会との調和
達成像3
地球環境保護の推進
達成像4
コミュニケーションの推進
2010年度の実績、2011年度の目標
事業概要
第三者意見
第三者意見を受けて
編集方針

バックナンバー

詳細（Web）
- 2010 日本語版 英語版
- 2009 日本語版 英語版

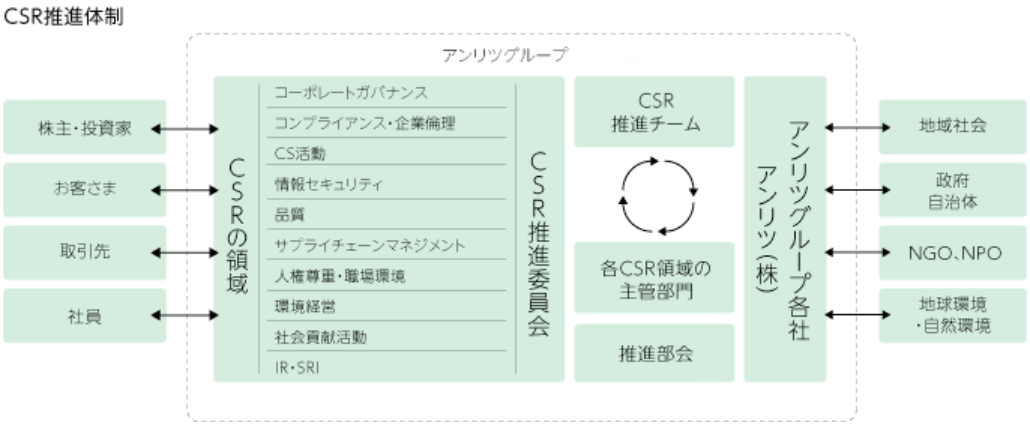
ダイジェスト（PDF）
- 2010 日本語版 英語版
- 2009 日本語版 英語版
- 2008年以前は こちら から

■事業活動によるCSR

アンリツグループは、『誠と和と意欲』を掲げた経営理念のもと、法令・倫理・社会規範の遵守をベースに、事業活動によるCSRを通して経済・社会・環境面の企業責任を果たします。また、コミュニケーションによってステークホルダーの皆さまとのより良い関係を構築し、企業価値およびブランド価値の向上を目指します。

■CSRの推進体制

2004年11月に発足したCSR推進委員会では、社長が委員長を務め、経営トップ自らがCSR推進を牽引しています。また、多岐にわたる部門の活動を統一的に推進するために、専従部門としてCSR推進室を組織しました。現在はコーポレートコミュニケーション部CSR推進チームとなり、CSR推進委員会の事務局を務めCSR推進委員会の方針のもとアンリツのCSR活動を推進しています。CSRは一部門、一組織だけで実現できるものではなく、アンリツ全部門、グループ会社の協力なくして成功はありえません。そこで、実効ある活動を進めるために、CS・品質、人権、社会貢献など、CSRの各領域を主管するアンリツ（株）の担当部門を中心に、グループ会社と横断的な連携をとり、CSR推進チームが事務局となって活動を推進しています。各領域についてCSRの視点で現状を把握・分析し、今後アンリツとして充実すべき課題の解決に取り組んでいます。



▲ページ先頭へ戻る

Copyright© Anritsu Corporation

達成像1 安全・安心で快適な社会構築への貢献

CSRホーム
CSR報告2011
トップコミットメント
CSRの考え方
アンリツのCSR達成像
CSRマネジメント
達成像1 安全・安心で快適な社会構築への貢献
達成像2 グローバル経済社会との調和
達成像3 地球環境保護の推進
達成像4 コミュニケーションの推進
2010年度の実績、2011年度の目標
事業概要
第三者意見 第三者意見を受けて
編集方針

バックナンバー

詳細（Web）
- 2010 日本語版 英語版
- 2009 日本語版 英語版

ダイジェスト（PDF）
- 2010 日本語版 英語版
- 2009 日本語版 英語版
- 2008年以前は こちら から

お客さまへのサービス

▶MORE

お客さまに対するテクニカルサポートやクレームなどへの迅速な対応を重視するとともに、サポート体制および情報共有体制の構築を推進し、安全と安心のご提供を目指します。

企業ブランドの確立

▶MORE

アンリツは、オリジナル＆ハイレベルな商品とサービスによって皆さまの安全と安心を守り、事業活動を通じて社会的な課題へ積極的に対応します。

社会的課題への積極的対応

▶MORE

アンリツはグローバルな社会の要請に対して、事業を通じて積極的に対応していくことを重視しています。

▲ページ先頭へ戻る

Copyright© Anritsu Corporation

お客さまへのサービス

CSRホーム
CSR報告2011
トップコミットメント
CSRの考え方
アンリツのCSR達成像
CSRマネジメント
達成像1 安全・安心で快適な社会構築への貢献
達成像2 グローバル経済社会との調和
達成像3 地球環境保護の推進
達成像4 コミュニケーションの推進
2010年度の実績、2011年度の目標
事業概要
第三者意見 第三者意見を受けて
編集方針

バックナンバー
詳細（Web）
- 2010 日本語版 英語版
- 2009 日本語版 英語版

ダイジェスト（PDF）
- 2010 日本語版 英語版
- 2009 日本語版 英語版
- 2008年以前は こちら から

▶お客さまへのサービス ▶企業ブランドの確立 ▶社会的課題への積極的対応

お客さまへのサービス

CS推進活動

●基本的な考え方

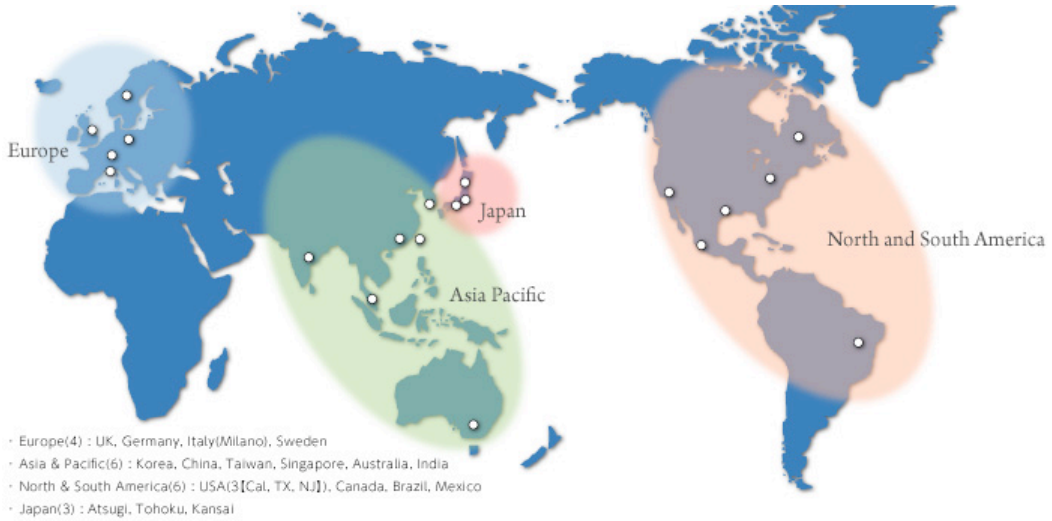
アンリツは、「お客さまから厚く信頼される企業になろう」という行動指針のもと、社員一人ひとりが「お客さまは何を求め、何に困っているか」をいつも念頭に置いて、誠心誠意お客さまに尽くし、お客さまとのコミュニケーションを密にし、お客さまのご要望にお応えしていくことが重要だと考えております。お客さまとのWin-Winの関係を構築し、お客さまにご満足いただけるような新たな価値をご提案していきます。
また、お客さまと直接お会いする社員の意識付けも重要な課題と捉え、啓発や教育、表彰制度などにも力を入れています。

●CS推進体制

国内アンリツグループでは、グループ各社より選任されたメンバーを中心に構成したCS*推進部会にて、CS課題の共有、改善活動を推進しています。アンリツ・カンパニー(アメリカ)で先行していた社員表彰制度を国内に導入するなどグローバルにCS活動を推進しています。
*CS (Customer Satisfaction): 顧客満足

●グローバルサービス

2006年度に発足したアンリツ計測グループの「グローバル・カスタマーサービス委員会」では、グローバルに均一かつ高品質で、付加価値の高いカスタマーサービスを運営、提供することを目的に活動を続けています。計測グループのグローバルサービスネットワークは、日本とアメリカ製品のサポートのため15カ国19箇所にサービスセンターを配し、測定器の修理・校正を行っています。



また、アンリツ産機システム(株)の保守ネットワークは現在約40カ国におよび、グローバルにビジネスを展開するお客さまにも安心の保守サービスを提供しています。

●グローバルWebの構築

世界のお客さまに同一のサービス・サポートを提供できるよう、デザインや操作性を統一し、多言語に対応したインターネットWebサイトの改善を行いました。お客さまからの声に応えるべく、製品情報やサポート・サービス情報が検索しやすく、入手しやすい構成を目指しました。2009年度に公開した日本、韓国、台湾に続き、2010年度は中国、オーストラリア、欧州、アメリカを相次いでリニューアルしました。
今後もアンリツはグローバルなお客さまに満足していただくよう、より迅速な情報発信やサービス向上に努め、十分なコミュニケーションを通じて、「お客さまから厚く信頼される企業」を目指します。

日本

アメリカ

中国

●CS表彰制度

受賞者の皆さん

国内アンリツグループでは、お客さま満足度の向上に貢献した社員を表彰する制度「CS Award」を2008年度に導入しました。 社員の業務は、お客さまだけでなく協力会社のみなさま、各種外部団体、行政、金融などの取引関係先、地域の皆さまなど、アンリツをとりまく多くの皆さまと何らかの形でつながっています。
皆さまからいただいたお褒めの言葉は、社員の日々の業務の力となり糧となります。定量的に評価することが難しい業務でも、お褒めをいただいた社員に対して「CS Award」で表彰しています。
2010年度に最もCS向上に貢献した業務を表彰する「CS Award of the year」は、東北アンリツ(株)とアンリツ(株)郡山事業所の皆さんの「納入時受け入れ不良ゼロ」が受賞しました。携帯電話の開発・製造・検査に使われる計測器「ラジオコミュニケーションアナライザ」について、2010年度上期の納入時不良ゼロを達成しました。当たり前のことではありますが、日々の努力によりお客さまの満足に貢献しています。

●社員への啓発活動

2010年度は、「お客さまとともに」と題して、アンリツグループのCS推進活動を毎月社内報に掲載しました。アンリツグループの目指す姿やCS調査の結果、CS Award表彰式の模様などを伝え、社員に“お客さまとともに”という意識の高揚を図っています。今後も各部門のCS推進活動やCSに関するコラムなど、継続的に掲載していきます。

●改善事例 – お客さまの声は財産です

アンリツでは、お客さまの声をCSアンケートやお客さま窓口、営業活動などから収集しています。たくさんのご意見やご要望はCS推進部会や関連部門で検討し、改善活動につなげています。

＜改善例＞

ご要望　その1　「全般的に納期を早めて欲しい」
◆納期確保と品質向上への取り組み
生産革新活動や小集団活動により生産ラインのムダを極力削減し、作業効率を上げることで生産性を向上させ納期の短縮を図っています。また、部材調達部門と生産計画部門の綿密な連携とツールの活用により部材を安定供給できるよう体制を整え、お客さまのご要求納期を確保する取り組みを行っています。
また、品質管理部門では関連する開発部門、製造部門、サービス部門などと協働し不良発生率を低減しています。特に納入時不良が発生しないよう品質目標を掲げ、不良発生時には原因を究明し再発防止策を講じ、類似機種への水平展開をすることで品質向上を図っています。

組立工程のU字ライン化でムダ削減。
省スペース・高作業効率を実現

ご要望　その2　「修理・サービスのメニューを増やし、低価格化も検討して欲しい」
◆修理・校正サービスメニューの拡充
アンリツ(株)のWebサイトに保証期間の確認や地域毎のお客さまの要求に応じた独自サービスメニューを追加しました。また、複数回の校正サービスを事前契約していただくことで通常料金よりも割安にご利用いただけるサービス(Cal割)をアンリツ計測器カストマサービス(株)より提供いたしました。お客さまのご要望を取り入れグローバルにサービス向上を図っています。

ご要望　その3　「問題発生時、いつでもすぐに連絡がとれる窓口を設置して欲しい」
◆「顧客サポートセンター」の24時間対応
アンリツ産機システム(株)では、同社の営業時間外、休業日に操業されているお客さまからのご要望に応じるために24時間365日対応の「顧客サポートセンター」を設置しました。
2010年度は、試行期間を経て本格稼動に向けての準備に取り組みました。また、保守サービス時にお客さまの現場で迅速な対応がとれるよう、ノート型PCなどの可搬型端末を活用した保守モバイルシステムの構築を計画しています。

ご要望　その4　「製品についてのセミナーや勉強会を開催して欲しい」
◆基礎セミナーの実施
計測器事業では、お客さまへ定期的なメルマガをお送りしキャンペーン情報や新製品情報を発信しています。皆さまのご要望にお応えし「スペクトラム解析ガイド」のダウンロードサービスや計測器の基礎セミナーを定期的に行っています。セミナー受講者のアンケートでは8割の皆さまから役に立ったとの回答をいただいています。

基礎セミナー風景

ご不満　その1　「窓口のレスポンスが遅かった」
◆お問い合わせ窓口の改善
日本では、Webサイトにお客さまのお問い合わせ窓口が複数あります。業務毎の窓口がお客さまにとってお問い合わせしやすく利用しやすい窓口となるよう、対応の流れを改善しました。該当部門へ確実に情報が渡り、迅速に対応できるよう、担当部門と責任者を明確にし、対応の徹底を図りました。

ご不満　その2　「包装材の処分に困る」
◆包装改善
アンリツでは包装資材の削減に取り組んでいます。その一環としてエコ・ロジスティクスの運用を実施しています。エコ・ロジスティクスでは、お客さまに商品を納入する際、包装資材の処分に困らないよう、製品のみをお渡しします。また、引き取り時には、輸送業者が持参した専用包装資材で包装し、製品や修理品を持ち帰っています。

従来のダンボール包装と「エコ・ロジスティクス」の比較

	納品時	引き取り時
従来のダンボール包装	お客さまが処理をする包装資材の量が多い。 ・廃棄物の処理費用が多大に発生してしまう。	包装資材をお客さまに送り、お客さまが包装している。 ・お客さまの製品包装作業が発生する。
エコ・ロジスティクス	お客さまが処理をする包装資材の量が少ない。 ・廃棄物の処理費用を削減できる。	輸送業者が資材を持参し、輸送業者が包装して持ち帰る。 ・お客さまの製品包装作業が不要になる。

●国際物流の円滑化と国際安全保障の実現を推進

2008年12月、アンリツは日本で157番目の「特定輸出者」として横浜税関様から認定されました。特定輸出者制度は、膨大な国際物流において円滑な運営と国際安全保障の実現を両立させることを目的とする制度です。認定企業は、輸出製品の納期の短縮や輸出コスト削減という便益を享受する一方、従前にまして、自らの責任で輸出業務を遂行することになります。
この特定輸出者認定制度は日本独自のものではなく、WCO（World Customs Organization）のガイドラインに基づき、AEO（Authorized Economic Operator）と総称される同様の制度が世界各国で導入されています。2011年もAEOの国際連携が大きく進展し、5月に日本-韓国間、6月に日本-シンガポール間で相互認証が締結され、これでニュージーランド、アメリカ、EU、カナダと合わせ、6つの国と地域に拡大しました。
アンリツは2010年12月、横浜税関さまによるAEO事後監査を受けました。この監査では、アンリツが認定事業者としての自主管理水準を維持していることが確認され、指摘事項はありませんでした。今後もコンプライアンス・プログラム、リスクマネジメントの継続的な改善・強化を図り、安全・安心で豊かなグローバル社会の発展に貢献します。

特定輸出者承認通知書（写し）

品質管理

●基本的な考え方

アンリツ(株)は、経営理念「誠と和と意欲をもって、“オリジナル＆ハイレベル”な商品とサービスを提供し、安全・安心で豊かなグローバル社会の発展に貢献する」のもと、お客さまと社会に満足される商品とサービスを提供するために、品質方針および行動指針を定め徹底を図っています。

＜品質方針＞
顧客と社会に満足される製品を誠と和と意欲をもって造る

＜品質方針に関する行動指針＞
・不具合品を出さぬよう、仕事に精神誠意取り組む
・後工程はお客さま、全体の調和を配慮し行動する
・意欲をもって、改善提案する

●品質管理の推進

アンリツは、品質マネジメントの国際規格であるISO9001に基づく品質保証体制のもと、製品の設計・開発から製造・サービス・保守に至るまでの一貫した体制をグローバルに展開しています。

▲ページ先頭へ戻る

Copyright© Anritsu Corporation

企業ブランドの確立

CSRホーム
CSR報告2011
トップコミットメント
CSRの考え方
アンリツのCSR達成像
CSRマネジメント
達成像1 安全・安心で快適な社会構築への貢献
達成像2 グローバル経済社会との調和
達成像3 地球環境保護の推進
達成像4 コミュニケーションの推進
2010年度の実績、2011年度の目標
事業概要
第三者意見 第三者意見を受けて
編集方針

バックナンバー
詳細（Web）
- 2010 日本語版 英語版
- 2009 日本語版 英語版

ダイジェスト（PDF）
- 2010 日本語版 英語版
- 2009 日本語版 英語版
- 2008年以前は こちら から

▶お客さまへのサービス ▶企業ブランドの確立 ▶社会的課題への積極的対応

企業ブランドの確立

アンリツは、オリジナル＆ハイレベルな商品とサービスによって皆さまの安全と安心を守り、事業活動を通じて社会的な課題へ積極的に対応します。

携帯電話端末のグローバルな普及に貢献

ラジオコミュニケーションアナライザ

携帯電話端末は、年間10億台を超える台数が生産され、世界人口の半数以上が利用しています。各国では、それぞれの事情に応じて種々の携帯電話通信システム*を採用しています。
このため、携帯電話端末製造市場では、既存から最先端の携帯電話通信システムまで対応できる計測器が必要となっています。
しかし、携帯電話通信システムごとに計測器を提供することは、お客さまの設備投資の負担となるとともに、省資源にも反します。
これに対してアンリツは、本体にオプションの測定ハードウェア・ソフトウェアを搭載することで動作できる計測器を商品化しています。このハードウェア・ソフトウェアは、さまざまな携帯電話通信システムで必要とされる測定機能を網羅し、お客さまの用途に応じて選択できる柔軟性・拡張性を有しています。
この計測器は多くの携帯電話端末メーカーの生産ラインに組み込まれ、お客さまの生産効率化と省資源化に寄与するとともに、携帯電話端末のグローバルな普及を支えています。

＊携帯電話通信システム：
世界で採用されている通信システムには、LTE、W-CDMA、CDMA2000、TD-SCDMA、GSM、などがあります。

LTEの商用サービス開始に貢献

LTE RFコンフォーマンス
テストシステム

LTEプロトコル
コンフォーマンステストシステム

LTE(Long Term Evolution)は、日本、アメリカ、欧州で開始された新たな情報通信サービスです。LTEは、携帯電話端末で光ファイバー並みの通信サービスを可能とする高速・大容量移動通信システムであり、遠隔医療、電子政府などへの活用も期待されています。
携帯電話端末メーカーがLTE携帯電話端末を商用化する際には、その端末が国際標準規格に適合しているという認証を取得する必要があります。この認証に使用されるのがアンリツの携帯電話端末認証テストシステムです。このテストシステムには、GCF*が定める全テストケース(試験項目)における80%の認証取得が求められています。
この条件を初めてクリアしたのがアンリツです。アンリツは、2010年4月に業界で初めて、テストケースのGCF認証を取得しました。その後も、開発を続け、2010年12月には、アメリカ、欧州で運用される周波数帯域において、競合メーカーに先駆け、80%のテストケースでGCF認証を取得しました。
LTEは世界各国の通信事業者が導入を計画しており、モバイルブロードバンドサービスの世界標準となることが期待されています。アンリツはその商用サービス開始を支えています。

＊GCF(Global Certification Forum)：
携帯電話端末のグローバルな相互接続性を保証するため、ネットワークでの運用基準や携帯電話端末の認証基準を定めている団体

国際標準の試験規格づくりで、LTEの実用化に貢献

通信事業者や端末メーカーを問わずつながる携帯電話。この利便性こそ、情報通信技術の価値となっています。ではなぜこうした通信が可能なのか。その答が「規格適合試験」です。次々と開発される携帯電話やスマートフォンといったネットワーク端末は、3GPP（第3世代携帯電話システムの国際標準化団体）が策定した国際標準の評価試験に合格することで、同一システム内での通信はもちろんのこと、異なるシステム間での相互接続が保証されています。 アンリツは、第3世代携帯電話システムの初期段階からこうした試験規格の策定に参加しています。この取り組みは、2010年末に日本やアメリカで商用サービスが開始される次世代高速無線通信システムLTE*（Long Term Evolution）でも継続。規格適合試験を策定しているワーキンググループの副議長を務めています。アンリツはこうした活動で蓄積してきた技術・ノウハウを活かし、LTE規格適合試験用ソリューションを供給しています。この試験システムによる試験で合格したLTE端末は3GPP規格を満たしていることが認定され、LTEサービスの実用化に貢献しています。

*LTE：
無線端末で光通信並みの高速・大容量通信を可能とする無線通信システム。世界各国の主要な通信事業者がLTEの導入を表明しており、無線通信システムの世界標準となることが見込まれている。

アンリツの計測器がAPEC会期中の電波監視を支援

2010年11月に第22回APEC閣僚会議及び第18回APEC首脳会議が、神奈川県横浜市で開催されました。これにともない、総務省関東総合通信局は、重要無線通信の妨害や混信など不測の事態が発生することに備え、横浜市内で移動監視チームによる24時間体制の電波監視を実施しました。この監視で使用されたのが、アンリツのコンパクトスペクトラムアナライザです。この計測器は小型・軽量であり、街頭を移動しながらの測定に最適であることから、関東総合通信局に採用され、APECの運営に貢献しました。

▶ ニュースリリース

海を超えたブロードバンド通信を支える“Only One”計測器

いつの時代も国際間の通信網として利用されていた海底ケーブル。インターネットの急激な普及にともないブロードバンド化が進み、現在では国際間の通信ネットワークの90%超が光ファイバとなっています。しかし、映像や動画、音楽、ゲームなどいわゆるリッチコンテンツが急激に普及している今日、インターネット上を行き来する情報量は増大の一途をたどり、2013年には、現在の約5倍となる年間667エクサバイト（1エクサバイトは、世界中で発行されている印刷物の情報量に相当）に達すると予測されています。このため、各国の通信関連企業は光海底ケーブルの新規敷設や増強に取り組んでいます。ときに1万キロ超におよぶ光海底ケーブルは、海底地震や地形のおうとつ、漁具などさまざまな要因で破損することがあり、迅速なトラブル対応が極めて重要です。その出発点となるのが障害箇所の探索ですが、これを可能とする計測器を提供しているのは世界でただ1社。アンリツだけです。アンリツは、長さ12,000kmの光海底 ケーブルの障害箇所を10m間隔で特定できる計測器を提供。陸上での障害点探査、補修後の品質確認などさまざまな場面で使用され、海底に張り巡らされた情報の道を支えています。

深海とのコミュニケーションを支える「はかる」技術

深海に眠るオイルや天然ガス。貴重なエネルギー資源として注目され、世界各国の海底で掘削施設が建設されていますが、万が一、事故が起こると環境への影響も懸念されます。これら施設の建設や保守には、遠隔操作ロボットが用いられています。深海で作業するロボットから高品質な現場映像や各種データを送る。海上の船からロボットへ正確な指令を送る。この情報経路となっているのが両者をつなぐ光ファイバです。光ファイバは折れたり、曲がったりすることで、信号品質が劣化しますが、被覆された光ファイバの障害点を見つけ出すのは、人間の目では不可能です。そこで、アンリツは簡単な操作で光ファイバの障害点を特定でき、持ち運びに便利な小型計測器を提供。深海と海上とをつなぐコミュニケーションの道づくりを通して、オイルやガス施設の安全で安心な運用に貢献しています。

世界最大のインターネットエクスチェンジを支えるアンリツの計測器

インターネットエクスチェンジ（IX）は、プロバイダー同士を高速回線で相互に接続するための設備やサービスを提供している団体です。オランダのAMS-IX（アムステルダム・インターネットエクスチェンジ）は、多数のプロバイダーに相互接続サービスを提供し、世界最大のデータトラフィック量を扱っています。
現在、情報通信分野では、クラウドコンピューティングや動画サービスが加速度的に普及し、データトラフィックは急増の一途をたどっています。こうした状況に対応するため、AMS-IXは、ブルーレイディスク1枚分のデータをわずか2秒で伝送できる100ギガビットネットワークの構築を進めています。この新たなネットワークの構築を支えているのが、アンリツの40/100Gイーサネットアナライザです。
AMS-IXはこのアナライザを利用して、100ギガビットネットワークの信頼性、性能を評価しています。

▶ ニュースリリース

高感度異物検出で、安全・安心な食品づくりに貢献

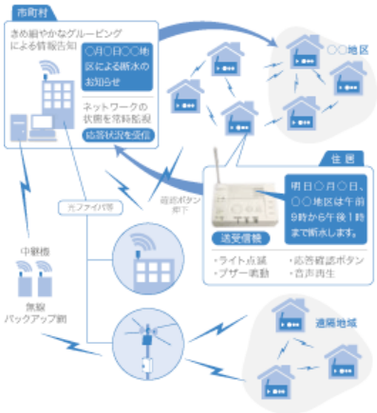
アンリツ産機システム㈱は、食品の生産工程で紛れ込む異物をX線で検出できるソリューションを提供しています。X線異物検出機で求められていることは、検出感度の向上です。アンリツ産機システムは、2000年にこの検出機を開発して以来、異物検出感度の向上に取り組んでいます。最新機種は、食品が重なり合っている部分や撮影画像の輝度が濃い部分の影響を抑制できる新技術を搭載しており、検出感度の大幅な向上を実現しています。たとえば、肉厚40ミリの鶏肉に1ミリの骨片が紛れ込んでいた場合、従来機種の検出感度は約7%にとどまっていましたが、この最新機種では100%の確率で検出できます。X線異物検出機市場に参入してから10年。アンリツ産機システム㈱の異物検出感度は業界最高水準を実現し、安全・安心な食品づくりに貢献しています。

サンプルテストサービス/技術セミナーの実施

アンリツ産機システム(株)では、各種検査機器をお客さまに納得した上で購入してもらいたいと考えています。その一環として実施しているのがサンプルテストです。サンプルテストでは、お客さまの商品サンプルを用いて検査します。
これにより、想定される検査感度や最適な検査条件を事前に確認でき、安心してご購入いただけます。また、検査機器をベストな状態で使用していただくためには、お客さまの使用条件に合わせて機器の設定を調節し、日々のメンテナンスを欠かさないことが重要です。そこで、各種の技術セミナーを開催し、製品の動作原理や使用方法から、品質管理に関する最新の技術動向までさまざまな情報を提供。お客さまの品質管理活動を総合的、多面的に支援しています。

防災/減災・防犯ネットワークの高度利用に向けて

日本各地で夕刻になると聞こえてくる「赤とんぼ」や「夕焼け小焼け」のメロディ。実はこのメロディは、市町村防災行政無線が故障していないことを確認するための試験としても流されています。市町村防災行政無線では、地震や台風など大規模災害発生時の避難勧告や退避命令、行方不明者の捜索協力依頼などが放送されますが、情報が一方通行であり、また地域によっては明瞭に聴き取れないといった難点があります。そこでアンリツネットワークス(株)は、株式会社NTTデータさまとの協業により、「減災コミュニケーションシステム」を開発しています。このシステムは、双方向通信を最大の特徴としており、災害発生時に緊急情報を地域住民の皆さまに伝達するとともに、被災者の安否も確認できます。また平常時には、休日当番医、断水のお知らせなどにも利用でき、より地域住民の皆さまに役立つ行政サービスの実現に貢献します。



社会インフラ企業の通信設備の信頼性確保を支援

鉄道や電力、ガス、通信会社などでは、拠点間通信の信頼性を確保するために、専用線を用いて堅牢な通信設備を構築しています。
こうした通信設備に組み込まれている伝送装置は旧来のアナログ方式となっています。アナログ伝送装置は導入から長期間が経過しているものが多く、更新時期に差し掛かっています。しかし、アナログ伝送装置はコストおよび使用部品の生産中止リスクなどの面で更新が進まないという問題を抱えていました。この問題解決につながるソリューションを提供しているのが、アンリツネットワークス㈱です。アンリツネットワークス㈱は、アナログ伝送装置に比べて低コストで、最大24回線のアナログ回線をIPネットワークに接続できる装置を開発しています。この装置をアナログ伝送装置の代わりに設置し、IPネットワークを介した通信環境を構築することにより、専用線設備の継続使用が可能となります。アンリツネットワークス㈱のソリューションは、社会インフラ企業の拠点間通信の信頼性確保を支援しています。

IPv6ネットワーク接続機能の評価を支援

IP通信機器の普及拡大にともない、日本では2011年5月にIPｖ4アドレスが枯渇しました。現在、通信事業者ではIPv6ネットワークの構築を進めています。ネットワークのIPv6化には、各種通信機器が、そのネットワーク上で正しく動作するかどうか検証する必要があります。IPv6ネットワークで検証が必要になるのは、スマートフォンなどの携帯端末やIP電話、AV機器、エアコンや冷蔵庫など多岐に渡ります。
IPネットワーク接続機能の検証では、複数のサーバ、通信機器などを実際に用意して試験環境を構築するのが一般的であり、高額な費用が発生していました。
この課題解決に貢献できるソリューションを開発しているのがアンリツエンジニアリング㈱です。アンリツエンジニアリング㈱は、IPv4に加えIPv6ネットワーク接続機能を評価できる「ネットワークエミュレータ」を提供しています。このソフトウェアを市販のパソコンにインストールすることによりIPv4/IPv6ネットワーク接続検証で必要とされる試験環境を構築できます。1台のパソコンで最大32台分のサーバやコンピュータ、通信機器の動作を模擬できることから、試験用機器の調達コスト削減や低消費電力化に貢献しています。

デジタル機器の小型化・高機能化を支える精密計測技術

手のひらサイズのボディにさまざまな機能を搭載した携帯電話。多機能化するデジタルカメラやデジタルTV、自動車の安全性やエネルギー効率向上を支える車載用基板。こうしたエレクトロニクス技術の進化は、わたしたちの生活に新たな価値をもたらしています。その一方、これらエレクトロニクス機器の心臓部となるプリント基板には電子部品が多数搭載され、微細な実装不良が製品品質に影響します。こうした高密度プリント基板の製造を支えているのが、アンリツ産機システム（株）の精密計測技術です。アンリツ産機システムは、高密度プリント基板に印刷されたクリームはんだの状態の良否を3次元で検査できる印刷はんだ検査機や電子部品の高さ、段差、幅、厚みなどの寸法やそり、うねりなどの形状を高精度に測定できる光マイクロ、白色干渉計を提供。通信端末や液晶ディスプレイ、カーエレクトロニクスなど広範な分野で技術革新を支えています。

HALT試験で電子機器の品質向上を支援

アンリツ計測器カストマサービス㈱は、電子機器のHALT試験サービスを提供しています。HALT試験は、電気回路や電子回路を搭載した機器が壊れるまで熱や振動を加えるものであり、「冷却」、「加熱」、「急速温度変化」、「振動」、そしてこれらを組み合わせた「複合」の5つのステップで行われます。
HALT試験を実施することにより、開発段階で不具合の芽を摘み取り、品質を高めることができます。アンリツ計測器カストマサービス㈱ではアンリツ製の計測器でHALT試験を実施しているとともに、社外のお客さまに試験サービスを提供しています。HALT試験は、日本では特に自動車業界で注目されています。
アンリツ計測器カストマサービス㈱は今後もHALT試験サービスを通して、電子機器の安全と安心に貢献いたします。

▲ページ先頭へ戻る

Copyright© Anritsu Corporation

社会的課題への積極的対応

CSRホーム
CSR報告2011
トップコミットメント
CSRの考え方
アンリツのCSR達成像
CSRマネジメント
達成像1 安全・安心で快適な社会構築への貢献
達成像2 グローバル経済社会との調和
達成像3 地球環境保護の推進
達成像4 コミュニケーションの推進
2010年度の実績、2011年度の目標
事業概要
第三者意見 第三者意見を受けて
編集方針

バックナンバー
詳細（Web）
- 2010 日本語版 英語版
- 2009 日本語版 英語版

ダイジェスト（PDF）
- 2010 日本語版 英語版
- 2009 日本語版 英語版
- 2008年以前は こちら から

▶お客さまへのサービス ▶企業ブランドの確立 ▶社会的課題への積極的対応

社会的課題への積極的対応

アンリツはグローバルな社会の要請に対して、事業を通じて積極的に対応していくことを重視しています。

国連グローバル・コンパクトへの賛同

2006年3月、アンリツはグループ全体のCSR活動をさらに定着させ、発展させるため、国連が提唱する「グローバル・コンパクト」に賛同しました。

●グローバル・コンパクト（GC）の原則と関連記事の対照表

アンリツが、2009年度に実施したCSR活動を国連グローバル・コンパクトが 掲げる10原則に照らして整理すると、以下のようになります。なお、2007年に行ったアンリツのGCへの報告は、「Notable COP（特筆すべき活動報告）」に 選定されました。

※グローバル・コンパクト（Global Compact）：人権、労働基準、環境および腐敗防止に関する10原則を支持する団体の集まりです。1999年1月に開かれた世界経済フォーラムにおいて、コフィー・アナン前国連事務総長が提唱し、2000年7月にニューヨークの国連本部で正式に発足しました。

グローバル・コンパクト10原則			2010年度の主な取り組み	該当ページ
共通		グローバル・コンパクト10原則全体	・昨年度に引き続き財務報告にかかわる内部統制システムの有効性を確認しました。 ・コンプライアンス推進施策として、[1]アンリツ行動規範の周知徹底、[2]階層別教育をはじめとする社内教育・啓発、[3]倫理アンケートを通したさまざまなリスクの回避、[4]社内外のヘルプラインによる社内の倫理法令違反の防止とより働きやすい職場環境をめざしています。	リスクマネジメントの推進 コンプライアンスの定着
人権	原則1	企業は、国際的に宣言されている人権の保護を支持、尊重し、	・職場における労働安全衛生を確保する活動を実施しました。 ・取引先さまに対して人権保護の法令遵守を依頼しました。	労働安全衛生 サプライチェーンマネジメント
	原則2	自らが人権侵害に加担しないよう確保すべきである。	・社員に対し倫理アンケートを通してハラスメントの実態を調査しました。 ・取引先さまに対して人権侵害に加担しないように依頼しました。	コンプライアンスの定着 サプライチェーンマネジメント
労働基準	原則3	企業は、組合結成の自由と団体交渉の権利の実効的な承認を支持し、	・ワークライフバランスを図るため、社員の要請に基づき労働環境の整備に努めています。	人権の尊重と多様性の推進
	原則4	あらゆる形態の強制労働の撤廃を支持し、	・取引先さまに対して強制労働への加担禁止を依頼しました。	サプライチェーンマネジメント
	原則5	児童労働の実効的な廃止を支持し、	・取引先さまに対して児童労働への加担禁止を依頼しました。	サプライチェーンマネジメント
	原則6	雇用と職業における差別の撤廃を支持すべきである。	・採用のボーダレス化を進めました。	人権の尊重と多様性の推進
環境	原則7	企業は、環境上の課題に対する予防原則的アプローチを支持し、	・エコファクトリーおよびエコオフィスの活動を推進しました。 ・環境会計を継続的に実施しました。	エコオフィス、エコファクトリー 環境会計(2010年度)
	原則8	環境に関するより大きな責任を率先して引き受け、	・環境経営についてコミットしました。 ・エコマインドの活動を推進しました。 ・地球温暖化防止の取り組みを推進しました。	エコマネジメント、エコマインド エコマネジメント、エコマインド

				エコオフィス、エコファクトリー
	原則9	環境に優しい技術の開発と普及を奨励すべきである。	・環境配慮型製品の開発を促進しました。	エコプロダクツ開発
腐敗防止	原則10	企業は、強要と贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗の防止に取り組むべきである。	・ケーススタディシート発行により、社員を啓発しました。 ・取引先さまへの「お願い事項」に“反社会勢力との取引の禁止”を明記し周知・徹底を図りました。	コンプライアンスの定着 サプライチェーンマネジメント

▲ページ先頭へ戻る

Copyright© Anritsu Corporation

達成像2 グローバル経済社会との調和

CSRホーム
CSR報告2011
トップコミットメント
CSRの考え方
アンリツのCSR達成像
CSRマネジメント
達成像1 安全・安心で快適な社会構築への貢献
達成像2 グローバル経済社会との調和
達成像3 地球環境保護の推進
達成像4 コミュニケーションの推進
2010年度の実績、2011年度の目標
事業概要
第三者意見 第三者意見を受けて
編集方針

バックナンバー

詳細（Web）
- 2010 日本語版 英語版
- 2009 日本語版 英語版

ダイジェスト（PDF）
- 2010 日本語版 英語版
- 2009 日本語版 英語版
- 2008年以前は こちら から

達成像2 グローバル経済社会との調和

コンプライアンスの定着

MORE

倫理・法令を遵守した健全な企業行動推進のため、企業倫理・コンプライアンス推進体制を構築・整備し、倫理意識の向上を促進するさまざまな施策を継続的に実施しています。

リスクマネジメントの推進

MORE

リスクごとのリスク管理責任者の明確化、リスク分析評価の実施、規則・ガイドラインの制定、教育研修などリスク管理レベルの向上と事業の継続発展を確保しています。

サプライチェーンマネジメント

MORE

取引先さまとの信頼関係を強化し、お互いの成長につなげていくことが重要と考え、サプライチェーン全体で社会の期待・要請に応えていくことを重視しています。

人権の尊重と多様性の推進

MORE

人材の採用や組織内のコミュニケーション活性化の観点からも、多様な人材が働きやすい制度・職場環境の整備を重視しています。

人材育成

MORE

社員が成長実感を得られる組織になっていくことが重要と考え、社員が仕事を通じて成長できる環境づくりを継続的に進めています。

労働安全衛生

MORE

社員尊重の立場から『安全第一』と『健康保持増進』を安全衛生活動の基本理念とし、快適職場の維持に努めています。

社会貢献活動の推進

MORE

『青少年教育との連携』、『地域社会への貢献』、『環境推進活動』の3つを柱とした地域密着型の社会貢献活動を軸に、社員が主体的に参画できる活動を継続的に展開しています。

▲ページ先頭へ戻る

Copyright© Anritsu Corporation

コンプライアンスの定着

CSRホーム
CSR報告2011
トップコミットメント
CSRの考え方
アンリツのCSR達成像
CSRマネジメント
達成像1 安全・安心で快適な社会構築への貢献
達成像2 グローバル経済社会との調和
達成像3 地球環境保護の推進
達成像4 コミュニケーションの推進
2010年度の実績、2011年度の目標
事業概要
第三者意見 第三者意見を受けて
編集方針

バックナンバー
詳細（Web）
- 2010 日本語版 英語版
- 2009 日本語版 英語版

ダイジェスト（PDF）
- 2010 日本語版 英語版
- 2009 日本語版 英語版
- 2008年以前は こちら から

コンプライアンスの定着

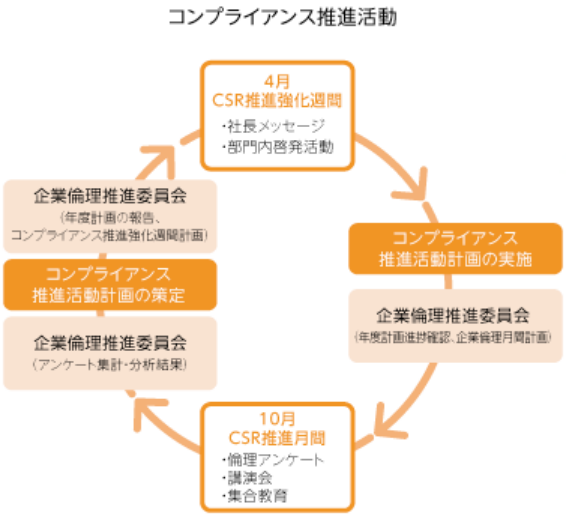
コンプライアンス推進の考え方

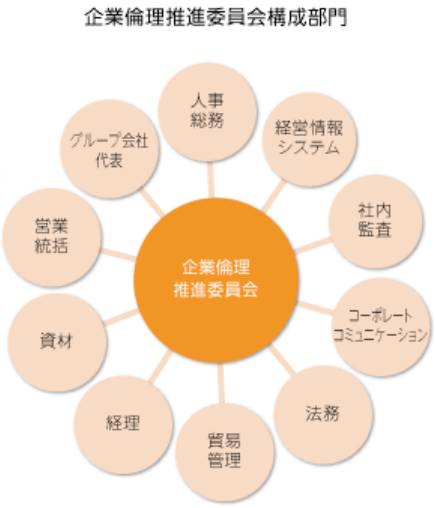
倫理・法令遵守はもちろん、社会要請に適応した健全で誠実な企業行動を推進するため、企業倫理・コンプライアンス推進体制を構築・整備し、社員などの倫理意識を向上させるためのさまざまな施策を継続的に実施しています。

コンプライアンス推進体制と推進活動

●企業倫理委員会と継続的な改善活動（年間活動）

国内アンリツグループでは、コンプライアンス推進体制として各企業倫理関係部門とグループ会社の代表で構成される企業倫理推進委員会を設置し、国内アンリツグループのコンプライアンス推進活動を企画・支援・実施しています。特に、10月の「CSR推進月間」に実施する企業倫理アンケート結果を分析・考察し、年間の活動計画を策定、計画の実施確認、アンケートによる効果の確認を一年周期で行い、コンプライアンス活動の継続的な改善を図っています。





●二つの推進イベント

4月上旬に「CSR推進強化週間」を設定、10月を「CSR推進月間」に設定し、外部講師による講演会、企業倫理推進委員部門による研修や専門教育、国内アンリツグループの社員、派遣社員などを対象にした倫理アンケートなどを実施しています。

- 階層別教育（新入社員・新任幹部職など）
- 各委員会・部門による個別・専門教育
- 外部講師による講演会（年1～2回）
- ビデオ・DVDの貸出、上映
- 企業倫理アンケート ※注

講演会風景

集合教育風景

※注：コンプライアンス推進活動の有効性の確認や、各組織での課題を抽出し改善していくため、国内アンリツグループの社員、派遣社員、協力会社社員、取引先さまなど社内外を対象にした企業倫理アンケートを実施しています。アンケートから分析・考察・検討された結果は、各組織の経営者へフィードバックされ、今後のコンプライアンス推進活動計画の策定などに活かされます。

●アンリツグループ行動規範・ケーススタディシートの発行

・アンリツグループ行動規範改版

会社を取り巻く社会環境の変化、法令改正、現行行動規範のグローバル化に対応するため、アンリツグループ内で業務に従事するすべての人が日頃とるべき行動指針である「アンリツグループ行動規範」を改版しました。規範の周知のために、今回は「アンリツグループ行動規範」の概要として日本語、英語、中国語に訳した「アンリツグループの一員としての心得」を作成し、国内外のグループ全社員へ配布しています。

「アンリツ心得」／日本語、英語、中国語

・ケーススタディシート（事例集）

日頃の生活や業務のなかで発生した、あるいは発生する可能性のある具体的事例を、毎月2テーマ選び、注意すべきポイントや解説を簡潔に記したケーススタディシート（事例集）を発行しています。イントラネットへの掲載と社内へのポスター掲示を行い、各組織の教育啓発ツールとして活用しています。2011年3月現在で118例を発行済みです。

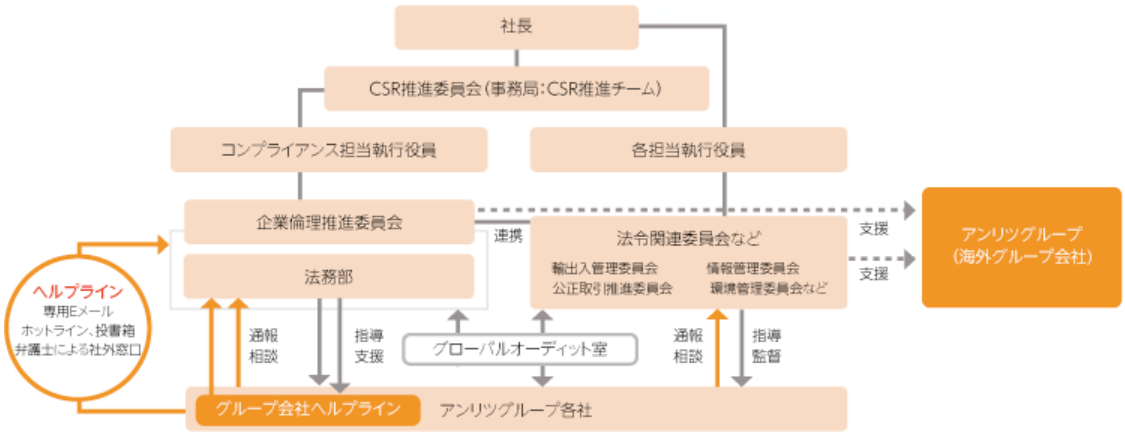
●独占禁止法など遵守内部監査

公正で自由な営業活動および取引が行われていることを確認するため、営業部門（地方拠点含む）を対象に営業活動状況・受注販売プロセスの内部監査（年1回）を実施しています。同時に、独占禁止法・下請法の教育も実施しています。

●ヘルプライン

社内の倫理法令違反の未然防止、より働きやすい職場環境づくりを目指して、内部からの報告・通報・相談を受け付ける『ヘルプライン』と、社外窓口（弁護士・カウンセラー）を設けています。また、社内の問題だけでなく、生活全般の相談を受け付ける法律相談日（月2回）を設けています。

●企業倫理・コンプライアンス推進体制



▲ページ先頭へ戻る

Copyright© Anritsu Corporation

リスクマネジメントの推進

CSRホーム
CSR報告2011
トップコミットメント
CSRの考え方
アンリツのCSR達成像
CSRマネジメント
達成像1
安全・安心で快適な社会構築への貢献
達成像2
グローバル経済社会との調和
達成像3
地球環境保護の推進
達成像4
コミュニケーションの推進
2010年度の実績、2011年度の目標
事業概要
第三者意見
第三者意見を受けて
編集方針

バックナンバー
詳細（Web）
2010 日本語版 英語版
2009 日本語版 英語版
ダイジェスト（PDF）
2010 日本語版 英語版
2009 日本語版 英語版
2008年以前は こちら から

▶コンプライアンスの定着 ▶リスクマネジメントの推進 ▶サプライチェーンマネジメント ▶人権の尊重と多様性の推進
▶人材育成 ▶労働安全衛生 ▶社会貢献活動の推進

リスクマネジメントの推進

アンリツは、主要リスクを（1）経営の意思決定と業務の執行に係るリスク、（2）法令違反リスク、（3）環境保全リスク、（4）製品・サービスの品質リスク、（5）輸出入管理リスク、（6）情報セキュリティリスク、（7）災害リスクであると認識しており、リスクごとにリスク管理責任者を明確にして、リスクの分析評価を行うとともに、規則・ガイドラインの制定、教育研修の実施などリスク管理レベルの向上と事業の継続発展を確保しています。

内部統制を通した企業価値の向上

●基本的な考え方・基本方針

アンリツは、事業をグローバルに展開していくうえで、目標達成の阻害要因（リスク）を適切にコントロールし、競争優位の源泉に変えていくことが重要と考えています。このため、内部統制システムの整備により確立した国内外のグループ会社との連携をさらに強化し、リスクマネジメントシステムを高度化することで、企業価値の向上につながる取り組みへとステップアップさせていくことを目指しています。

●活動体制・マネジメント体制

アンリツは、内部統制システム基本規程を制定し、社長が任命した執行役員を委員長とした内部統制委員会を置き、アンリツおよびアンリツグループ各社の財務報告に係る内部統制の整備と運用の推進活動を統括しています。また、内部監査部門であるグローバルオーディット室を中心に、業務監査などを通じたリスクマネジメントの推進活動を行っています。2011年度からは、ISO推進・監査チームをグローバルオーディット室に統合し、全社挙げてのリスクマネジメントシステム（Enterprise Risk Management）の強化を目指し、監査の一元化、深化などにより効率的な活動を計画しております。

●2010年度の具体的な活動・トピック

2010年度は、内部監査部門を中心に、国内ではリスクマネジメント推進WGの発足、リスクアプローチによる監査の導入、海外では欧州での内部統制評価体制の拡充などにより、グローバルなリスクマネジメント体制の強化を行いました。また、評価プロセスにおいて発見された不備は適切な改善措置を行い、2011年3月期の全社的な経営理念や倫理観、会計方針や手続きの統制、IT基盤の統制、財務報告に関連する業務プロセスにおける統制について、国内外の子会社も含めたアンリツグループの統制状況は、前年度に引き続き有効との評価を監査法人から得ました。

情報セキュリティ管理

●基本的な考え方

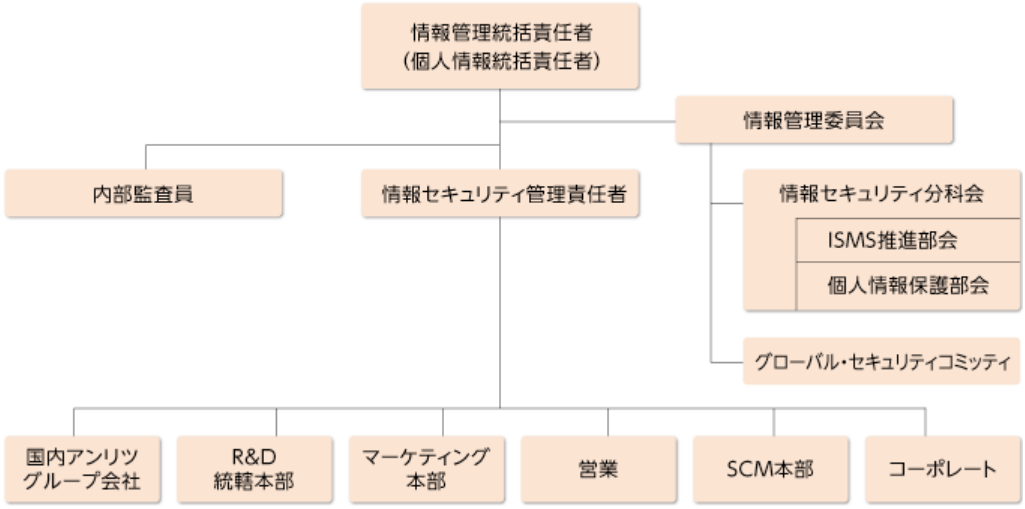
アンリツは、事業活動を行ううえで、すべての関係者の情報を適切に保護することが社会的責務であると考えています。さらに、情報資産がアンリツおよびすべての関係者にとって重要な財産であるとの認識のもと情報管理基本方針を定め、情報セキュリティの維持・向上への取り組みを継続的に実施しています。

情報管理基本方針

アンリツグループ（以下「アンリツ」といいます。）は、誠と和と意欲をもって、“オリジナル＆ハイレベル”な商品とサービスを提供する事業活動を行ううえで、顧客、株主・投資家、取引先、従業員などすべての関係者の情報を適切に保護することが社会的責務であり、また情報資産がアンリツおよびすべての関係者にとって重要な財産であると認識しています。アンリツは、ここに情報管理基本方針を定め、情報資産を適切に取扱い、その保護に万全を尽くすことを宣言します。

1. 情報資産、情報管理に関する法令その他社会的規範を遵守します。
2. 情報管理体制を構築し、情報資産の適切な管理に努めます。
3. 情報管理の具体的な手続・ルールを示す社内諸規程を整備・実施します。
4. 情報管理を周知徹底させるため、役員・従業員などに対し、必要な教育・啓発を行います。
5. 情報資産を保護するために、適切な人的・組織的・物理的・技術的施策を講じます。
6. 情報資産の保護に関する不測の事態に対し、被害を最小限にとどめるよう迅速に対応します。
7. 以上の情報管理活動を定期的、継続的に見直し、改善に努めます。

管理体制



●2010年度主な活動実績

1.グローバルなIT統制の推進
アンリツでは2010年度から欧州地域の主要拠点であるイギリスをIT統制の評価範囲に新規に加え、計6グループ（アンリツ（株）、アンリツ産機システム（株）、アンリツネットワークス（株）、アンリツ・カンパニー（アメリカ）、アンリツ・エメア・リミテッド（イギリス）、アンリツ・カンパニー・リミテッド（中国））で取り組みを行っています。IT評価においてはアンリツ（株）のITグループが中心となり、統一された基準によるチェックシートを作成したうえで、各グループ会社のIT管理・運用状況などをチェックし、検出された課題を改善することでグローバルなITプロセスの標準化を推進しています。

2.グローバルなWebセキュリティポリシーによる運用改善
アンリツグループでは2009年度、インターネットWebサイトのセキュリティや管理の向上を図るために、各国で運営していたサイトを一つのサイトに統合しました。2010年度は、Webサイトのコンテンツの充実を目指すとともに、より一層のセキュリティ向上を図るために、外部専門業者によるサイトの脆弱性テストを実施しました。その結果をもとにセキュリティ上の脆弱性改善に努め、Webサイトが潜在的に抱えている改ざんやウィルス感染などのリスクの低減を行いました。

3.販売促進用機器などにおけるウィルス対策
アンリツは、お客さまに販売促進用機器などを貸し出す際、必ずウィルスチェックを行っていますが、“お客さまのご利用時における内部での感染”や“ウィルスチェックに時間を要することでタイムリーに貸し出すことができない”など、課題を抱えていました。これらの課題に対応するため、新たなテクノロジーによるセキュリティ対策ツール（ホワイトリスト方式* による感染防止）の導入を試みました。約半年間に及ぶ検討と試験を重ね、ようやく本格的な導入にこぎつけることができました。本ツールは既に数十台の販売促進用機器に搭載され、効果を上げています。
* ホワイトリスト方式：許可されたプログラムをあらかじめリスト化し、プログラムが動作するときに照合する方式

4.サーバ統合による可用性向上とグリーンITの実現
数年前からサーバ仮想化技術を活用したサーバ統合を進め効果をあげてきましたが、グループ全体での有効活用を目指して社内クラウドサービス[*1] を開始しました。システム部門やユーザ部門の新規システム構築においては、このクラウドを利用することで、新たなハードウェアの購入をすることなく、短期間でサービスが開始できるようになりました。また老朽化したサーバも順次、移設を行い、グリーンIT[*2] を実践しています。
*1 社内クラウドサービス：統合された社内サーバを活用してシステムを構築するサービス
*2 グリーンIT：ITそのものの環境負荷低減、IT活用による環境負荷低減

5.社員教育・啓発活動の推進
毎年10月に実施されるCSR推進月間において、2010年度も、セキュリティに関する社員向け教育を実施しました。今年は、情報漏えいをテーマとしたドラマ仕立てのビデオを全社員が鑑賞した後、部門ごとに内容について話しあってもらうことを通じて、情報セキュリティの重要性への再認識を促しました。また、年1回の内部情報管理監査を実施することで各部門の情報管理体制の見直しを図っています。

▲ページ先頭へ戻る

Copyright© Anritsu Corporation

サプライチェーンマネジメント

CSRホーム
CSR報告2011
トップコミットメント
CSRの考え方
アンリツのCSR達成像
CSRマネジメント
達成像1
安全・安心で快適な社会構築への貢献
達成像2
グローバル経済社会との調和
達成像3
地球環境保護の推進
達成像4
コミュニケーションの推進
2010年度の実績、
2011年度の目標
事業概要
第三者意見
第三者意見を受けて
編集方針

バックナンバー
詳細（Web）
2010 日本語版 英語版
2009 日本語版 英語版
ダイジェスト（PDF）
2010 日本語版 英語版
2009 日本語版 英語版
2008年以前は こちら から

▶コンプライアンスの定着 ▶リスクマネジメントの推進 ▶サプライチェーンマネジメント ▶人権の尊重と多様性の推進
▶人材育成 ▶労働安全衛生 ▶社会貢献活動の推進

サプライチェーンマネジメント

基本的な考え方

取引先さまとの信頼関係を強化し、お互いの成長につなげていくことが重要と考えています。取引先さまにさまざまな活動に参画いただき、より強固なパートナーシップを構築していくこと、さらにサプライチェーン全体で社会の期待・要請に応えていくことを重視しています。

取引先さまへのはたらきかけ

●アンリツ資材調達基本方針および取引先さまへのお願い事項

アンリツでは、今後社会的責任を果たしていくには、グループ内だけでなく取引先さまも含めたサプライチェーン全体で活動を展開する必要があると考えています。2006年1月に「資材調達基本方針」を改訂し、さらに取引上において取引先さまにお願いすべき事項についても明確に定め、2007年度は、国内外におけるグループ会社調達拠点での共通した「方針およびお願い事項」として統一化を進め、2009年度には「資材調達基本方針」に、“環境への配慮”を新たに追加しました。

●資材調達基本方針

1. 取引先さまの選定
   公平かつ公正な考え方で、国内外を問わず常に新しい取引先さまに広く門戸を開放し、品質・価格・納期、環境対応などを重点に、適正な基準でかつ客観的な立場で取引先さまを選定します。
2. パートナーシップ
   すべての取引先さまとは健全な取引を通じて相互に利益のある協力的な関係を築くことを前提としています。
3. 法遵守、機密保持
   取引にあたっては、関係する諸法規を遵守します。また取引を通じて、取引先さまから得た情報を、承諾なしに第三者に公開いたしません。
4. 倫理概念に基づいた行動
   調達業務にあたる者は、取引先さまと個人的な利害関係を持つことなく常に公明正大な業務の遂行を図り、取引先さまとの健全な関係を持ち続けることを基本においています。
5. 人権と労働への配慮
   当社は人権を尊重し、労働衛生と安全確保に取り組んでおります。取引先さまにもご賛同いただき、サプライチェーンとして、推進します。若年労働者の使用や人種、性別による差別など人権上の問題があれば、取引を見直すこともあります。
6. 環境への配慮
   当社は「グリーン調達ガイドライン」を定め、環境に配慮された部材や材料を調達するグリーン調達を推進します。

●お願い事項

1. 法令・社会規範の遵守
   関連法規などの遵守、児童労働、強制労働、低賃金労働の禁止、差別の禁止、反社会勢力との取引の禁止
2. 環境への配慮
   弊社グリーン調達ガイドライン、環境要求伝達事項などに沿った環境対応の実現
3. 優良な品質の確保、適正価格での提供、確実な納期遵守
4. 機密情報の漏洩防止および知的財産の尊重
5. 不測の事態への迅速な対応とタイムリーかつ的確な情報開示

アンリツ（株）では、サプライチェーンを機軸としたCSR活動の展開が必要であることから、予算説明会や担当執行役員名でのお願い通知などを通じ、取引先さまに対して、上述した「資材調達基本方針」および「お願い事項」を理解･周知していただくことに努めています。2009年度に、取引先さまへの品質および環境監査の中に、CSRに関する内容を追加した監査を開始、さらに2010年度には“資材調達基本方針”をより具体化した「**CSR調達ガイドライン**」を制定し、CSRの構築に向けた環境・体制の整備を進めています。今後、取引先さまに「CSR調達ガイドライン」を基本としたセルフチェックを行っていただき、より良いサプライチェーンを構築していくための活動に活用させていただく予定です。

BCP（事業継続計画）への取り組み

SCM（サプライチェーンマネジメント）本部では、主にサプライチェーンのBCPについて、災害・事故を想定して、組織体制や重要業務の抽出、リスクと被害の想定などを盛り込み、神奈川県厚木市のアンリツ（株）と福島県郡山市にある郡山事業所および東北アンリツ（株）が連携する計画を策定しています。
昨年度、弊社郡山事業所は東日本大震災により建屋の一部被災と、ライフラインの途絶を経験しました。今後、この経験を生かし、よりスピーディで効果的な対応の実現に向けて、体制の構築と訓練を実施する予定です。

共に持続可能な社会を構築するパートナーとして

株式会社マクニカ
ストラテジックソリューションセールス部 営業１課
沼谷 友輔 様

電子部品などの納入を通じて、アンリツさまとは30年以上のお取引があります。2010年度に発行された「アンリツグループCSR調達ガイドライン」が、これまでのCSR観点の指針「資材調達基本方針」、「お願い事項」に加わったことは、今まで以上に社会からの要請が強くなってきている現われだと理解しています。私たちマクニカもサプライチェーンの一端を担う立場として、法令遵守はもとより企業活動を通じて社会的責任を実現すべく、より積極的に取り組んでいます。
サプライヤーの提案がビジネス改善につながるパートナーQU制度は、強固なパートナーシップを築くためにとても有効な制度であり、弊社も意欲的に活用しています。ここで築いた関係をもとに、単なるサプライチェーンの一員としてだけでなく、共に持続可能な社会を構築するパートナーとして、安全・安心で快適な「より良い商品」と「より良いサービス」を提供していきたいと考えています。

＜関連ページ＞

- サプライチェーンマネジメントの推進

▲ページ先頭へ戻る

Copyright© Anritsu Corporation

人権の尊重と多様性の推進

CSRホーム
CSR報告2011
トップコミットメント
CSRの考え方
アンリツのCSR達成像
CSRマネジメント
達成像1
安全・安心で快適な社会構築への貢献
達成像2
グローバル経済社会との調和
達成像3
地球環境保護の推進
達成像4
コミュニケーションの推進
2010年度の実績、
2011年度の目標
事業概要
第三者意見
第三者意見を受けて
編集方針

バックナンバー
詳細（Web）
- 2010 日本語版 英語版
- 2009 日本語版 英語版

ダイジェスト（PDF）
- 2010 日本語版 英語版
- 2009 日本語版 英語版
- 2008年以前は こちら から

人権の尊重と多様性の推進

●基本的な考え方

グローバルな事業展開および働き方の多様化に伴い、人権の尊重と多様性に配慮した働きやすい職場づくりの推進はますます重要になっています。人材の採用や組織内のコミュニケーション活性化の観点からも、多様な人材が働きやすい制度・職場環境の整備を重視しています。

●人権啓発活動の状況および今後の予定

人権啓発については、階層別研修やCSR推進月間、CSR推進強化週間の取り組みなどを通じて、日常注意が必要な差別問題、セクハラ・パワハラ問題などに関する社内外の状況を理解し、職場でのコミュニケーションの改善に努める活動を行いました。
また、2010年11月に発行した「アンリツグループCSR調達ガイドライン」に、“強制的な労働の廃止”、“非人道的な扱いの禁止”、“児童労働の禁止”、“差別の禁止”の項目を掲載し、サプライチェーン全体で人権尊重への取り組みを進めています。

●障がい者雇用状況の推移

2010年度は、雇用率が1.98％（2010年12月末）と大幅に改善し、法定雇用率を達成することができました。この状況を維持・促進できるよう、2011年度も引き続き地道な採用活動を継続し、障がい者と職場が相互に協力して能力を発揮できる職域を開拓し、障がい者がより働きやすい職場づくりを目指します。

障がい者雇用の推移

	2008/12	2009/12	2010/12
目標雇用率（単独）	1.80%	1.80%	1.80%
実績雇用率（単独）	1.59%	1.76%	1.98%
参考：実績雇用率（国内連結）	1.44%	1.37%	1.50%

●社員データ

アンリツ（株）社員データ：各年度とも3月末時点（例：2010年度=2011年3月末時点）

アンリツ（株）社員データ

		2008年度	2009年度	2010年度
社員数 （ ）は幹部職数で内数	男性	745（167）	719（171）	711（165）
	女性	128（5）	112（5）	114（4）
	計	873（172）	831（176）	825（169）
平均年齢	男性	40.4	40.1	41.0
	女性	34.8	35.8	36.4
	計	39.6	39.5	40.3
平均勤続年数	男性	16.6	16.4	17.4
	女性	12	13.3	13.8
	計	15.9	15.9	16.9
年間所定労働時間数		1,860.00	1,860.00	1,875.50
平均年次休暇取得日数		14.1	11.2	14.6
育児休職取得者数		14	11	6
雇用延長者数 （定年到達者の継続雇用）	対象者数	30	16	19
	延長者数	14	5	11

グローバルにみた女性の活躍状況

		日本	米州	EMEA	アジア他	グローバル計
全社員に占める女性社員の比率（女性社員数/全社員数）	2010年度	14%	32%	23%	29%	23%
	2009年度	13%	31%	22%	31%	23%
男性を100とした女性の幹部職登用率（（女性幹部職数/女性社員数）/（男性幹部職数/男性社員数））	2010年度	12%	64%	64%	44%	48%
	2009年度	19%	64%	74%	33%	50%

●両立支援の状況

4カ年計画を遂行し、不足している制度の充実を図っていきます。

アンリツ（株）第2期次世代育成支援行動計画　計画期間（2008.4.1 ～2012.3.31）

目標	対策
男女共同参画の観点から、育児休職を希望する社員が、男女ともに安心して育児参画できる環境を整備する。	「育児休職制度の拡充」など
一時的な保育への支援として、育児サービス利用者に対する利用料補助制度を拡充する。	「自治体のファミリーサポートセンター利用者に対する利用料補助の実施」
仕事と育児の両立がより一層図れるように、両立支援関連制度の周知および社員への理解促進を行う。	「育児関連諸制度のガイドブックの作成・配布」など

●採用のボーダレス化

アンリツ（株）と国内グループ会社では、海外における大学主催のジョブフェア* への参加や日本国内における留学生の採用など、国籍にこだわらない採用を推進し、2010年12月末時点で29名の外国籍社員が日本国内の職場で働いています。
* ジョブフェア：求職者と複数企業の情報交換、相互理解の場

●社員とのコミュニケーション活性化

社員満足度調査を通して、会社の方向性への理解、会社の諸制度、職場のコミュニケーション、仕事のやりがいなどを把握しています。2010年度もアメリカ、ヨーロッパ、アジアパシフィック、日本で実施し、各地域での課題抽出、改善計画の立案・実行を進めています。この他に、橋本社長が自身の言葉で全グループ社員に発信するコミュニケーションサイト「Web社長室」の拡充、および橋本社長、経営層トップによるアジア、欧州、アメリカ各地のグループ会社訪問を実施しました。また、社員表彰では、社長が現場に出向き表彰を行うなど、経営トップと社員のコミュニケーション活性化を推進しています。

●東日本大震災での初動対応

地震発生後、本社では橋本社長を本部長とする危機対策本部を立ち上げ、福島県郡山市にあるアンリツ（株）郡山事業所・東北アンリツ（株）の現地対策本部と連携し、全社員の安否確認に全力を挙げました。また被災地支援と並行して、郡山事業所、東北アンリツ（株）および宮城県仙台市に拠点を置くアンリツ（株）、アンリツ産機システム（株）、アンリツネットワークス（株）の支店、営業所の社員、家族への生活物資の緊急配送を実施しました。

▲ページ先頭へ戻る

Copyright© Anritsu Corporation

人材育成

CSRホーム
CSR報告2011
トップコミットメント
CSRの考え方
アンリツのCSR達成像
CSRマネジメント
達成像1 安全・安心で快適な社会構築への貢献
達成像2 グローバル経済社会との調和
達成像3 地球環境保護の推進
達成像4 コミュニケーションの推進
2010年度の実績、2011年度の目標
事業概要
第三者意見 第三者意見を受けて
編集方針

バックナンバー
詳細（Web）
- 2010 日本語版 英語版
- 2009 日本語版 英語版

ダイジェスト（PDF）
- 2010 日本語版 英語版
- 2009 日本語版 英語版
- 2008年以前は こちら から

人材育成

基本的な考え方

アンリツは、社員が成長実感を得られる組織になっていくことが重要と考えています。社員が仕事を通じて成長できる環境づくりを継続的に進めています。

教育・研修制度

アンリツ(株)は、OJT（On the Job Training: 実務を通じた教育・訓練）を柱に、社員一人ひとりが自分のやりたい仕事、活躍したい分野を考え、その実現を目指した能力開発への取り組みをサポートしています。新入社員研修、階層別研修、通信教育、語学研修などでは、国内アンリツグループで共通のプログラムを採用し、グループ社員全体のレベルアップを支援しています。

アンリツ(株)教育・研修体系

	マネージャー	中堅・リーダー	新人
基幹人材育成	経営者育成研修 マネジメント研修 新任マネージャー研修	マネージャー養成研修 リーダー研修	新入社員フォロー研修 新入社員教育

	技術者教育	営業教育
職種別専門教育	電気・電子／光技術／信号処理／FPGA／通信・ネットワーク／プロジェクトマネジメント／生産・品質／プロセス改善／知的財産	ビジネスマナー／営業実務／法令関連／顧客対応力向上／マーケティング／製品知識／営業マネジメント

	自己啓発支援	キャリア形成支援	グローバル人材育成
その他	通信教育 E-Learning 外国語会話	キャリアデザイン研修 ライフプラン研修 自己申告制度 社内人材公募制度	Global Employee Exchange Program 異文化コミュニケーション

グローバル人材育成

アンリツでは、異なる言語、文化、価値観とともに幅広い視野を習得し、グローバルに活躍できる人材を育成するために、長期、短期のプログラムを実施しています。

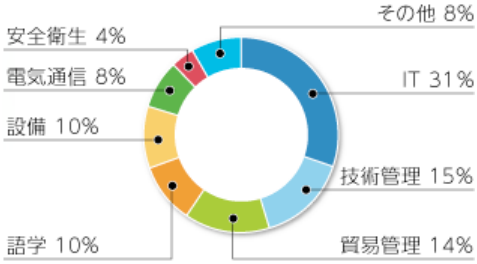
相手の尊重から始まる信頼関係

アンリツ株式会社
資材部 アンリツ・カンパニー（アメリカ）駐在
宮窪 康守

アンリツ・カンパニー(アメリカ)へ駐在してから4年が過ぎました。私の主な業務は、バイヤーとして、アメリカの取引先さまとの交渉、米国市場での価格調査およびアンリツ・カンパニーのバイヤーと協業しての調達活動、情報交換などです。多くの人の支えで、仕事をできたことに感謝しています。アメリカ人へのお願いの仕方、仕事の進め方、文化、考え方、育った環境の違いなどがありますので、現地の慣習を一つずつ経験して、体や感覚で覚えることを大事にしています。「郷に入れば郷に従え」という言葉通り、現地の皆さんと一緒に仕事を進めるよう心がけ、日本で経験してきた考えを織り交ぜつつ、よりよい方向へ進んでいけるように日々取り組んでいます。直接会って話をし、相手の意見を尊重し、お互いが妥協しつつも納得できる方向性を見つけて、信頼関係を強めていくように努めています。残りの駐在期間も、自分を成長させるために多くの経験を積み、公私ともにエキサイティングな日々を過ごせるようにしていきたいと考えています。

表彰制度による業務に役立つ資格取得の推進

アンリツには、“ハイパフォーマー賞”という社員表彰制度があります。この制度は、著名な学会での研究発表や、ボランティア、スポーツなどによる会社のブランドイメージ向上の他に、業務に役立つ資格を取得した社員を表彰するプログラムです。過去4年間で合計144名の社員が自らの努力で業務に役立つ資格を取得しました。
2009年度に見直した新しい全グループ会社の表彰制度を2010年度から実施しました。このような表彰制度と通信教育などの自己啓発プログラムによって、社員が自ら知識を高める環境の整備を進めています。



▲ページ先頭へ戻る

Copyright© Anritsu Corporation

労働安全衛生

CSRホーム
CSR報告2011
トップコミットメント
CSRの考え方
アンリツのCSR達成像
CSRマネジメント
達成像1 安全・安心で快適な社会構築への貢献
達成像2 グローバル経済社会との調和
達成像3 地球環境保護の推進
達成像4 コミュニケーションの推進
2010年度の実績、2011年度の目標
事業概要
第三者意見 第三者意見を受けて
編集方針

バックナンバー
詳細（Web）
- 2010 日本語版 英語版
- 2009 日本語版 英語版

ダイジェスト（PDF）
- 2010 日本語版 英語版
- 2009 日本語版 英語版
- 2008年以前は こちら から

労働安全衛生

基本的な考え方

アンリツは、「従業員の尊重」の企業行動指針のもと、社員一人ひとりが、その資質を最大限に発揮できるよう、社員の安全と健康を確保し、快適で働きやすい職場づくりを進めていくことが重要と考えています。

安全衛生・健康管理体制

国内アンリツグループでは、労働安全衛生法に基づく安全衛生管理体制を確立しています。また、アンリツ（株）に設置している健康管理室に所属する産業医、産業カウンセラーを中心とする産業保健スタッフが、グループ社員の健康確保に向けた支援活動を行っています。

2010年度の具体的な活動・トピックス

●安全衛生・健康管理の主な取り組み

- 安全衛生委員会での活動状況の確認や災害防止策の立案
- 機械設備の導入・移動・変更時および化学物質購入時の事前審査による災害リスク低減
- 階層別教育やリスクアセスメントなどの目的別研修を通した安全衛生意識の高揚
- 作業環境測定や職場巡視による安全・安心で快適な職場づくり
- 健康診断（定期、特殊、雇入時、海外派遣者）の実施とフォローアップ
- 長時間残業者の問診票によるスクリーニングと産業医面談および健康確保措置の実施
- 生活習慣病予防を目的とする産業医講演会などの健康啓発活動
- メンタルヘルスケアを目的とする幹部層向け教育・カウンセリング

メンタルヘルス講演会

●労働災害発生状況

国内アンリツグループでは、2010年度は、2009年度に引き続き休業災害「ゼロ」を達成しました。また、アンリツ（株）厚木地区では2011年3月末で無災害労働時間 1,195万時間となり現在も更新中です。

●トピックス

2010年度は、前年度グループで7件発生した通勤途上災害のうち、5件が自転車による通勤中の事故であることから、神奈川県警、厚木警察署のご協力のもと、実技を主体とした「自転車安全運転講習会」を開催し、事故発生防止に向けた啓発活動を実施しました。また、女性社員を対象に、自ら危険を回避するための術を習得する目的で「女性のための護身術教室」なども実施しています。

自転車安全運転講習会

女性のための護身術教室

▲ページ先頭へ戻る

Copyright© Anritsu Corporation

社会貢献活動の推進

CSRホーム
CSR報告2011
トップコミットメント
CSRの考え方
アンリツのCSR達成像
CSRマネジメント
達成像1 安全・安心で快適な社会構築への貢献
達成像2 グローバル経済社会との調和
達成像3 地球環境保護の推進
達成像4 コミュニケーションの推進
2010年度の実績、2011年度の目標
事業概要
第三者意見 第三者意見を受けて
編集方針

バックナンバー
詳細（Web）
2010 日本語版 英語版
2009 日本語版 英語版
ダイジェスト（PDF）
2010 日本語版 英語版
2009 日本語版 英語版
2008年以前は こちら から

社会貢献活動の推進

基本的な考え方

アンリツが事業活動を行っていく上で、地域との良好な関係は欠かせない要素と考えています。『青少年教育との連携』、『地域社会への貢献』、『環境推進活動』の3つを柱とした地域密着型の社会貢献活動を軸に、社員が主体的に参画できる活動を継続的に展開しています。

青少年教育との連携

●神奈川県厚木市教育委員会主催：「おもしろ理科実験教室」

青少年の『理科離れ』が指摘される中、アンリツ（株）は神奈川県厚木市の呼びかけに応じ、子どもたちに豊かな体験を通して理科・科学に対する興味を高めてもらうことを目的とした「おもしろ理科実験教室」を近隣の小学校2校で実施しました。2010年度も前年同様、「電池のしくみ」をテーマにしました。子どもたちに興味をもってもらうために、三洋電機株式会社さまのご協力をいただき「人間電池」の実験を授業の目玉にしました。後日各校から、子どもたちの感想や感謝のメッセージをいただきました。後日届けられたお礼と感想文には、理科への関心の高まりが感じられる言葉や質問が書かれていました。

実験風景

子どもたちからの感謝のメッセージ

●インターンシップへの協力

国内アンリツグループでは、就業体験を通して働くことの意義や実社会、企業活動を学ぶ機会を提供するため、毎年生徒や学生を受け入れています。2010年度は、コーポレート部門、開発部門などで職場体験が実施されました。

日本で得た貴重な経験

Anritsu A/S
Human Resources, Student Assistant
Ghazal Yosefipor

2010年秋の10週間、デンマークを離れアンリツ本社（神奈川県厚木市）にインターンとして勤務しました。お世話になったのはコーポレートコミュニケーション部で、私の主な業務は競合分析とCSR推進のサポートでした。
滞在中感じたことは、自分がとても歓迎されているということです。 日々の業務指導はもちろん、業界関連の会議参加や展示会見学の機会を設けてくれました。 また業務以外でも、観光や生活面などでサポートを受けました。
海外経験だけでなく、デンマークとは異なる会社の文化、そして問題解決に対するさまざまな対処法を学ぶことができました。これらすべての経験は私にとって大変貴重なものであり、将来に役立てていきたいです。

●会社見学

ものづくりの現場を学ぶことを目的に、学生26名がアンリツテクマック（株）の工場を見学しました。アンリツグループ、アンリツテクマック（株）の概要説明を受けた後、工場にて現場の仕事を見学しました。学生の皆さんは普段目にすることのない部品製造の現場への興味がつきず、数多くの質疑応答がなされました。

会社概要の説明

アンリツテクマック(株)で
ものづくりを学習

●無線通信計測・特別講義を開催

アンリツ（株）は、経済産業省が主導するITエレクトロニクス分野の『産学人材育成パートナーシップ事業』に参画しています。その一環として、2010年度も東京工業大学の特別講義がアンリツ（株）本社で行われ、講師とサポートスタッフ、演習用計測器の提供で協力しました。15名の学生が携帯電話の多様な通信技術をはじめ、地上デジタル放送技術、デジタル通信技術など8つの項目について、実践的な技術を習得する上で必要となる基礎知識を学びました。

●厚木市招待少年サッカー大会の後援

アンリツ（株）は、創業100年記念社会貢献事業の一つとして、1995年から毎年2月に開催される厚木市招待少年サッカー大会を後援しています。2010年度も32チームが参加し、熱戦が繰り広げられました。

試合風景

●技術者育成に協力

アンリツエンジニアリング（株）は、「ETソフトウェアデザインロボットコンテスト（略称:ETロボコン）＊」への参加や南関東地区大会実行委員会主催の公開講座への講師派遣など、組込みシステム開発分野および同教育分野における技術者の育成に協力しています。2010年の大会では、出場したチーム「AEK RUNNER 10」が予選を勝ち上がり、12月の全国大会で総合優勝を獲得しました。今後もこれらの取り組みを通して、組込みシステム分野の発展に貢献していきます。

＊ETロボコン：決められた走行体による走行タイムと設計モデルの内容を総合的に評価するコンテスト

公開講座

大会風景

地域社会への貢献

●ペットボトルキャップの収集

ポリオ、はしか、結核、ジフテリア、百日咳、破傷風の六大感染症。日本ではなじみの薄い病気ですが、発展途上国ではいまだ脅威の存在です。 国内アンリツグループでは、こうした病気から世界の子どもたちを救うための取り組みとして、2010年度よりペットボトルキャップの収集を始めました。収集したキャップは樹脂原料として売却され、その収益で世界の子どもたちにワクチンが届けられます。

キャップ回収箱

●ユニセフ・NPO活動支援：外国コイン、使用済み切手・カードの収集

国内アンリツグループでは、使用済み切手・プリペイドカード、外国コインを集め、NPOの活動支援を行っています。使用済み切手・プリペイドカードは（NPO法人）日本国際ボランティアセンター（JVC）を通じ、カンボジアの農村支援に役立てられます。また、外国コインは（財）日本ユニセフ協会を通じ、世界の子どもたちの生命と健康、権利を守るために活用されます。

●地震被災地への支援活動

2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）による被災地・被災者を支援するための活動を実施しました。
会社から、NPO/NGO初動救援活動の支援として特定非営利法人「ジャパン・プラットフォーム」に寄付をしました。さらに、義援金として生産拠点を置く福島県郡山市と「中央共同募金会」にそれぞれ寄付しました。また、アンリツグループで社員募金を実施し、日本では「中央共同募金会」、海外グループ会社では一部のマッチングギフトを含め現地の赤十字などを通じ、義援金として寄付しました。

●エコベンチの設置

アンリツでは、地域の皆さまとより良い信頼関係を構築するため、アンリツ（株）本社に隣接する自治会の皆さまと懇談会を開催するなど、交流を深めていますが、アンリツ前バス停にベンチを設置してほしいというご要望をいただき、2010年11月8日に設置しました。新しいベンチは食品トレイを再生したエコベンチで、強風にも耐えられるよう道路にしっかり固定されています。バス停を利用される地域の方々から、お礼のお言葉もいただいています。

エコベンチ

●『マクミラン・コーヒー・モーニング』イベントに参加

アンリツ・エメア・リミテッド（イギリス）の社員は、1911年にイギリスで設立されたマクミランがん救済団体が主催する募金イベント『マクミラン・コーヒー・モーニング』に参加しています。2010年度は2回目の参加で、集められた寄付金はマクミランがん救済基金に寄付され、がん医療に活用されます。

イベントの風景

●『メイク・ア・ウィッシュ』に参加

アンリツ・カンパニー（アメリカ）の社員は、毎年クリスマス休暇の頃に恵まれない子どもたちに玩具を贈る『メイク・ア・ウィッシュ』という活動に参加しています。2010年度もたくさんのプレゼントが子どもたちに贈られました。

●『アダプト・ア・ファミリー』に参加

アンリツ・カンパニー（アメリカ）では、社員が力を合わせて地域の恵まれない家族にクリスマスプレゼントや食料などを贈る『アダプト・ア・ファミリー』という活動に参加しています。2010年度も12月に実施され、さまざまな品物を贈りました。

●『ハビタット・フォー・ヒューマニティー』に参加

アンリツ・カンパニー（アメリカ）では、住宅を建てることでコミュニティを築く自立支援型NGO 「ハビタット・フォー・ヒューマニティー」（Habitat for Humanity）の活動に協力しています。このNGOは、貧困国や被災地、先進国など世界100ヵ国で住宅建築を支援しており、日本にも支部があります。2010年7月、アンリツ・カンパニーの社員がアメリカ・モーガンヒルで同団体の活動に参加し、住人となる皆さんが建てている6軒の家づくりをサポートしました。

●『アメリカ・モーガンヒル市マラソン』に協賛

アンリツ・カンパニー（アメリカ）は、2010年11月に開催された第一回モーガンヒル市ハーフ＆フル・マラソンでウォーターステーションのスポンサーとなり、アンリツ・カンパニーの社員6名がボランティアとしてウォーターステーションでのサービスを行いました。

マラソン風景

集合写真

環境推進活動 （生物多様性保全）

アンリツは、生物多様性保全への取り組みの一環として、社員ボランティアを中心とした環境推進活動を実施しています。

●緑の募金活動

アンリツ（株）本社内には、自動販売機での売上金の一部が寄付される「緑の募金」活動を実施しています。2010年度は苗木寄贈本数としてマサキ90本、ソメイヨシノ63本分に相当する募金が集まりました。これは森林整備面積で6,706㎡、また二酸化炭素吸収量に換算すると2,262kgになります。

●富士山「緑の募金の森」緑化活動

地球温暖化が大きな社会問題となる中、環境保全にかかわる活動として、国内アンリツグループの社員がリコーリース株式会社さまの呼びかけに応じ、富士山「緑の募金の森」緑化活動に参加しました。この活動は1996年の台風で破壊された富士山のふもとの森を80年かけて再生する計画です。社員のボランティア活動が環境改善に貢献する活動として2010年11月に実施しました。当日はアンリツグループが参加してから初めての晴天に恵まれ、全体で100名以上の方が参加し、国内アンリツグループからは7名が参加しました。同行した子どもたちは「森林教室」に参加し、動植物の観察やススキの穂を使ったフクロウ作りを通して自然の大切さを学びました。

森林教室

集合写真

●地域清掃活動

国内アンリツグループでは、アンリツ（株）本社、アンリツデバイス（株）棚沢工場、東北アンリツ（株）周辺の清掃活動を毎年実施しています。2010年度も多くの社員が参加し、会社周辺のごみ拾いや雑草の除去などを行いました。また、相模川クリーンキャンペーンなど地域の清掃活動にも参加するなど、地域の環境保全に取り組んでいます。

作業風景

集合写真

▲ページ先頭へ戻る

Copyright© Anritsu Corporation

達成像3 地球環境保護の推進

CSRホーム
CSR報告2011
トップコミットメント
CSRの考え方
アンリツのCSR達成像
CSRマネジメント
達成像1 安全・安心で快適な社会構築への貢献
達成像2 グローバル経済社会との調和
達成像3 地球環境保護の推進
達成像4 コミュニケーションの推進
2010年度の実績、2011年度の目標
事業概要
第三者意見 第三者意見を受けて
編集方針

バックナンバー

詳細（Web）
- 2010 日本語版 英語版
- 2009 日本語版 英語版

ダイジェスト（PDF）
- 2010 日本語版 英語版
- 2009 日本語版 英語版
- 2008年以前は こちら から

エコマネジメント、エコマインド ▶MORE

グローバルに環境経営を展開し、一人ひとりの『エコマインド』で『エコオフィス』『エコファクトリー』『エコプロダクツ』の実現に向けた取り組みを、さらに進めています。

エコオフィス、エコファクトリー ▶MORE

オフィスや工場から排出するCO_2、廃棄物、有害化学物質の管理・削減をさらに推進し、総合的な環境負荷低減に取り組んでいます。

エコプロダクツ開発 ▶MORE

ライフサイクルシンキングに基づき、製品ライフサイクル全般にわたり、環境に配慮した取り組みを推進しています。

サプライチェーンマネジメントの推進 ▶MORE

「グリーン調達ガイドライン」を定め、環境に配慮された部品や材料を優先的に調達するグリーン調達を全社的に取り組んでいます。

アンリツグループ環境負荷マスバランス(2010年度) ▶MORE

事業活動に伴う環境負荷や環境保全活動を貨幣単位・物量単位で数値化し、環境保全活動のさらなる効率化を図っています。

サイト別環境データ集(2010年度) ▶MORE

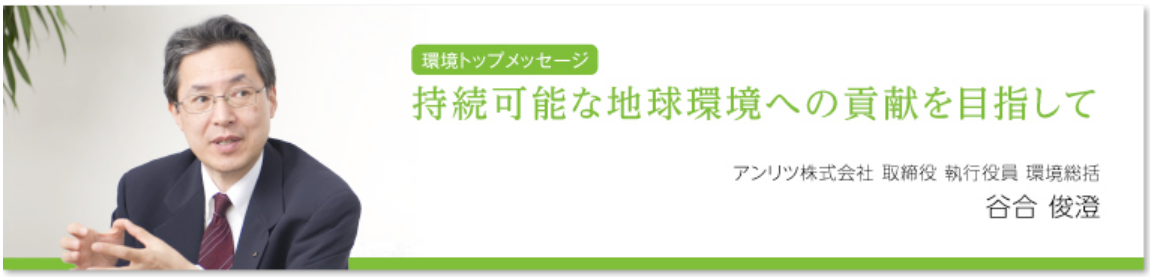
アンリツグループの各地区のサイト別環境データを報告しています。

環境会計(2010年度の実績) ▶MORE

環境経営の推進のため、自らの環境保全に関する投資額やその費用を正確に把握して集計・分析を行い、投資効果や費用対効果を経営の意思決定に反映させる「環境会計」に取り組んでいます。

アンリツ環境管理活動の歴史 ▶MORE

アンリツ株式会社の環境管理活動の歴史についてご紹介します。

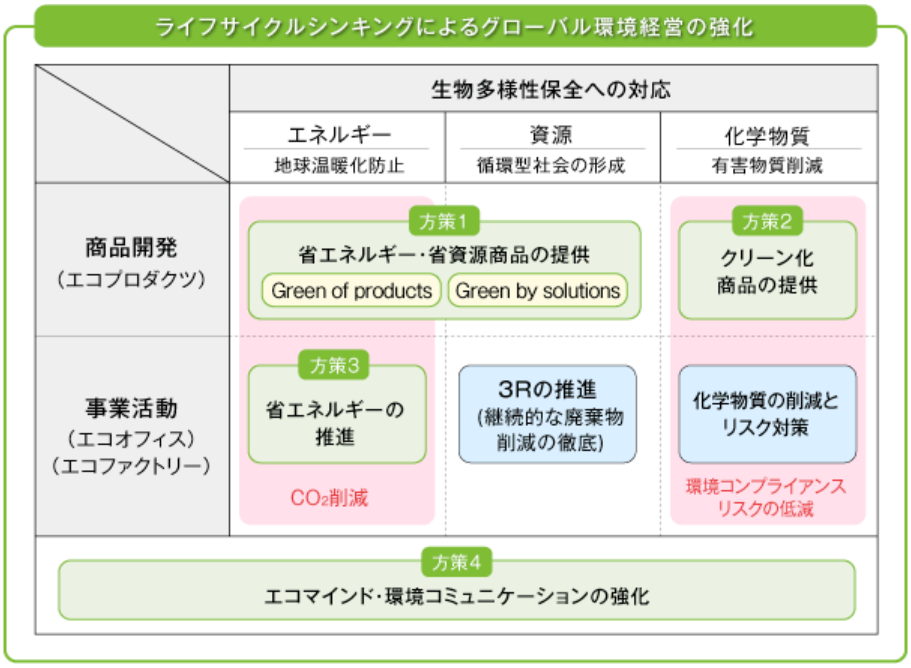


東日本大震災に端を発する電力不足に直面している今日、事業活動、商品開発・提供における一層の省エネルギー対策は、社会のサステナビリティ（持続可能性）に直結する課題となっています。
アンリツグループは、「省エネルギー」、「省資源」、「有害物質削減」により商品の環境負荷を低減する“Green of Products”とお客さまの環境負荷を直接改善する“Green by Solutions”において、LCA（Life Cycle Assessment）を導入しています。この取り組みをさらに強化し、商品のライフサイクル全般でCO_2排出量を評価し、高い環境負荷削減効果が見込める部分で対策を実施していきます。

また、今夏は、敷地内の建物ごとの輪番休業や振替休日を中心にした節電対策を実施していますが、中長期的に社会からの要請に応えていくためには、社員のエコ意識のさらなる向上が必要だと考えています。職場にとどまらず、家庭でも常に省エネを心がけるよう、さまざまな手段・機会を通じて、社員の啓発に努めていきます。
企業経営における環境の重要性はますます高まっています。これからも旧来の取り組みに甘んじることなく、事業活動、商品開発両面で、一段高い視点からアンリツグループの環境経営を実践し、皆さまの期待に応えてまいります。

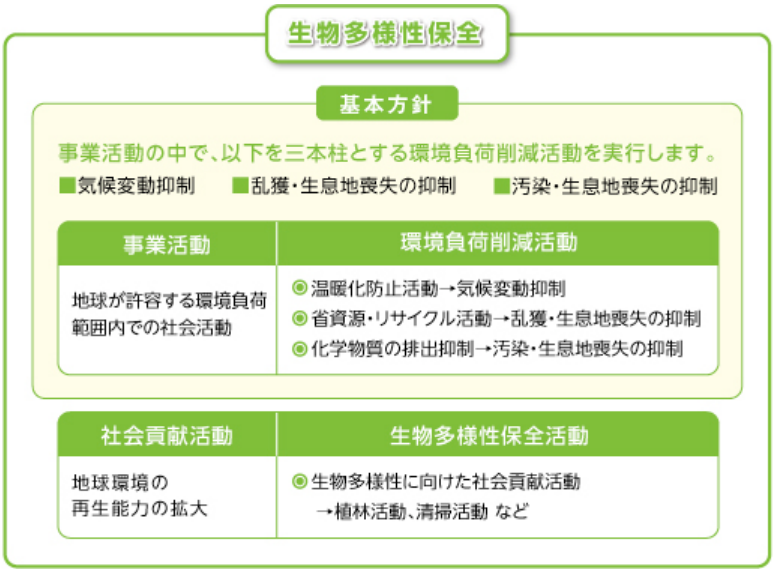
アンリツの環境経営

アンリツグループでは、下図のような環境戦略にのっとり、商品のライフサイクル全体を見据えてグローバルに環境経営を推進しています。具体的には、商品開発面で、「省エネルギー・省資源商品の提供」、「クリーン化商品の提供」、事業活動面で、「省エネルギーの推進」、さらにこれらの全体を支えるものとして、「エコマインド・環境コミュニケーションの強化」という4つの主要な方策を軸に取り組んでいます。事業活動における、「3Rの推進」、「化学物質の削減とリスク対策」については、今後も継続的に維持・改善していきます。また、アンリツの事業形態と生物多様性との関係性を考慮し、これらを実践していくことが気候変動抑制および乱獲・汚染による生息地喪失の抑制にもつながっていくことから、生物多様性保全の基本方針としています。



生物多様性保全基本方針

アンリツグループの事業活動は、多様な生物に支えられた生態系の恩恵を受けると同時に影響を与えています。このため、生態系の基盤となる生物多様性の保全は環境経営の重要な課題です。アンリツグループは、事業活動の中で環境負荷削減活動を推進することを基本方針とし、自然環境保護を目的とした社会貢献活動にも取り組むことで、生物多様性保全を実践しています。



▶「生物多様性保全への取り組み」詳細へ

▲ページ先頭へ戻る

Copyright© Anritsu Corporation

エコマネジメント、エコマインド

CSRホーム
CSR報告2011
トップコミットメント
CSRの考え方
アンリツのCSR達成像
CSRマネジメント
達成像1 安全・安心で快適な社会構築への貢献
達成像2 グローバル経済社会との調和
達成像3 地球環境保護の推進
達成像4 コミュニケーションの推進
2010年度の実績、2011年度の目標
事業概要
第三者意見 第三者意見を受けて
編集方針

バックナンバー
詳細（Web）
- 2010 日本語版 英語版
- 2009 日本語版 英語版

ダイジェスト（PDF）
- 2010 日本語版 英語版
- 2009 日本語版 英語版
- 2008年以前は こちら から

▶エコマネジメント、エコマインド ▶エコオフィス、エコファクトリー ▶エコプロダクツ開発 ▶サプライチェーンマネジメントの推進
▶アンリツグループ環境負荷マスバランス ▶サイト別環境データ集(2010年度) ▶環境会計(2010年度の実績) ▶アンリツ環境管理活動の歴史

エコマネジメント、エコマインド

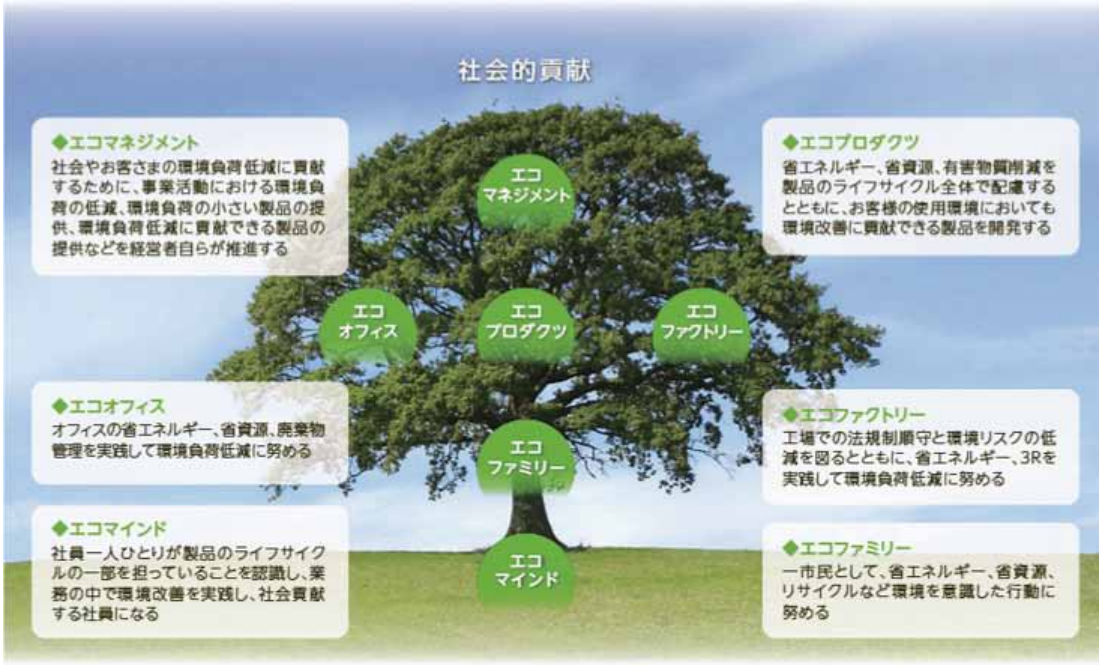
アンリツはグローバルに環境経営を展開し、一人ひとりの『エコマインド』で『エコオフィス』『エコファクトリー』『エコプロダクツ』の実現に向けた取り組みを、さらに進めています。

アンリツグループ環境理念

アンリツは、環境に配慮した製品の開発と生産を追求し、誠と和と意欲をもって、人と自然が共存できる豊かな社会づくりに貢献します。

行動指針

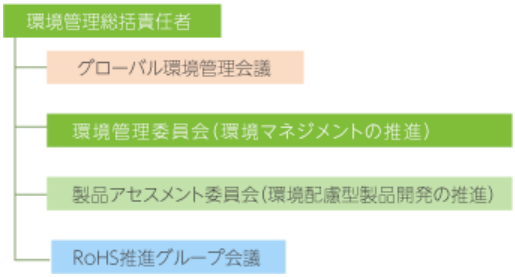
一人ひとりの「エコマインド」で「エコオフィス」「エコファクトリー」「エコプロダクツ」を実現します。



※地球環境保護の報告範囲は、アンリツ（株）および次のグループ会社です。
国内グループ会社：アンリツ産機システム株式会社、東北アンリツ株式会社、アンリツ計測器カストマサービス株式会社、アンリツデバイス株式会社、アンリツネットワークス株式会社、アンリツエンジニアリング株式会社、アンリツ興産株式会社、アンリツテクマック株式会社、株式会社アンリツプロアソシエ
海外グループ会社： Anritsu Company（アメリカ） 、Anritsu Ltd.（イギリス） 、Anritsu A/S（デンマーク）

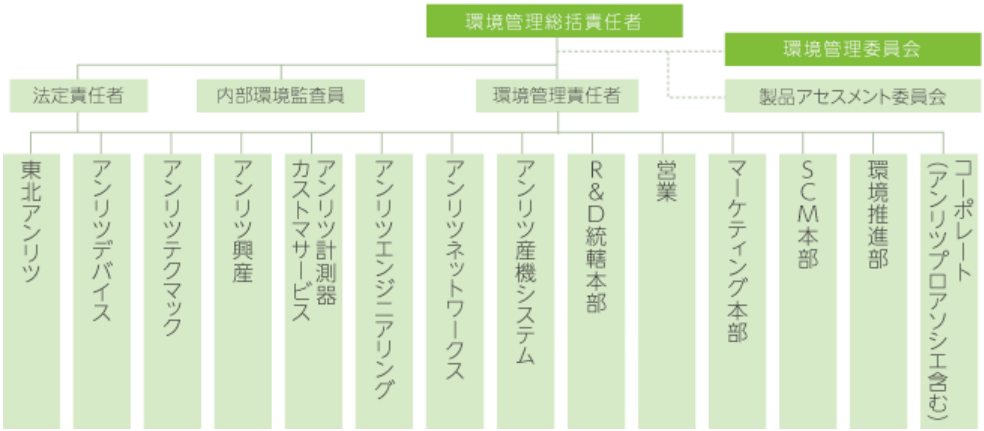
環境経営推進体制

欧州のRoHS指令やお客さまの環境要求への対応など、グローバルな取り組みの必要性が増しているため、環境経営推進体制を2005年度に見直し、環境全般の事項を審議・決定するグローバル環境管理会議を設置しています。日本国内では、環境管理委員会、製品アセスメント委員会およびRoHS推進グループ会議があり、それぞれ環境マネジメントシステムの推進、環境配慮型製品開発の推進、製品の有害物質フリー化の推進を図っています。



●環境管理組織（日本）

国内アンリツグループの環境管理組織は、環境管理総括責任者（アンリツ（株）環境総括執行役員）をトップとして、グループ会社を加えた体制で環境マネジメント活動を推進しています。



●環境マネジメントシステム

登録会社	
アンリツ株式会社 本社	・アンリツ株式会社（すべての営業拠点を含む） ・アンリツ産機システム株式会社 ・アンリツ計測器カストマサービス株式会社 ・アンリツネットワークス株式会社 ・アンリツエンジニアリング株式会社 ・アンリツ興産株式会社 ・アンリツテクマック株式会社 ・株式会社 アンリツプロアソシエ ・アンリツデバイス株式会社 ・東北アンリツ株式会社 認証登録年月：1998年8月 更　　新：2010年8月 認証機関：JQA/JQA-EM0210 （*）東北アンリツ株式会社は1999年10月に単独で認証済みでありましたが2003年に統合いたしました。
東北地区 	
Anritsu Company （アメリカ） 	所在地：490 Jarvis Drive Morgan Hill, CA 95037 認証登録年月：2007年3月 更　　新：2010年3月 認証機関：NQA/EN12275

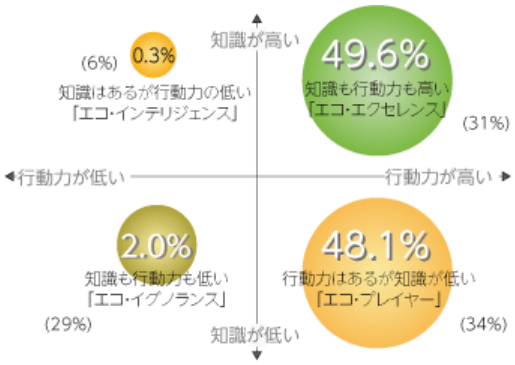
●環境監査

2010年度の外部環境審査はISO14001認証機関による更新審査を受けました。その結果、不適合に相当する指摘はありませんでした。また、内部環境監査を年2回実施し、5月には環境マネジメントシステムの適合性、有効性、環境パフォーマンスの確認、10月には法の順守状況の確認を行い、それぞれ45件、6件の指摘がありました。グループの共通的課題は、環境管理委員会で水平展開し、改善しています。
また、NEC関係会社相互環境審査を認証機関とは別の視点（環境経営の視点）での監査を厚木地区で受けました。さらに日本電気株式会社さまによる環境法順守監査を厚木地区で受けました。これらの監査により洗い出された課題への対応を通じ、効率的な環境マネジメントシステムの構築に努めています。

NEC関係会社相互環境審査における現場パトロール

社員の環境意識調査

エコマインドの浸透度を測るため、国内アンリツグループの全社員を対象に、環境意識調査を実施しました。2010年度は5回目の調査となり、環境用語の把握度と環境行動に関する回答から環境に対する知識レベルと行動力レベルの相関を分析し、前回と比較しました。環境知識が高く行動も環境に配慮できている「エコ・エクセレンス」の割合も、約50％（2009年度31％）と増加しました。分析結果に基づき、回答率および「エコ・エクセレンス」割合の向上のための教育・啓発を実施していきます。



(　)内は2009年度数値

環境コミュニケーションの推進

ステークホルダーの皆さまにアンリツの地球環境保護への取り組みを理解し、関心をもっていただくことが、環境活動を推進する上で不可欠との考えから、さまざまな方法で積極的に社内外に発信することに努めています。
WebのCSR報告、環境広告、環境関連ニュースのWeb発信などはもとより、お客さまへは『環境リーフレット』、社員へは『エコ倶楽部』を発行し、特定のステークホルダーに的を絞った環境情報の提供も実施しています。

お客さま向け
環境リーフレット

社員向けエコ倶楽部

お客さまとのコミュニケーションで広げる環境への取り組み

アンリツ株式会社
計測事業グループ
グローバルオペレーションセンター
事業戦略サポートチーム
課長
黒田 謙一

環境配慮に関するお客さまの関心とご要望は、年を追うごとに高まっています。アンリツ（株）営業部門では、アンリツの環境への取り組みや環境配慮型製品・サービスの特徴などをお客さまに認知していただくために、環境リーフレットを配布しています。
2010年度は、お客さまからご要望の多かった商品の包装材削減への取り組みを紹介しました。2011年度は、この取り組み（通称：エコ・ロジ輸送）のさらなる普及拡大を目指します。
それぞれのお客さまのご要望に沿った提案や改善を行い、その成果を、環境リーフレットを通じて同じような問題意識をお持ちのお客さまに展開することで、さらに多くのお客さまと共に環境に配慮した取り組みを推進していきます。

エコ・ロジ輸送を紹介した環境リーフレット

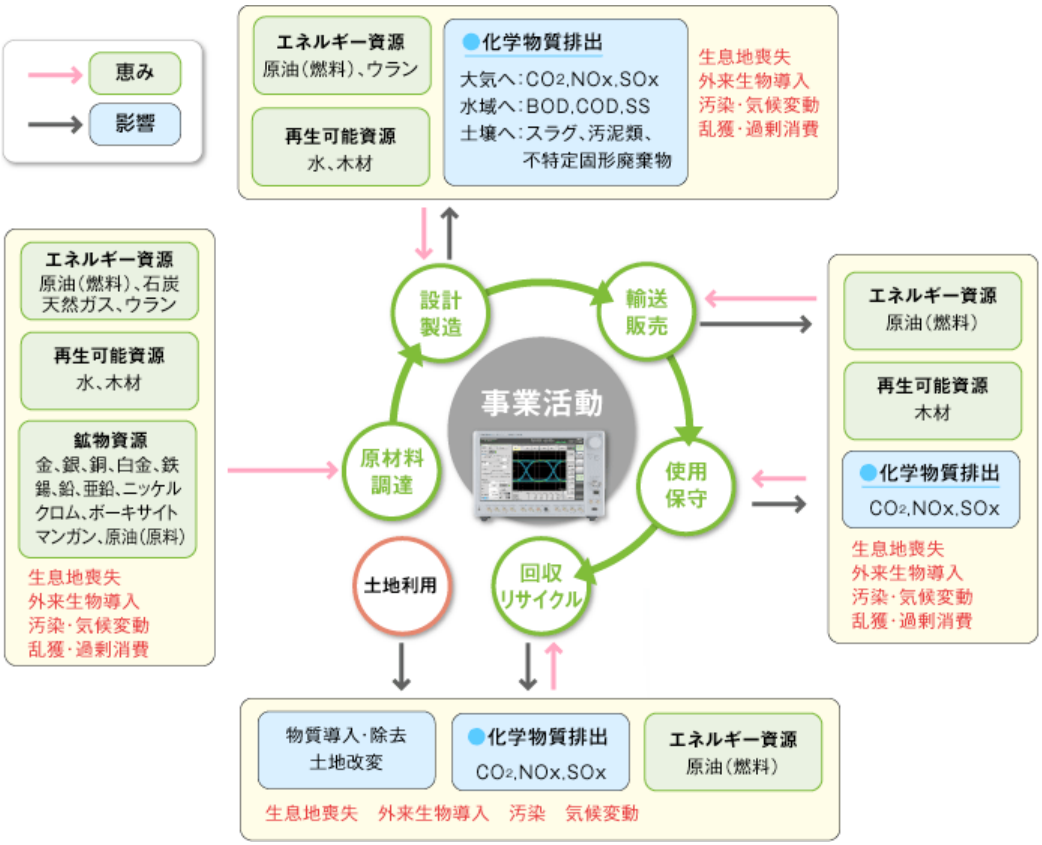
生物多様性保全への取り組み

●現状認識

私たちは、アンリツグループの事業活動が生物多様性を基盤とした生態系サービスからさまざまな恵みを受けており、また、その事業活動が生物多様性に影響を与えていることを認識し、生物多様性の保全に取り組んでいきます。

●関係性マップ

事業活動と生物多様性のかかわりを把握するために、JBIB（企業と生物多様性イニシアティブ）のフォーマットを参考に関係性マップを作成しました。このマップにより、生態系とのかかわりが明確になり、影響の大きい項目を把握できました。この結果は、生物多様性保全基本方針に反映されています。



●日本経団連生物多様性宣言への参加

アンリツグループは、日本経団連生物多様性宣言の趣旨に賛同し、生物多様性を育む社会づくりに向けて率先して行動する、『日本経団連生物多様性宣言推進パートナーズ』に参加しています。

●教育と意識調査結果

国内アンリツグループでは、社員の環境意識向上を図るため、毎年環境教育を実施しています。2010年度は、国際生物多様性年および愛知県名古屋市で開催されたCOP10（生物多様性条約第10回締約国会議）を受け、生物多様性保全について教育を実施しました。その数ヵ月後実施した社員環境意識調査では、今回設問に新規に追加した環境用語『生物多様性』を「説明できる・概要は分かる」社員が87%に上り、教育の成果および関心の高さを確認できました。

▲ページ先頭へ戻る

Copyright© Anritsu Corporation

エコオフィス、エコファクトリー

CSRホーム
CSR報告2011
トップコミットメント
CSRの考え方
アンリツのCSR達成像
CSRマネジメント
達成像1 安全・安心で快適な社会構築への貢献
達成像2 グローバル経済社会との調和
達成像3 地球環境保護の推進
達成像4 コミュニケーションの推進
2010年度の実績、2011年度の目標
事業概要
第三者意見 第三者意見を受けて
編集方針

バックナンバー
詳細（Web）
- 2010 日本語版 英語版
- 2009 日本語版 英語版

ダイジェスト（PDF）
- 2010 日本語版 英語版
- 2009 日本語版 英語版
- 2008年以前は こちら から

▶エコマネジメント、エコマインド ▶エコオフィス、エコファクトリー ▶エコプロダクツ開発 ▶サプライチェーンマネジメントの推進
▶アンリツグループ環境負荷マスバランス ▶サイト別環境データ集(2010年度) ▶環境会計(2010年度の実績) ▶アンリツ環境管理活動の歴史

エコオフィス、エコファクトリー

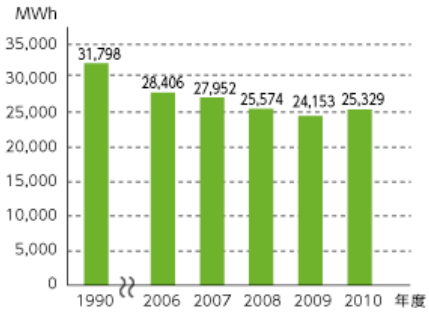
オフィスや工場から排出するCO_2、廃棄物、有害化学物質の管理・削減をさらに推進し、総合的な環境負荷低減に取り組んでいます。

エコオフィス、エコファクトリー

●工場・オフィスでの省エネルギー活動

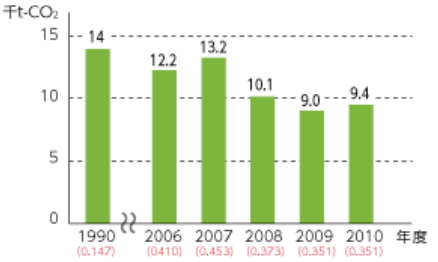
省エネルギーはCO_2排出量を削減し地球温暖化防止へ寄与する重要なテーマです。アンリツが消費するエネルギーの約96％（CO_2排出換算比）を占める電力の使用量を削減するため、継続的に省電力に努めています。これまで氷蓄熱設備の導入、空調設備や照明設備のインバータ化、低損失型変圧器の導入、機器の省エネ機器への更新など設備面での対応を実施し、消灯や空調のフィルターの清掃をこまめに実施することなどで無駄な電力を削減し省エネルギーを推進してきました。また、2005年度からは、チーム・ マイナス6％に参加し、クールビズ、ウォームビズ活動に取り組んでいます。2010年度は、厚木地区で高効率空調機の更新、東北地区で高効率変圧器への更新、インバータ照明の導入などを行いましたが、2009年度と比較して生産量増加や夏の猛暑などの影響を受け、電気エネルギー使用量は4.9％増加となりました。 今後も省エネルギーを環境経営の最重要課題と位置づけて取り組んでまいります。

電気エネルギー使用量推移(国内アンリツグループ)



[参考]
全エネルギー使用によるCO_2排出量（厚木地区+棚沢地区+東北地区）は、「地球温暖化対策の推進に関する法律」施行令（2006年3月29日改正公布）の換算係数を用いて算定しました。ただし、電気エネルギーのCO_2排出量は、各年度に電気事業連合会より公表されるCO_2排出係数(t-CO_2/MWh)を用いて算出しています。（2010年度のCO_2排出係数は、2009年度の値を暫定的に使用しています。）
CO_2排出係数は年度によって増減があるので、電気エネルギーは削減していますがCO_2排出量は増加している年度もあります。
(例：2007年度の排出係数は2006年度より10.5%増加)

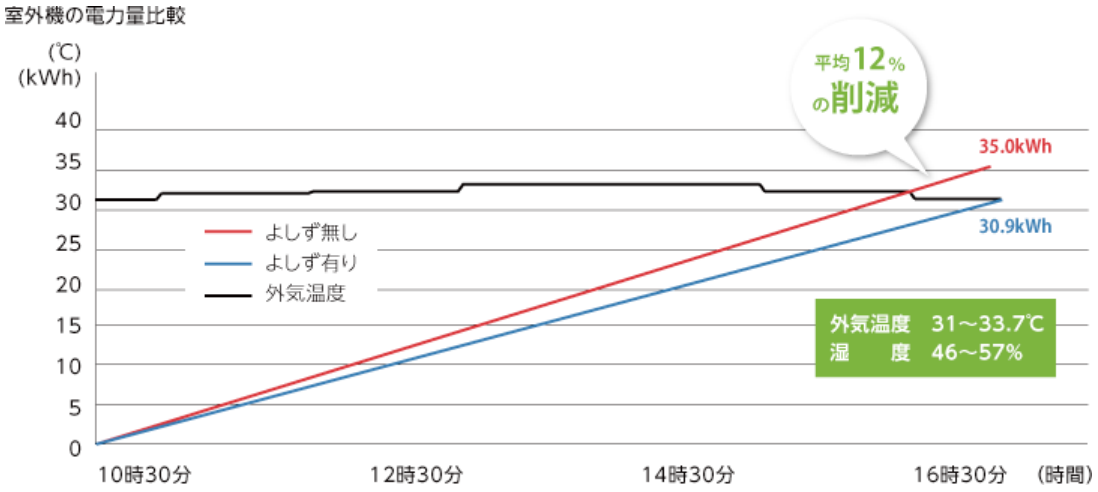
【参考】全エネルギー使用によるCO_2排出量
(国内アンリツグループ)



( )内は、電気事業連合会公表の排出係数(ただし、2010年度は暫定値)

●工場における省エネルギーの工夫

アンリツデバイス（株）棚沢工場では、省エネルギー推進のため、これまでにさまざまな改善に取り組んできました。2010年度には、空調のエネルギー使用量抑制のために、エアコン屋外機を「よしず」で覆うことで直射日光を避け、熱交換効率の向上を図りました。炎天下の直射日光の下では、屋外機の熱交換効率が低下し必要以上に電力が消費されますが、日向と日陰では約10℃もの温度差が生じるため、「よしず」の日陰効果によって省エネ効果が期待できます。さらに、吹き出し口の前の障害物の撤去や機械内の清掃なども行うことで、エネルギー効率の最大化を図りました。これらの改善により、2010年度の室外機の電力使用量を平均12%削減できました。
今後も地道な取り組みを積み重ねて、より環境にやさしいエコファクトリーを目指します。



●大気

厚木地区では、2000年に塗装工程を廃止したため、法、条例などの対象となる大気汚染にかかわる施設はありません。
東北地区では大気汚染防止法の対象である重油ボイラーがありますが、自主管理基準に基づいた管理のもとに運用し、大気保全に努めています。また、棚沢地区では法、条例などの対象となる大気汚染にかかわる施設はありません。

●騒音

設備導入前の事前審査制度、設備の始業時点検をはじめ、定期的な構内パトロールなどにより、異常の早期発見に努めています。
また、年に1回定期的に敷地境界線の騒音測定を実施していますが、法、条例はもちろんのこと、自主管理基準の超過もありません。

●法順守状況

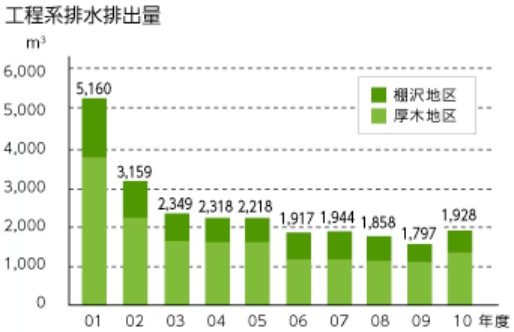
法や条例で規制があるものは、これより厳しい自主管理基準を設けて法順守に努めています。2010年度は、厚木地区、棚沢地区、東北地区ともに基準に対し低いレベルで推移し、水質・大気・騒音の法違反や事故はありませんでした。また、環境問題に関しての訴訟、近隣からの苦情などはありませんでした。今後も定期的な保全活動により、法順守はもちろんのこと環境負荷の低減に努めます。

●地下水の管理

有機塩素系物質については、1970年にトリクロロエチレンを、1993年に1,1,1-トリクロロエタンの使用を全廃しました。
厚木地区および東北地区では、地下水を採取する井戸を保有しているため、有機塩素系物質6物質の分析を定期的に実施し、監視を継続しています。2010年度も、厚木地区の井戸でテトラクロロエチレンに環境基準の超過がみられましたが、他は同基準を下まわっています。テトラクロロエチレンはアンリツでの使用実績がない物質であり、土壌分析でも当社による汚染ではないことが確認されています。今後も引き続き監視をしていきます。東北地区では、いずれも検出限界以下であり環境基準の超過がみられませんでした。今後も定期的な分析監視により、地下水の保全に努めます。

●水資源

厚木地区では、過去にプリント板製造、塗装、めっきなどの工程で多量の水を使用していましたが、2002年にはこれらの処理を全廃し、有害物質を含む工程系排水は大幅に削減されました。棚沢地区ではデバイスの製造工程で有害物質を使用していますが、工程管理により水の使用量を抑制しています。また、東北地区では有害物質を使用する特定施設はありません。



●リスク対策

厚木地区では、無機系排水排出部門などからの排水を無害化するため、無機系排水処理設備を設置しています。2001年には、地中に埋設した槽が地震発生により壊れて、処理の完了していない水が漏洩し、土壌汚染を起こす可能性があることから、槽を二重槽に改造しました。2002年には、その設備の一つであるクラリファイヤータンク（前工程で生成した重金属を含む沈殿物を重力沈降で除去するタンク）の周辺に防液堤を設置し、地震などでタンクが破損した場合、タンクから漏洩した液が外部に漏洩せずに予備槽に流れ込む構造に変更しました。

クラリファイヤー

棚沢地区では、工程処理水のpHが法規制値を逸脱した場合、放流水の排出を停止させる緊急遮断弁が最終放流槽に設置されています。さらに、2003年には二重安全対策として、最終放流槽の前の槽にもpH警報装置を設置し、その時点で排水ポンプを停止するように改善しました。東北地区では、製造工程から出る水はありません。しかし、地震でボイラーなどから排出する水により、pHが法規制値を逸脱する可能性があることから、 2001年にpHの監視装置と放流水の排出を停止する緊急遮断弁を設置し、対策を実施しました。

pH監視装置

緊急遮断弁

また、各地区では、人為的ミスや災害時に化学物質の漏洩事故が発生した場合を想定し、対応手順を作成しました。
さらに、定期的な設備点検と訓練を実施し、万一の事故発生時に備えています。

緊急遮断弁の閉止

漏洩物の回収訓練

●化学物質管理

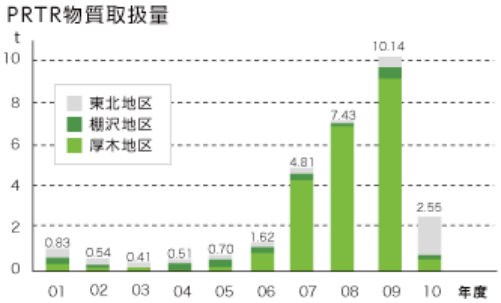
国内アンリツグループ会社で使用する化学物質については、事前評価制度による使用可否を決定しています。
また、法規制、有害性などから使用禁止・使用抑制物質を定め、オゾン層破壊や地球温暖化の原因となる物質の使用を規制しています。 各部門では、3ヵ月ごとに使用している化学物質の購入量、使用量、廃棄量を端末に入力し、法令ごとの集計や、PRTR法対象物質の集計に利用しています。

アンリツグループ使用規制化学物質

使用禁止物質	CFC（Chlorofluorocarbons）， ハロン， 四塩化炭素，1,1,1-トリクロロエタン， HBFC（Hydrobromofluorocarbons）， ブロモクロロメタン，臭化メチルの7物質群
使用抑制物質	HCFC（Hydrochlorofluorocarbons）， トリクロロエチレン， テトラクロロエチレン，ジクロロメタン， HFC（Hydrofluorocarbons）， PFC（Perfluorocarbons），SF6（六フッ化硫黄） の7物質群

化学物質オンライン入力画面

PRTR法（特定化学物質の環境への排出量の把握などおよび管理の改善の促進に関する法律）については、法改正により厚木地区で使用していたエポキシ樹脂の成分であるビスフェノールＡ型エポキシ樹脂（液状）が対象物質から外れ、東北地区で燃料として使用している重油の添加剤であるメチルナフタレンが対象となったことから、取扱量が大きく変動しました。東北地区では2010年度のメチルナフタレンの取扱量が１トンを超え、届出をおこないました。メチルナフタレンはボイラ内で燃えるため、外部への排出はほとんどありませんが、今後も重油の使用量削減に努め、取扱量を減少させていく予定です。



●PCB管理

厚木地区ではポリ塩化ビフェニル（以下「PCB」）を含有した電気機器コンデンサ、蛍光灯安定器、感圧複写紙を特別管理産業廃棄物の保管基準に従って、厳重に管理しています。毎年、PCB廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法（「PCB特別措置法」）に基づき、県に保管状況を届出していますが、 2006年の特高変電設備更新時の分析の結果、大型変圧器2台に微量のPCBを含有していることが確認されました。また、2010年度に実施した変圧器の更新時に老朽化した設備の絶縁油に微量ＰＣＢの含有が確認されたため、2011年6月に追加の届出を行いました。
なお、2005年度に日本環境安全事業株式会社に処理の早期登録申込みを行っています。

PCB保管場所

保管状態

●『神奈川県環境整備功労者表彰』を受賞

中央は黒川神奈川県副知事

神奈川県が主催する、神奈川県環境整備功労者表彰（循環型社会形成の推進）の企業・団体への表彰は、2010年度で2回目となります。
アンリツは、事業活動がおよぼす環境影響を的確に把握・評価・改善することを、事業経営の重点課題の一つとして、実践的な環境活動に取り組んでおります。 今回の表彰においては、廃棄物の分別の徹底、リサイクルセンターにおける、校正・保証付きの中古計測器（リファービッシュト計測器）の販売事業、落ち葉や雑草をミミズなどによる分解によって減量化を目的とする、通称ミミズファームの取り組みなど、3R（リデュース：減らす、リユース：再使用、リサイクル：再資源化）の取り組みの実践、さらには、顧客先での廃棄物の削減にも貢献できるように、製品を専用の通い箱に収納し、製品のみを引き渡す「エコ・ロジスティック（通称エコ･ロジ）」を、推進していることなど、その功績が顕著であったことが評価されました。
また、環境に関連する地域貢献として、相模川クリーンキャンペーン、県央地区不法投棄防止キャンペーンなどへの参加や各地区周辺のクリーン活動実施、富士山「緑の募金の森」緑化活動、緑の募金活動（売上金の一部が「緑の募金」として寄付される自動販売機設置）などへの取り組みも、高く評価されました。

アンリツカンパニー（アメリカ）のエコオフィス活動

海外拠点においても、アンリツグループは環境経営を推進しています。北米・中南米地域を統轄し、計測器などの開発・製造・販売・保守を行うアンリツカンパニー（アメリカ）では、廃棄物排出量、エネルギーおよび水使用量の数値目標を設定し、環境負荷削減に取り組んでいます。

●リサイクルbox

アンリツカンパニー（アメリカ）は、2010年度環境目標の一つに「埋め立て廃棄物の排出量を2009年度比10%削減」を掲げ、廃棄物の発生抑制に取り組んできました。その一貫として社員食堂にプラスチック容器の回収ボックスを設置しました。社員の協力を得てより削減効果を上げるために、回収ボックスのふたにプラスチック容器の見本を置いて一目で分別が分かるようにするとともに、社内報で協力の呼びかけを行いました。

●水資源削減策

水使用量の2009年度比2%削減の目標達成を目指し、アンリツカンパニー（アメリカ）の敷地内の植栽を、大量の水を必要とする芝生から乾燥に強い植物に植え替え、スプリンクラーを除去して点滴灌漑を導入しました。さらに排水溝の工夫によって建物の下への水の浸入を防ぐことで、灌水効率をより高めています。
また、機械工場と出荷室の照明用の高力率安定器を交換することで照明効率の向上を図り、電力使用量を削減しました。

▲ページ先頭へ戻る

Copyright© Anritsu Corporation

エコプロダクツ開発

CSRホーム
CSR報告2011
トップコミットメント
CSRの考え方
アンリツのCSR達成像
CSRマネジメント
達成像1 安全・安心で快適な社会構築への貢献
達成像2 グローバル経済社会との調和
達成像3 地球環境保護の推進
達成像4 コミュニケーションの推進
2010年度の実績、2011年度の目標
事業概要
第三者意見 第三者意見を受けて
編集方針

バックナンバー
詳細（Web）
- 2010 日本語版 英語版
- 2009 日本語版 英語版

ダイジェスト（PDF）
- 2010 日本語版 英語版
- 2009 日本語版 英語版
- 2008年以前は こちら から

▶エコマネジメント、エコマインド ▶エコオフィス、エコファクトリー ▶エコプロダクツ開発 ▶サプライチェーンマネジメントの推進
▶アンリツグループ環境負荷マスバランス ▶サイト別環境データ集(2010年度) ▶環境会計(2010年度の実績) ▶アンリツ環境管理活動の歴史

エコプロダクツ開発

アンリツは、ライフサイクルシンキングに基づき、製品設計から部品調達、製造、出荷、お客さまでの使用段階、そしてリサイクルまで、製品ライフサイクル全般にわたり、環境に配慮した取り組みを推進しています。環境経営の柱の一つである環境配慮型製品の提供を加速させるのはもちろんのこと、社会問題として急浮上しているIT機器の消費電力増加に対しても、独自技術を生かした取り組みを意欲的に進めています。さらに、製品環境規制にはグローバルで対応し、すべての開発製品において設計の初期段階から質の高い製品アセスメントを実施しています。

製品環境規制へのグローバル対応

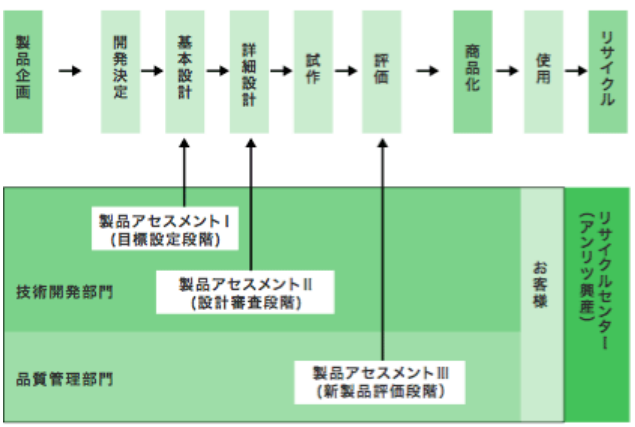
欧州連合（EU）では2005年からWEEE指令、2006年からRoHS指令、2007年からREACH規則が施行されました。
製品環境規制への対応は、猶予のない状況となっています。海外グループ会社とは、グローバル環境管理会議などを通じてコミュニケーションを図り、情報を共有化するとともに対応の統一化も行っています。また、製品設計段階で考慮しなければならないErP（Energy related Products）指令に対する事前の取り組みとして、グローバルで共通の製品アセスメント基準を作成し、海外拠点での環境配慮型製品の開発を推進しています。

グローバル製品アセスメント実施ガイドライン

環境に配慮した製品の開発は、国内アンリツグループ会社では製品アセスメントとして、アンリツ・カンパニー（アメリカ）ではDfE（Design for Environment）として個別に取り組んでいましたが、アンリツグループ各社がグローバルに同一な基準で環境に配慮した製品開発を展開するために、これらの手法を統合した、グローバル製品アセスメント基準およびグローバル製品アセスメント実施ガイドラインを制定しました。現在はこの基準やガイドラインに沿って環境に配慮した製品の開発を実施しています。

●運用手順

グローバル製品アセスメントは、製品の開発工程（設計、試作、評価など）に製品アセスメント（目標設定段階、設計審査段階、新製品評価段階）を組み入れ、開発製品の商品化前までに実施します。客観的かつ責任ある製品アセスメントとするため、品質管理部門などによる第三者評価や目標がクリアできない場合のフォローアップを実施します。



※製品アセスメントの各段階では、必要に応じてフォローアップを実施する。

●評価項目

グローバル製品アセスメントの評価は、基準製品との比較による体積、質量や消費電力などの改善性を評価する基本項目と省資源、有害物質の削減や製造、物流、使用、廃棄における環境負荷削減の取り組みを評価する評価項目からなります。

省資源化/製造時負荷削減	• 体積、質量の削減 • リユースやリサイクル可能な部材の採用 • 機能拡張性、長寿命化 • 取扱説明書への再生紙の使用 • 消耗品の削減 • 加工困難材の削減 • 製造時廃棄物の削減

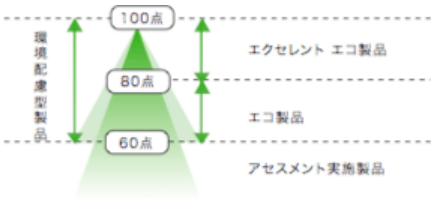
有害物質削減	• 含有禁止物質の非含有 • 製造時の使用禁止物質の不使用 • RoHS指令対象物質の削減 • その他有害物質の削減
物流負荷削減	• 包装箱の体積、質量の削減 • 包装材のリユースやリサイクル可能な材料の採用 • 包装材の種類の削減 • 包装用樹脂部品への材料名表示 • 包装材の有害物質の削減 • 無包装や通い箱の採用
使用時負荷削減	• 動作時消費電力の低減 • 待機モード時消費電力の低減 • 使用時の騒音の低減
廃棄時負荷削減	• 部品点数の削減 • リサイクル困難材料の削減 • ユニット構造の採用 • ねじ本数の削減 • 一般工具による分離分解 • 樹脂部品への材料名表示 • 材料種類の削減，同一材料への統合 • 電池のリサイクル表示 • WEEE指令対応 • 中国版RoHS対応

エコ製品制度

●環境配慮型製品

アンリツグループでは、グローバル製品アセスメントの結果から、エクセレント エコ製品とエコ製品を環境配慮型製品と認定しています。

- エクセレント エコ製品：評価点が80点以上で、エクセレント エコ製品の条件を満たした製品
- エコ製品：評価点が60点以上で、エコ製品の条件を満たした製品
- アセスメント実施製品：アセスメント実施製品の条件を満たした製品



●エクセレント エコ製品の主な環境配慮基準

- 業界をリードする環境配慮性がある
- 製品に関する環境情報を開示できる
- 製法アセスメント（製造段階での評価）を実施している
- LCA（Life Cycle Assessment）を用いてCO_2排出量を評価している
- 製品の事業主体および主要生産拠点は、環境マネジメントシステムを構築している

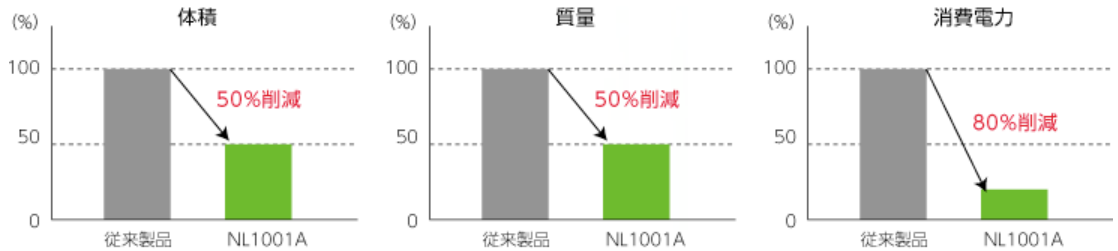
エクセレント エコ製品には、カタログなどにマークと製品に関する環境情報を併記しています。

エクセレント エコ製品

製品アセスメント事例

2010年度は国内アンリツグループの全開発製品の100%が環境配慮型製品となり、目標の80%以上を達成しました。
NL1001A光ファイバ線路測定装置は、光ファイバ線路監視システムに使用されます。 この装置は、光ファイバの長さや光信号の損失を測定することで障害箇所を特定するとともに、光ファイバ線路監視システム内の監視装置に障害情報を通知することができます。
光コネクタの結線容易性や障害時に光るLEDランプの視認性に配慮しつつ、可能な限り小型軽量化を図りました。また、低消費電力ユニットの採用や回路の見直しなどにより消費電力を大幅に削減しました。これにより、従来製品と比較して体積を50%、質量を50%削減し、消費電力を80%改善しました。

NL1001A 光ファイバ線路測定装置



2010年度に認定されたエクセレント エコ製品

- MS9740A 光スペクトラムアナライザ： 省電力

測定時間の短縮と省電力化・軽量化を実現

MS9740A 光スペクトラムアナライザ

アンリツ株式会社
計測事業グループ R&D統轄本部 第 1 商品開発部
坂本 英之

近年、インターネットの普及拡大に伴い、光ファイバを用いた光通信システムが企業から家庭にまで拡がりを見せています。光通信システムでは、光トランシーバや光増幅器などを組み込んでデータを伝送しています。MS9740A光スペクトラムアナライザは、これらの部品の出力特性を評価する計測器です。開発にあたっては、使用する部品の厳選、低消費電力モジュールの採用など省電力化を徹底しました。また、光学部の見直しにより軽量化を追及しました。さらに、データの解析や転送手順の見直しにより、測定時間の短縮も実現しました。こうした取り組みにより、従来製品と比較し、測定処理時間を82%短縮するとともに、消費電力50%、質量9%の削減を達成することができました。

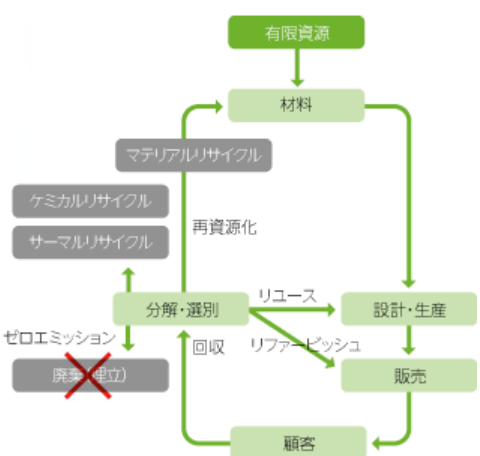
＜関連ページ＞
▶ アンリツのエクセレント エコ製品

使用済み製品のリサイクル

●リサイクルセンター

アンリツ（株）は、計測器業界に先駆けて2000年にグループ会社のアンリツ興産株式会社にリサイクルセンターを設立しました。2002年9月には産業廃棄物処分業許可を取得し、2003年度から業務を開始しています。2005年度からは使用済み製品のリユースを推進しました。廃棄物の分別を徹底し、リサイクルセンターから排出される廃棄物は、100%リサイクルされました。
また、デモンストレーションに使用した機器などの中から選りすぐったものを再生させたリファービッシュト計測器の販売を行っています。「再生」といっても「生みの親」アンリツ（株）のもとで修理・校正を行った信頼性の高い製品であり、納入後1年間の保証がつきます。リファービッシュト計測器は、日本国内の大学・教育機関を対象とし、グループ会社のアンリツ興産株式会社を販売代理店として販売を行っており、製品の長寿命化に貢献しています。

リサイクルシステム



▲ページ先頭へ戻る

Copyright© Anritsu Corporation

サプライチェーンマネジメントの推進

CSRホーム
CSR報告2011
トップコミットメント
CSRの考え方
アンリツのCSR達成像
CSRマネジメント
達成像1 安全・安心で快適な社会構築への貢献
達成像2 グローバル経済社会との調和
達成像3 地球環境保護の推進
達成像4 コミュニケーションの推進
2010年度の実績、2011年度の目標
事業概要
第三者意見 第三者意見を受けて
編集方針

バックナンバー
詳細（Web）
- 2010 日本語版 英語版
- 2009 日本語版 英語版

ダイジェスト（PDF）
- 2010 日本語版 英語版
- 2009 日本語版 英語版
- 2008年以前は こちら から

▶エコマネジメント、エコマインド ▶エコオフィス、エコファクトリー ▶エコプロダクツ開発 ▶サプライチェーンマネジメントの推進
▶アンリツグループ環境負荷マスバランス ▶サイト別環境データ集(2010年度) ▶環境会計(2010年度の実績) ▶アンリツ環境管理活動の歴史

サプライチェーンマネジメントの推進

環境に配慮した製品を提供するためには、製品を構成する部品や材料などの環境負荷が低減されていることが不可欠です。アンリツでは「グリーン調達ガイドライン」を定め、環境に配慮された部品や材料を優先的に調達するグリーン調達を全社的に取り組んでいます。

グリーン調達

●EMS支援（環境パートナー制度）

グリーン調達を行うためには、仕入先・協力会社（取引先さま）自身の環境に対する取り組みも重要です。アンリツ（株）では、環境パートナー認定制度を設け、取引先さまの環境マネジメントシステム（EMS）の構築や製品アセスメントの実施状況について評価し、環境に積極的な取引先さまから環境に配慮した製品を優先的に調達するとともに、取引先さまの環境取り組みの推進を図っています。2009年度からは、製品含有化学物質管理体制の構築状況の評価を取り込み、取引先さま評価の強化と効率化を図っています。
取引先さまの評価は、AランクからCランクまでの3段階に分け、積極的に環境取り組みを推進しているAランクの取引先さまを環境パートナー企業として認定しています。また、B、Cランクと評価された取引先さまに対しても、環境への取り組みを充実させるための協力支援を継続的に行っています。

●有害物質の管理

有害物質を製品から排除するには、取引先さまと、さらにそこに連なる企業が、製品に含まれる化学物質管理体制を適切かつ継続的に実施していることが必要です。そこで、国内アンリツグループでは2006年度から国内の取引先さまへ訪問し、製品含有化学物質管理体制の確認を行ってきました。
2010年度は、海外の取引先さまへ対象範囲を拡大して、現地確認を実施するとともに、取引先さまへの指導、支援を行い、サプライチェーン全体で製品に含まれる化学物質管理の強化に取り組みました。

取引先さまと共に新しい価値を創出

アンリツ株式会社
環境推進部
課長
増田 博一

2008年度より、取引先さまに対する製品含有化学物質管理体制構築の監査を開始しました。当初は「製品含有化学物質管理」という言葉すらご存知ない取引先さまも多く、まず説明会を開いて製品含有化学物質管理の重要性を理解していただくところからのスタートでした。何度も訪問してコミュニケーションを図り、互いに要望や提案を交わし、一緒に管理体制を構築したこともありました。
この業務で強く感じたのは、現場に足をはこび、顔を合わせてコミュニケーションすることの大切さです。互いを深く理解しさらなる発展を共に目指すWin-Winの関係を築き、環境に配慮し安全で適正品質の商品をお客さまにお届けするという新しい価値を、取引先さまとの協同でつくり出していくことに喜びを感じています。
今後は、サプライチェーン全体で管理体制のさらなるレベルアップと範囲の拡大を図るために、海外の取引先さまとのコミュニケーションの強化にも注力していきます。

●取引先の皆さまへ

アンリツグループでは、環境に配慮した製品を開発するために、「アンリツグループグリーン調達ガイドライン」を制定し、環境負荷の少ない部品や材料を優先的に購入するグリーン調達活動を推進しています。

▲ページ先頭へ戻る

Copyright© Anritsu Corporation

アンリツグループ環境負荷マスバランス

CSRホーム
CSR報告2011
トップコミットメント
CSRの考え方
アンリツのCSR達成像
CSRマネジメント
達成像1 安全・安心で快適な社会構築への貢献
達成像2 グローバル経済社会との調和
達成像3 地球環境保護の推進
達成像4 コミュニケーションの推進
2010年度の実績、2011年度の目標
事業概要
第三者意見 第三者意見を受けて
編集方針

バックナンバー
詳細（Web）
- 2010 日本語版 英語版
- 2009 日本語版 英語版

ダイジェスト（PDF）
- 2010 日本語版 英語版
- 2009 日本語版 英語版
- 2008年以前は こちら から

▶エコマネジメント、エコマインド ▶エコオフィス、エコファクトリー ▶エコプロダクツ開発 ▶サプライチェーンマネジメントの推進
▶アンリツグループ環境負荷マスバランス ▶サイト別環境データ集(2010年度) ▶環境会計(2010年度の実績) ▶アンリツ環境管理活動の歴史

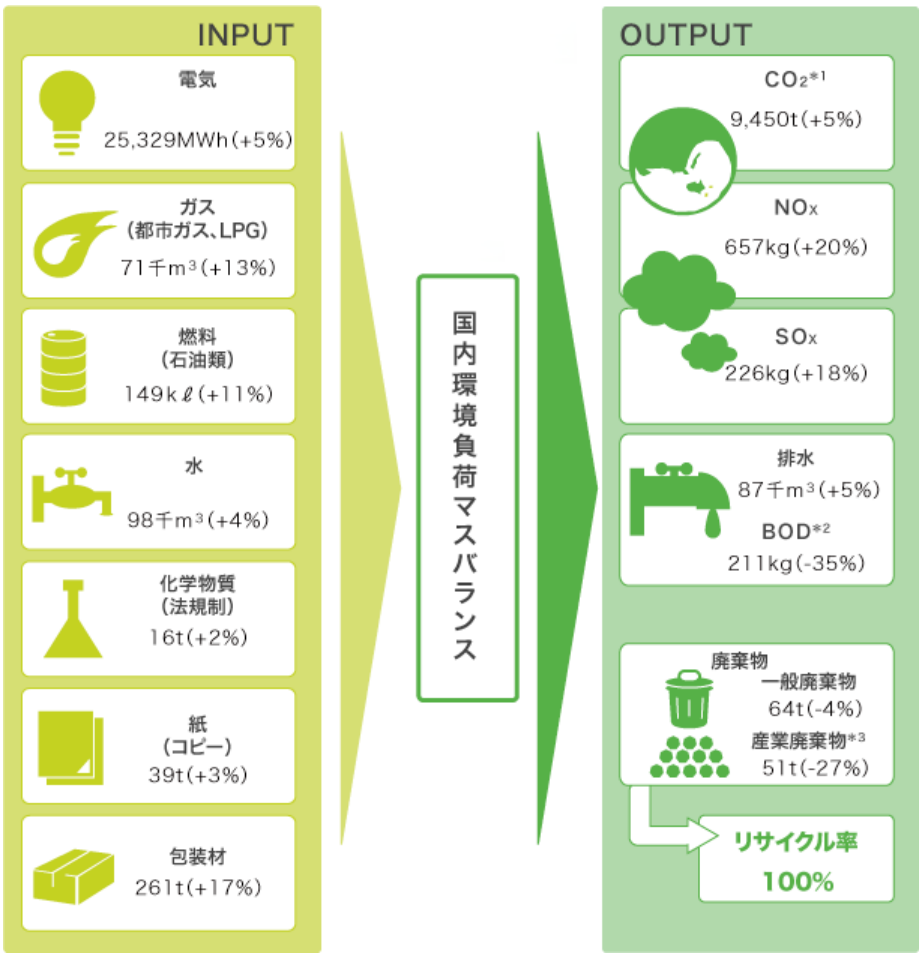
国内アンリツグループ環境負荷マスバランス（2010年度）

アンリツでは事業活動に伴う環境負荷や環境保全活動を物量単位で数値化し、環境保全活動のさらなる効率化を図っています。また、それらを積極的に情報開示することで、環境に対する取り組みへの理解を深めていただけるよう努力しています。

環境負荷マスバランス

国内アンリツグループ（厚木地区+棚沢地区+東北地区）の事業活動による環境負荷マスバランスを示します。（ ）内は2009年度比です。

環境負荷マスバランス： 事業活動と環境負荷の関連性をより明確に示すために、外部から企業内に持ち込まれる物質を物質名と物量で把握・表記し、企業から外部へ排出された物質と物量を把握・表記する対照表により、環境負荷を表したもの。



*1 CO_2排出量は、国内外のサイトいずれも「地球温暖化対策の推進に関する法律」施行令（2006.3.29改正公布）の換算係数を用いて算定しました。ただし、電力使用によるCO_2排出量は、電気事業連合会公表の排出係数（2009年度実績値：0.351t-CO_2/MWh）を使用して算定。

*2 BOD：
厚木地区の厨房排水処理施設の運転条件、薬剤注入条件などの最適化を進めたことにより水質がより向上し、BODが減少しました。

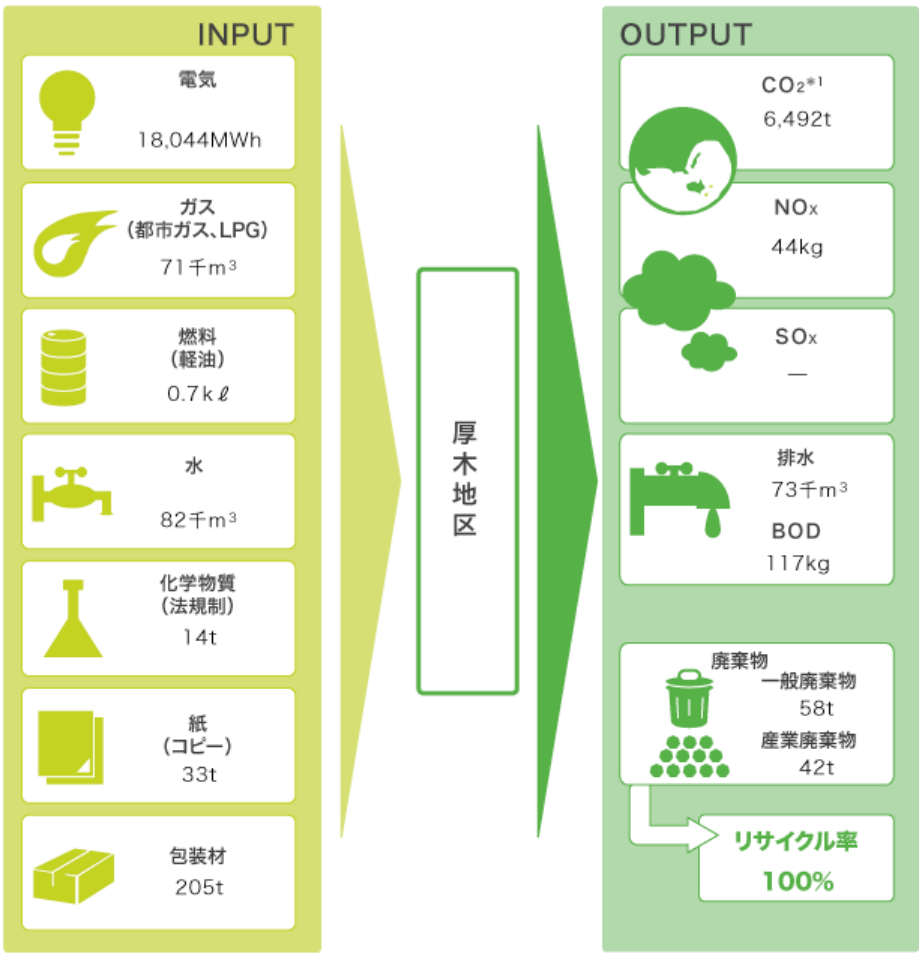
*3 産業廃棄物
厚木地区の厨房排水処理施設の改良により、汚泥の排出量が減少しました。

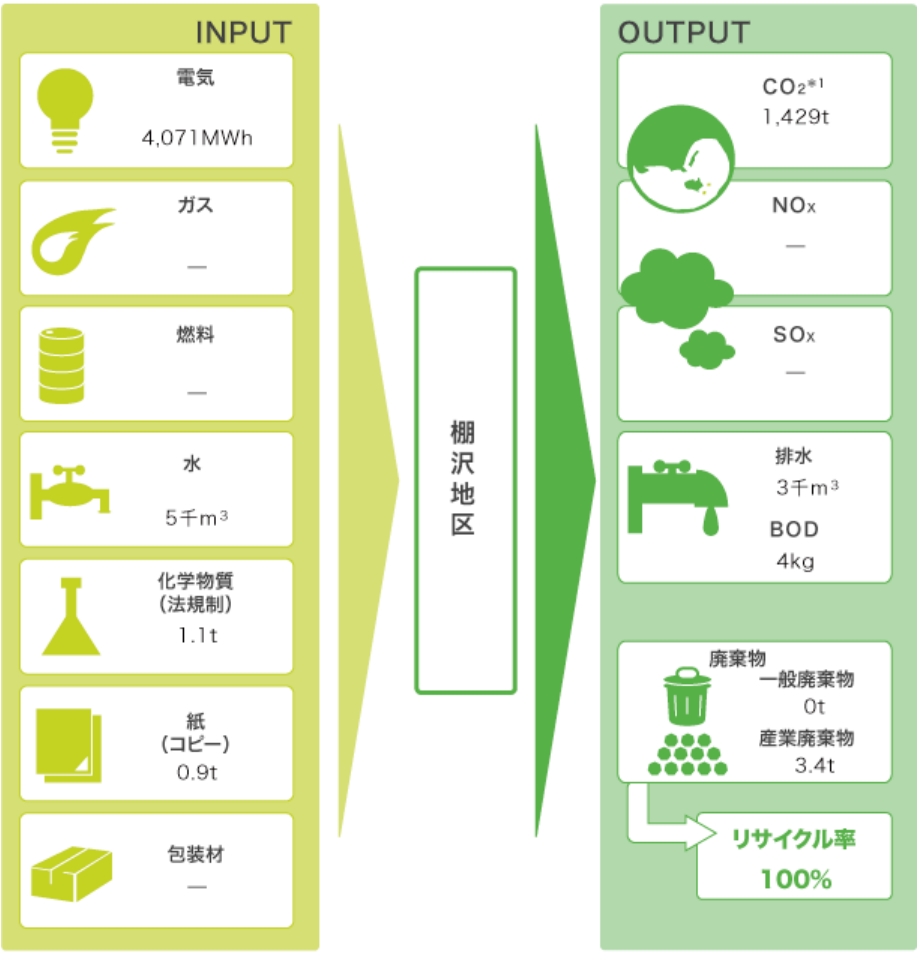
INPUT	電　気：	工場・オフィスなどで使用する電力会社からの購入電力
	ガ　ス:	エネルギーとして使用する都市ガス
	燃　料：	エネルギーとして使用する重油、軽油
	水：	水道水、地下水（再利用水を除く）
	化学物質：	法規制を受ける化学物質（毒物、劇物、危険物、有機溶剤、特定化学物質）
	紙：	工場・オフィスで使用するコピー紙
	包装材：	製品の包装・梱包材および物流時の梱包材
OUTPUT	CO_2：	電気、ガス、燃料の使用に伴って発生するCO_2（電気の使用に伴って発生するCO_2の排出係数は、電気事業連合会公表値（2009年度実績値）を使用しました）
	NOx：	ガス、燃料の使用に伴って発生する窒素酸化物
	SOx：	ガス、燃料の使用に伴って発生する硫黄酸化物
	排水：	工場・オフィスの工程系排水および生活系排水
	BOD：	生物化学的酸素要求量
	一般廃棄物：	事業活動に伴って生じた産業廃棄物以外の廃棄物（厨芥物、紙くず、木くずなど）
	産業廃棄物：	事業活動に伴って生じた廃棄物のうち汚泥、廃プラスチック類、廃酸、廃アルカリなど「廃棄物の処理および清掃に関する法律」に定められた廃棄物
	リサイクル：	廃棄物を熱回収（サーマルリサイクル）、再生利用（マテリアルリサイクル）により、資材、原料または資源として用いること

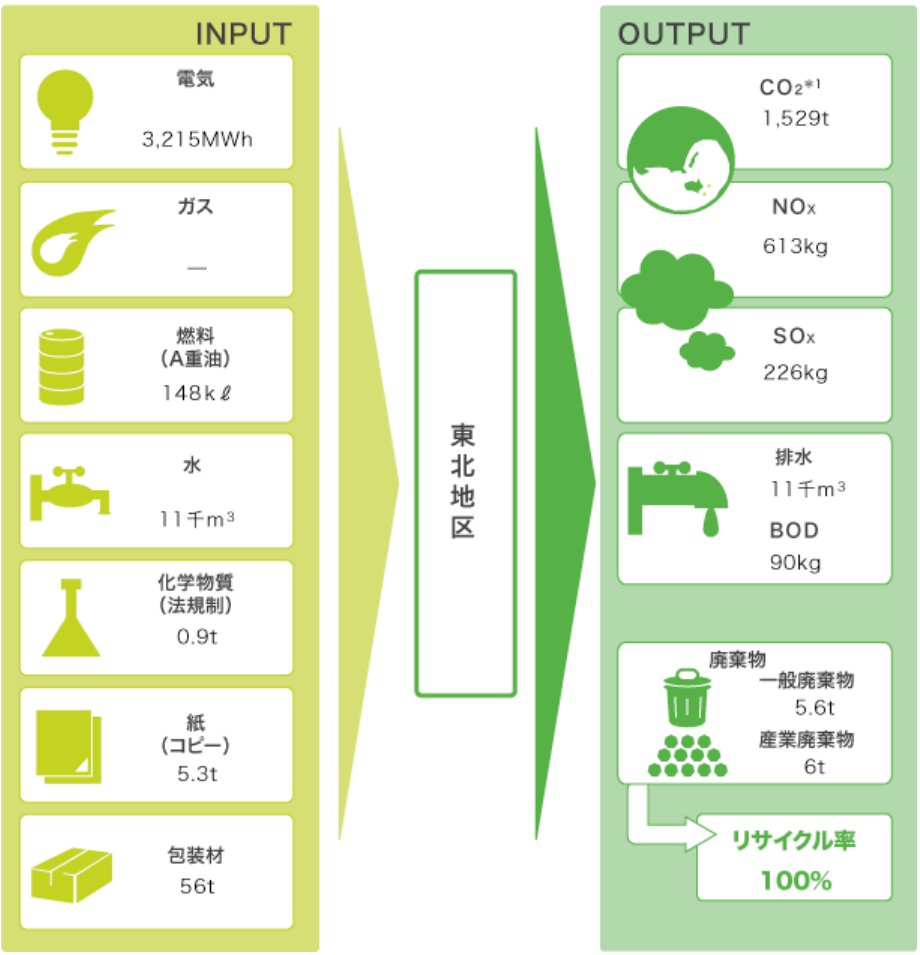
サイト別環境負荷マスバランス（2010年度）

アンリツ（厚木地区+棚沢地区+東北地区+アンリツリミテッド+アンリツカンパニー+アンリツA/S）の事業活動による環境負荷マスバランスを示します。

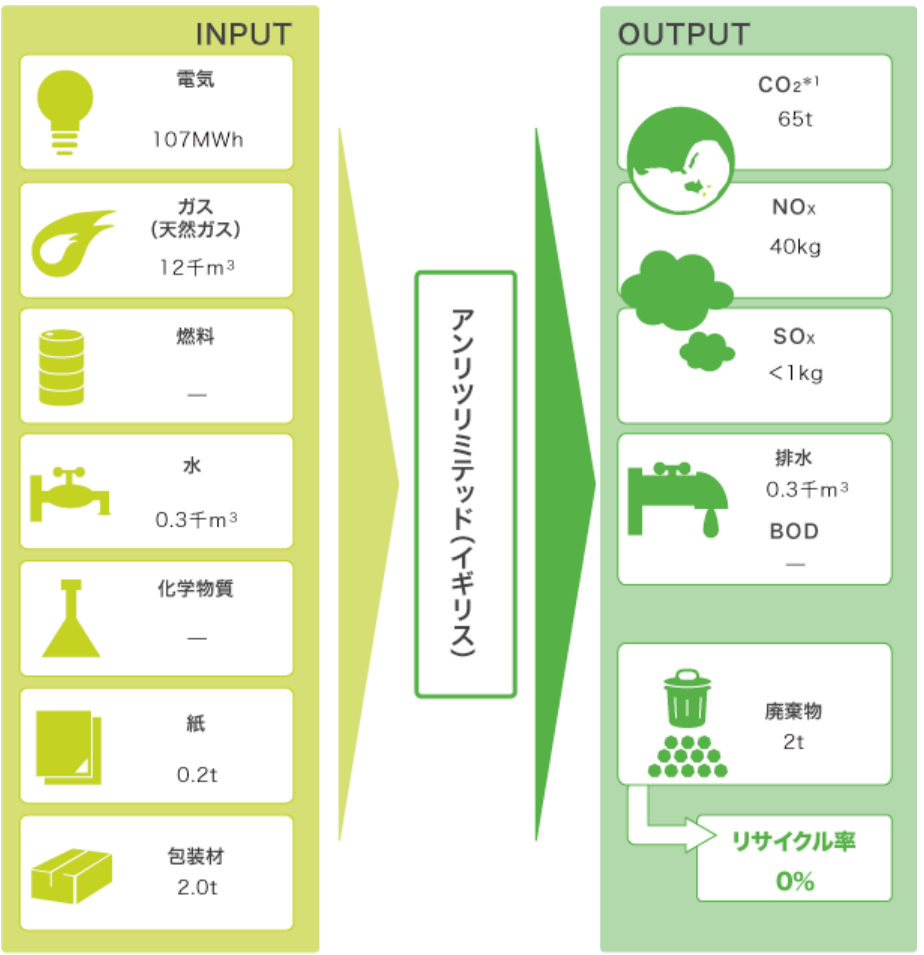
国内データ

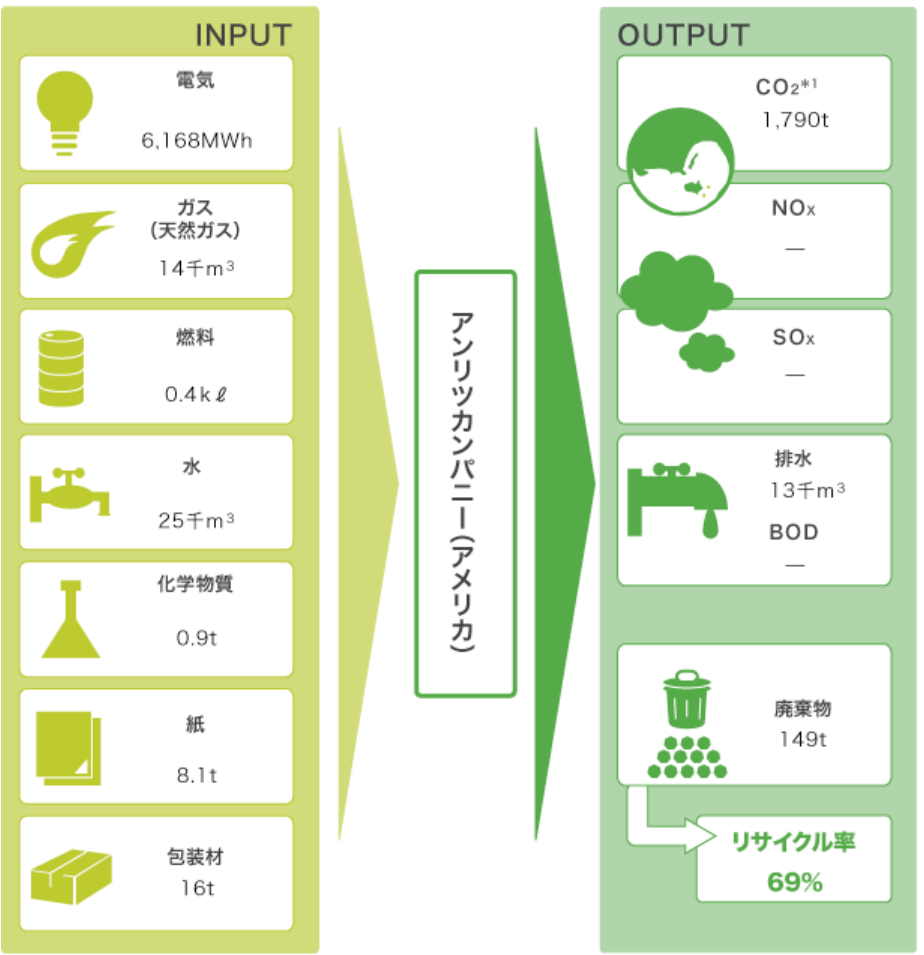


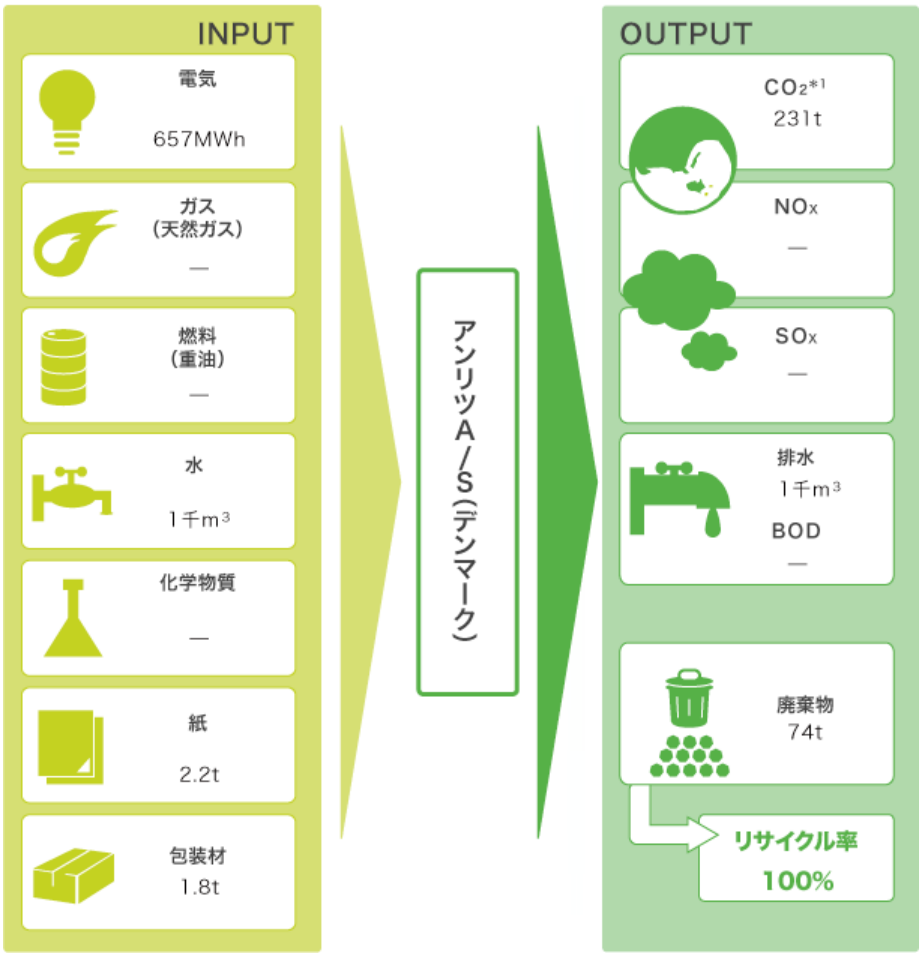




*1 CO_2排出量は、国内外のサイトいずれも「地球温暖化対策の推進に関する法律」施行令（2006.3.29改正公布）の換算係数を用いて算定しました。ただし、電力使用によるCO_2排出量は、電気事業連合会公表の排出係数（2009年度実績値：0.351t-CO_2/MWh）を使用して算定。


INPUT
電気
107MWh
ガス
(天然ガス)
12千m³
燃料
—
水
0.3千m³
化学物質
—
紙
0.2t
包装材
2.0t
アンリツリミテッド(イギリス)
OUTPUT
CO₂*1
65t
NOx
40kg
SOx
<1kg
排水
0.3千m³
BOD
—
廃棄物
2t
リサイクル率
0%


INPUT
電気
6,168MWh
ガス
(天然ガス)
14千m³
燃料
0.4kℓ
水
25千m³
化学物質
0.9t
紙
8.1t
包装材
16t
アンリツカンパニー(アメリカ)
OUTPUT
CO₂*1
1,790t
NOx
—
SOx
—
排水
13千m³
BOD
—
廃棄物
149t
リサイクル率
69%



*1 CO_2排出量は、国内外のサイトいずれも「地球温暖化対策の推進に関する法律」施行令（2006.3.29改正公布）の換算係数を用いて算定しました。ただし、電力使用によるCO_2排出量は、電気事業連合会公表の排出係数（2009年度実績値：0.351t-CO_2/MWh）を使用して算定。

▲ページ先頭へ戻る

Copyright© Anritsu Corporation

サイト別環境データ集(10年度)

CSRホーム
CSR報告2011
トップコミットメント
CSRの考え方
アンリツのCSR達成像
CSRマネジメント
達成像1 安全・安心で快適な社会構築への貢献
達成像2 グローバル経済社会との調和
達成像3 地球環境保護の推進
達成像4 コミュニケーションの推進
2010年度の実績、2011年度の目標
事業概要
第三者意見 第三者意見を受けて
編集方針

バックナンバー
詳細（Web）
2010 日本語版 英語版
2009 日本語版 英語版
ダイジェスト（PDF）
2010 日本語版 英語版
2009 日本語版 英語版
2008年以前は こちら から

▶エコマネジメント、エコマインド ▶エコオフィス、エコファクトリー ▶エコプロダクツ開発 ▶サプライチェーンマネジメントの推進
▶アンリツグループ環境負荷マスバランス ▶サイト別環境データ集(2010年度) ▶環境会計(2010年度の実績) ▶アンリツ環境管理活動の歴史

サイト別環境データ集(10年度)

●厚木地区

水質（公共下水道排出基準：法・厚木市条例）

項目*1		排出基準（mg/l）		実測値（mg/l）		
		規制値	自主管理基準	平均	最小	最大
pH		5.7-8.7	6.0-8.4	7.0	6.7	7.8
SS		300	120	9.2	4.8	19
BOD		300	180	3.6	2.5	5.2
ノルマルヘキサン抽出物質	鉱物油	5	3	1	1	1
	動植物油	30	18	1	1	1
よう素消費量		220	90	1.15	1	1.6
ふっ素化合物		8	4.8	0.25	0.2	0.3
シアン化合物		1	0.4	0.01	0.01	0.01
全窒素		125	50	0.85	0.5	1.4
溶解性鉄		10	4	0.11	0.06	0.13
銅		3	1.2	0.05	0.05	0.05
亜鉛		2	1.2	0.29	0.09	0.79
ニッケル含有物		1	0.6	0.05	0.05	0.05
鉛		0.1	0.06	0.01	0.01	0.02

*1.上記以外の公共下水道排出基準にかかわる項目は、原材料として使用していないため、測定していません

騒音（神奈川県条例）

測定箇所	規制値（dB）	自主管理基準（dB）	実測値（dB）
東側敷地境界線	70（昼間）	68（昼間）	53
西側敷地境界線			49
南側敷地境界線			56
北側敷地境界線			56

地下水

項目	環境基準値（mg/l）	実測値（mg/l）
トリクロロエチレン	0.03	0.014
テトラクロロエチレン*2	0.01	0.014
1,1,1-トリクロロエタン	1	0.0005未満
1,1-ジクロロエチレン	0.02	0.002未満
ジクロロメタン	0.02	-*3
シス-1,2-ジクロロエチレン	0.04	0.025

*2. テトラクロロエチレンは基準値を超過していますが、厚木地区における使用実績は有りません
*3. 前年度結果が定量下限値(0.002mg/ｌ)未満の為、測定せず

●棚沢地区

水質（公共下水道排出基準：法・厚木市条例）

項目[*4]		排出基準（mg/l）		実測値（mg/l）		
		規制値	自主管理基準	平均	最小	最大
pH		5.7-8.7	6.0-8.4	7.19	7	7.9
SS		300	120	1	<1	1
BOD		300	180	0.78	<0.5	1.6
ノルマルヘキサン抽出物質	鉱物油	5	3	0.6	<0.5	2.5
	動植物油	30	18	[*5]		
よう素消費量		220	90	1.04	0.5	3.3
ふっ素化合物		8	4.8	0.8	0.28	1
シアン化合物		1	0.4	0.01	0.01	0.01
全窒素		125	50	4.7	1.7	17
ほう素		10	4	0.1	0.1	0.1
全クロム		2	0.8	0.05	0.05	0.05
溶解性鉄		10	4	0.06	0.05	0.16
銅		3	1.2	0.05	0.05	0.05
亜鉛		2	1.2	0.02	0.01	0.18
溶解性マンガン		1	0.4	0.035	0.02	0.2
ニッケル含有物		1	0.6	0.05	0.05	0.05
鉛		0.1	0.06	0.01	0.01	0.01

[*]4. 上記以外の公共下水道排出基準にかかわる項目は、原材料として使用していないため、測定していません
[*]5. 鉱物油が自主基準値を超過した時測定

騒音（神奈川県条例）

測定箇所	規制値（dB）	自主管理基準（dB）	実測値（dB）
東側敷地境界線	70（昼間）	68（昼間）	52
西側敷地境界線			49
南側敷地境界線			48
北側敷地境界線			53

●東北地区

水質（水質汚濁防止法排出基準：法・福島県条例）

項目[*6]	排出基準（mg/l）		実測値（mg/l）		
	規制値	自主管理基準	平均	最小	最大
pH	5.8-8.6	6.0-8.4	7.2	7.1	7.4
SS	70	30	3.3	1	7.7
BOD	40	20	5.8	2	12
溶解性鉄[*7]	10	4	0.1	?	?
銅[*7]	2	0.8	0.03	?	?
亜鉛[*7]	2	1.2	0.05	?	?
ニッケル化合物[*7]	2	0.8	定量下限値（0.01mg/l）未満	?	?
鉛[*7]	0.1	0.08	定量下限値（0.05mg/l）未満	?	?
大腸菌群数（個/m^3）	3000	2400	0	0	0

[*]6. 上記以外の水質汚濁防止法排出基準にかかわる項目は、原材料として使用していないため、測定していません
[*]7. 測定頻度が1回/年のため、最小、最大値は記載しておりません

騒音（福島県条例）

測定箇所	規制値（dB）	自主管理基準（dB）	実測値（dB）
南側1敷地境界線	75 （昼間）	74 （昼間）	61
南側2敷地境界線			62
東側敷地境界線			54
西側敷地境界線			50

地下水

項目	環境基準値（mg/l）	実測値（mg/l）
トリクロロエチレン	0.03	定量下限値（0.002mg/l）未満
テトラクロロエチレン	0.01	定量下限値（0.0005mg/l）未満
1,1,1-トリクロロエタン	1	定量下限値（0.0005mg/l）未満
1,1-ジクロロエチレン	0.02	定量下限値（0.002mg/l）未満
四塩化炭素	0.002	定量下限値（0.0002mg/l）未満
シス-1,2-ジクロロエチレン	0.04	定量下限値（0.004mg/l）未満

大気（大気汚染防止法、福島県条例）

項目	排出基準		実測値
	規制値	自主管理基準	
ばいじん（g/m^3N）	0.3	0.18	定量下限値（0.005mg/l）未満
硫黄酸化物（m^3N/h）	4.37	2.63	0.08
窒素酸化物（ppm）	180	170	95

▲ページ先頭へ戻る

Copyright© Anritsu Corporation

環境会計（10年度）

CSRホーム
CSR報告2011
トップコミットメント
CSRの考え方
アンリツのCSR達成像
CSRマネジメント
達成像1
安全・安心で快適な社会構築への貢献
達成像2
グローバル経済社会との調和
達成像3
地球環境保護の推進
達成像4
コミュニケーションの推進
2010年度の実績、2011年度の目標
事業概要
第三者意見
第三者意見を受けて
編集方針

バックナンバー
詳細（Web）
2010 日本語版 英語版
2009 日本語版 英語版
ダイジェスト（PDF）
2010 日本語版 英語版
2009 日本語版 英語版
2008年以前は こちら から

▶エコマネジメント、エコマインド ▶エコオフィス、エコファクトリー ▶エコプロダクツ開発 ▶サプライチェーンマネジメントの推進
▶アンリツグループ環境負荷マスバランス ▶サイト別環境データ集(2010年度) ▶環境会計(2010年度の実績) ▶アンリツ環境管理活動の歴史

環境会計：2010年度の実績

2010年度の費用額は、資源循環コストの増加により、対前年度比12%増となりました。これは、リサイクル物品量の増加に伴うものです。
効果については、世界同時不況からの景気回復基調の中、2010年度は受注・生産とも順調に回復したため、CO_2排出量の削減量は減少しました。

・集計範囲：国内アンリツグループ
・集計期間：2010年4月1日から2011年3月31日

[ ]内の数値は、2009年度実績

環境保全コスト					効果	
大分類	中分類		投資額（百万円）	費用額（百万円）	経済効果（百万円）	物量削減効果
事業エリア内コスト	公害防止コスト （リスク対策含む）		0 [0]	17.3 [12.3]	146.1 [146.1]	
	地球環境保全コスト	温暖化防止	5.8 [5.1]	6.0 [5.8]	76.8 [111.8]	1,464 （トン-CO_2）[1,897 （トン-CO_2）]
	資源循環コスト	資源循環／活用活動		91.8 [69.3]	0.1 [0.1]	22.3（トン） [12.6（トン）]（廃棄物削減量）
		廃棄物処理費		24.6 [28.9]	13.7 [10.0]	
上下流コスト	グリーン購入／調達コスト			23.3 [26.0]	（34.9 [29.8]）*1	（720（トン-CO_2）[653（トン-CO_2）] ）*1
	環境配慮型製品設計			22.1 [30.9]		
	製品・容器包装などリサイクル、回収、処理			0.0 [0.0]		
管理活動コスト	環境教育／人材育成			18.7 [13.3]		
	EMS運用・維持、内部監査			58.9 [43.7]		
	環境負荷の監視測定コスト			3.6 [8.6]		
	環境保全対策組織の人件費			9.2 [8.6]		
	緑化整備・維持			9.0 [8.8]		
社会活動コスト	地域・環境保全団体などへの支援			1.2 [1.1]		
	情報公開			6.6 [3.2]	0.2 [0.0]	
研究開発コスト	環境負荷低減のための研究開発			2.1 [2.9]		
環境損傷対応コスト	環境損傷対応のためのコスト			0.0 [0.0]		
合計			5.8 [5.1]	294.4 [263.4]	236.9 [268.0]（34.9 [29.8]）*1	
前年度比			13.7%	11.8%	-11.6%	

*1.製品の使用時における環境負荷抑制効果（みなし効果）削減電力：2,052.4MWh [1,750MWh]

▲ページ先頭へ戻る

Copyright© Anritsu Corporation

アンリツ環境管理活動の歴史

CSRホーム
CSR報告2011
トップコミットメント
CSRの考え方
アンリツのCSR達成像
CSRマネジメント
達成像1 安全・安心で快適な社会構築への貢献
達成像2 グローバル経済社会との調和
達成像3 地球環境保護の推進
達成像4 コミュニケーションの推進
2010年度の実績、2011年度の目標
事業概要
第三者意見 第三者意見を受けて
編集方針

バックナンバー
詳細（Web）
- 2010 日本語版 英語版
- 2009 日本語版 英語版

ダイジェスト（PDF）
- 2010 日本語版 英語版
- 2009 日本語版 英語版
- 2008年以前は こちら から

アンリツ環境管理活動の歴史

2010年	神奈川県知事より「神奈川県環境整備功労者表彰」（循環型社会形成の推進）を企業として受賞
2009年	日本経団連生物多様性宣言推進パートナーズへの参加
2008年	ISO14001の認証取得範囲をアンリツ（株）営業拠点に拡大
2007年	「平成19年度かながわ地球環境賞」を受賞（厚木地区） Anritsu Company（アメリカ）でISO14001認証取得
2006年	アンリツ・カンパニー（USA）がカルフォルニア州モーガンヒル市から2006 Excellence Awardを受賞 厚木地区廃棄物対策協議会会長賞受賞
2005年	東北アンリツ（株）が福島県主催のゼロエミッション活動提案コンクールの事業部門において優秀賞を受賞 第1回グローバル環境管理会議をアンリツ・リミテッド（イギリス）で開催
2004年	『アンリツグループグリーン調達ガイドライン』に改訂 国内アンリツグループの全開発・製造拠点でゼロエミッション達成
2003年	ISO14001の登録範囲を統合し、棚沢地区、厚木地区のグループ会社および東北アンリツ（株）を含める
2002年	社内の環境関連部門（環境管理部、環境技術部）を統合し、環境推進センターを設置 ISO14001の登録範囲を拡大し、棚沢地区および厚木地区のグループ会社を含める リサイクルセンター産業廃棄物処分業の免許取得
2000年	アンリツ・リミテッド（イギリス）でISO14001認証取得 アンリツエコ製品制度の制定 リサイクルセンター設立
1999年	『アンリツグリーン調達ガイドラインー製品開発用ー』制定 東北アンリツ（株）でISO14001認証取得
1998年	厚木事業所でISO14001認証取得 関東通商産業局長から緑化優良工場として表彰 技術本部に環境技術グループ設置 鉛フリーはんだ委員会発足
1997年	環境方針制定
1996年	グリーン購入ネットワークに加入 アンリツ環境マニュアル制定 厚木事業所で大防法対象特定施設（灯油ボイラー）廃止
1995年	厚木地区廃棄物対策協議会会長賞受賞
1994年	厚木ZP委員会を厚木環境管理委員会に改組 製品アセスメント委員会発足
1993年	オゾン層破壊物質全廃（除く冷媒、消火器） 環境管理委員会発足 ニカド電池規制対応 環境理念および環境管理システム規程の制定 臭素系難燃剤の調査と対応 エネルギー対策専門委員会発足

1992年	環境保全設計調査WG発足
1991年	（財）日本緑化センター会長賞受賞
1990年	化学物質の購入・給配の一元化開始 厚木事業所総務部に環境管理課設置
1987年	厚木事業所で工程系配管の架空配管整備
1981年	神奈川県県央地区行政センターから環境保全功労表彰を受ける
1980年	神奈川県緑化モデル工場として表彰される
1979年	神奈川県環境保全協議会から環境保全優良工場として表彰される
1978年	雨水以外の排水を公共下水道に接続（厚木事業所）
1974年	厨房排水処理施設として活性汚泥処理方式施設導入
1970年	ZP（Zero Pollution）委員会発足
1962年	化工工場開設に伴い排水処理施設設置（厚木事業所）

▲ページ先頭へ戻る

Copyright© Anritsu Corporation

達成像4 コミュニケーションの推進

CSRホーム
CSR報告2011
トップコミットメント
CSRの考え方
アンリツのCSR達成像
CSRマネジメント
達成像1
安全・安心で快適な社会構築への貢献
達成像2
グローバル経済社会との調和
達成像3
地球環境保護の推進
達成像4
コミュニケーションの推進
2010年度の実績、
2011年度の目標
事業概要
第三者意見
第三者意見を受けて
編集方針

バックナンバー

詳細（Web）

- 2010 日本語版 英語版
- 2009 日本語版 英語版

ダイジェスト（PDF）

- 2010 日本語版 英語版
- 2009 日本語版 英語版
- 2008年以前は こちら から

達成像4 コミュニケーションの推進

ステークホルダーとのコミュニケーション

MORE

アンリツグループはさまざまな機会を通して、多くのステークホルダーとコミュニケーションを図っています。

▲ページ先頭へ戻る

Copyright© Anritsu Corporation

ステークホルダーとのコミュニケーション

CSRホーム
CSR報告2011
トップコミットメント
CSRの考え方
アンリツのCSR達成像
CSRマネジメント
達成像1
安全・安心で快適な社会構築への貢献
達成像2
グローバル経済社会との調和
達成像3
地球環境保護の推進
達成像4
コミュニケーションの推進
2010年度の実績、
2011年度の目標
事業概要
第三者意見
第三者意見を受けて
編集方針

バックナンバー

詳細（Web）
- 2010 日本語版 英語版
- 2009 日本語版 英語版

ダイジェスト（PDF）
- 2010 日本語版 英語版
- 2009 日本語版 英語版
- 2008年以前は こちら から

ステークホルダーとのコミュニケーション

お客さま

アンリツは、お客さまに対するテクニカルサポートやクレームなどへの迅速な対応を重視しています。お客さまに安全と安心を提供できるよう、将来を見据えた戦略的なサポート体制およびグローバルな情報共有体制の構築を推進しています。

＜関連ページ＞
お客さまへのサービス

株主・投資家とのコミュニケーション

株主・投資家の皆さまのニーズへ的確に応えるとともに、いただいたご意見を事業活動やIR活動の改善に役立てるために、双方向のコミュニケーションに努めながら積極的な情報開示を行っています。

●ディスクロージャーポリシー（情報開示方針）

アンリツは、すべてのステークホルダーに対して、正しい情報を、その内容や開示環境の良し悪しにかかわらず、関連法規に従い、誠意ある対応をもって公正かつ積極的に開示します。

▶ディスクロージャーポリシー

＜行動指針＞

1．正しい情報を、
明確でわかりやすく発信する。
積極的に適時かつすみやかに発信する。
広く平等に伝わるように発信する。

2．情報管理を徹底し、インサイダー取引の未然防止に努める。

●IR（投資家向け広報）活動の体制

アンリツは株主・投資家とのコミュニケーションを通して、企業価値を適正に株価や株主還元へ反映させ、高い株主満足度の実現を目指しています。そのために、コーポレートコミュニケーション部IR推進チームが主体となり、IR活動を実施しています。株主・投資家の声は、経営層が参加する情報開示委員会や、IR活動に関連する経営企画、経理、法務の各部門担当者が参加するIR推進会議にフィードバックするとともに、情報開示の改善や事業活動の改善に繋げています。

▶投資家のみなさまへ

●2010年度の活動

アンリツは、一般消費者とは直接の接点が少ない事業をグローバルに展開しているので、事業構造や収益を創造するしくみ、業績に影響を与える要因を株主・投資家の皆さまに正しくご理解いただくことを意識しながら、IR活動を実施しています。継続的な活動として、国内外機関投資家への四半期毎の事業説明活動や株主総会における株主懇談会の開催、アニュアルレポートや事業報告書などの発行、ホームページを通した情報開示などを実施しています。
2010年度は、四半期毎の決算開示や中期経営計画の説明に加え、ユーロ円建て新株予約権付転換社債100億円の発行による資金調達や、約15%にあたる1,920万株の株式売出しに関する情報開示を行い、株主・投資家からのお問い合わせなどに対応いたしました。また、Webによる株主向けアンケートの実施や、外部ファイナンス情報サイトへの企業情報やIR情報の掲載など、幅広い投資家へ積極的に情報発信しています。

アニュアルレポート

●株主の構成（2011年3月31日現在）

株式・社債・格付情報

●外部評価

アンリツ（株）は、モーニングスター株式会社によるMS-SRI「モーニングスター社会的責任投資株価指数」の構成銘柄に選定されている他、さまざまなSRIファンドに組み込まれています。また、投資家向けインターネットサイトの優秀企業賞として、大和インベスター・リレーションズから10年間連続で表彰されています。

取引先さま

取引先さまとの信頼関係を強化し、お互いの成長につなげていくことが重要と考えています。取引先さまの参画により強固なパートナーシップを構築していくこと、さらにサプライチェーン全体で社会の期待・要請に応えていくことを重視しています。

▶コラム：共に持続可能な社会を構築するパートナーとして **株式会社マクニカ 沼谷友輔様**

社員

グローバルな事業展開および働き方の多様化に伴ない、人権の尊重と多様性の推進はますます重要になっています。人材の採用や、組織内のコミュニケーション活性化の観点からも、多様な人材が働きやすい制度・職場環境の整備を重視しています。

＜関連ページ＞
人権の尊重と多様性の推進、人材育成

▲ページ先頭へ戻る

Copyright© Anritsu Corporation

2010年度の実績、2011年度の目標

CSRホーム
CSR報告2011
トップコミットメント
CSRの考え方
アンリツのCSR達成像
CSRマネジメント
達成像1 安全・安心で快適な社会構築への貢献
達成像2 グローバル経済社会との調和
達成像3 地球環境保護の推進
達成像4 コミュニケーションの推進
2010年度の実績、2011年度の目標
事業概要
第三者意見
第三者意見を受けて
編集方針

バックナンバー

詳細（Web）
- 2010 日本語版 英語版
- 2009 日本語版 英語版

ダイジェスト（PDF）
- 2010 日本語版 英語版
- 2009 日本語版 英語版
- 2008年以前は こちら から

2010年度の実績、2011年度の目標

2010年度の目標・実績と2011年度の目標

特に記載のある場合を除いて、対象はアンリツ株式会社および国内グループ会社です。

評価――○:達成 △:達成率80%以上 ×:未達成

達成像	重要課題	2010年度目標	2010年度実績	達成度	2011年度目標
[達成像1] 安全・安心で快適な社会構築への貢献	光技術への サービス	①国内アンリツグループのお客様窓口の整備、改善活動の向上	①お客様窓口フローを整理し、各種管理指標を改定	○	①グローバルCS推進活動の旗の掲げ（アジア拡張） ②世界CS推進のグループ内報をとおしたCS意識向上の実施 ③アンリツグループ全体へのCS教育の実施
		②国内アンリツグループの修理業に特化した世界CS推進の実施	②海外含めCS推進を実施（年次修理、特別点検修理）。 「問題メール」設置による CS推進を実施（約1年間）	○	
		③CS活動の修理業グループへの展開およびCS教育の実施	③CS推進担当CS活動を修理業グループへ展開、インフラキットやCS活動を用いたCS教育スケジュールを立案・実施（2010年度実績者：延べ1名）	○	
	企業ブランドの向上	Webを活用した適時なコミュニケーションの推進	発信中のニュースに対応、CSRのニュースを積極的に発信	○	Webを活用した適時なコミュニケーションを継続
	社会的課題への積極的対応	重要課題の検討およびステークホルダーとのコミュニケーションの推進	重要課題等下ごしに組み込み、取り組みを推進	○	社会的課題に対した事業活動の推進
[達成像2] グローバル経済社会との調和	コンプライアンスの充実	①グローバルなコンプライアンス推進計画の立案と実施	①グループ内動向調査、ビアンリングループ一員としての心得を立案し、グローバル組織へ展開	○	①グローバルなコンプライアンス推進の中期計画立案と実施 ②内部統制、業務のための教育ツールの充実とグローバル展開 ③内グループ会社のヘルプライン窓口との定期的な連絡会の実施
		②独禁法グループ内動向調査のWebでの公開と年子の配布によるコンプライアンス意識の向上	②独禁法「グループ内動向調査」のWebでの公開と「アンリツグループ一員としての心得」を全社員に配布	○	
		③国内グループ会社のヘルプライン窓口との連絡体制の構築	③国内グループ会社のヘルプライン窓口との定期連絡会を実施。ヘルプライン体制を運用を開始	○	
	リスクマネジメントの推進（情報セキュリティ）	①グローバルなIT規制の確立	①日本、アジア、ヨーロッパ、アメリカのITマネージャによる「IT規制の強化方針」を策定	○	①LSIメモリ管理の推進 ②セキュリティ教育の継続 ③SNS（情報セキュリティマネジメントシステム）の部門継続 ④IT規制の改善 ⑤外部委託会社のセキュアな情報共有の展開
		②国内会社、社員へのセキュリティの教育・啓発活動の推進	②CS推進IT部と連携下にあってセキュリティ関連のビデオによる啓発を実施	○	
		③システム監視機能の改善	③システム監視ソフトウェアを導入し、主要なサーバに対し、監視を開始	○	
		④グローバルなWebセキュリティポリシーによる運用改善	④グローバルなWebのソースを完了。Webサイトの脆弱性テストによるセキュリティ強化を実施	▲	
		⑤サーバ統合によるグリーンIT の実践	⑤サーバの統合により処理サーバを半減	○	
		⑥社内用機器などのウイルス対策の強化	⑥社内用機器などのウイルス対策強化を一部の地域で対応開始	○	
	リスクマネジメントの推進（内部統制）	①有効で合理的な内部統制のモニタリングによるリスクマネジメントの強化	・対象部署以外への内部統制の展開を拡大。 ・リスクアプローチによる監査手続を開発し、業務監査ツールを開発 ・有効で効率的な監査実施法入と合理的な監査対象選定を実施する監査計画策定手続きを開発	○	①リスクアプローチに基づいた内部監査による全社的なリスクマネジメントの強化 ②内部統制の第三者評価対応の検査・指導などを通してのグローバルなリスクマネジメント体制の強化
		②社内での内部統制評価体制の拡充によるグローバルなリスクマネジメント体制の強化	②内にあっては内部監査関連リスクの洗い出しとコントロール整備を完了	○	
	サプライチェーンマネジメント	①グローバルレベル情報共有が実施できる体制の構築	①関連メンバーをグローバルに配置	○	①グローバル情報共有の構築 ②常時活用光監査の推進 ③CSR報告の強化 ④グローバルレベルでのBCPの策定と実施
		②常時活用光監査体制の構築	②活用光監査部門の業務に対応するシステムを改善	○	
		③CSR報告の強化	③アンリツグループCSR報告対象部門会を実施。ガイドラインの運用を開始	○	
		④グローバルレベルでのBCP原案策定部門の策定と実施	④対象300名を対象にした教育の実施を完了	▲	
		⑤作業状況に応じ、BCPが実施しできる体制の構築	⑤実践的な動（込み）訓練として実施 予定	×	
	人材の確保と育成 人材育成	①教育研修プログラム、キャリアパスなどの実施	①人材育成体系の整備と情報をキャリアパスなどを検討	▲	①グローバル人材育成のための新しい人材育成体系に基づいたプログラムの実施 ②国内アンリツグループ全体での改定活用率指標を検討。 ③海外現地法人とアンリツグループとしての電力対策の実行とBCPの実施。 ④社員との対話の継続実施とキャリア支援計画の策定と実施（LSA、UK、中国）
		②障がい者雇用の推進	②国内グループ会社の障がい者雇用率指標を検討。アンリツ株式会社2010年1月雇用率目標：1.8%	○	
		③グローバルに活躍できる人材の長期育成体系の構築	③海外研修プログラムの実施概ね中止で検討	▲	
		④社員との対話の継続実施とキャリア支援計画の策定と実施（LSA、UK、中国）	④人事部長海外出張（ATlanta＋A2100 Paris）に基づく提言を継続実施（LSA） LSA、欧州、アジアパシフィック地域で社員意識調査や社員との対話を実施 社員教育、育成を継続実施（中国）	○	
	労働安全衛生	①労働時間適正化施策の実施（継続）	①国内アンリツグループ共通方針に基づく活動を継続。 ・新事業所における定時退社の推進、定時退社日の設定などの活動内容を一部変更した取り組みを実施	○	①労働時間適正化施策の継続 ②アンリツ株式会社社員の休暇取得ゼロの継続 ③メンタルヘルス対策の充実（継続） ④社員との対話を継続的に場合、労働安全衛生の実践強化計画の策定と実施（LSA、UK、中国）
		②アンリツ株式会社社員の休暇取得ゼロの継続	②アンリツ株式会社社員の休暇取得ゼロを継続（2011年3月末）	○	
		③メンタルヘルス対策の充実（継続）	③専門家による管理職向け研修教育を実施。外部カウンセラーによるフレッシュミーティングを継続	○	
		④社員との対話を継続的に場合、労働安全衛生の実践強化計画の策定と実施（LSA、UK、中国）	④社員への技術プログラム提供、安全教育を実施（LSA） 社員の相談窓口への対応を継続実施（UK）	▲	
	社会貢献活動の推進	「地域密着グローバルに展開する。 ①地域社会貢献の方針の策定と各地域での活動の推進	①CSR報告2010（Web版）に「社会貢献活動」方針を公開	○	①地域社会貢献の方針をグローバルに徹底 ②グローバルな地域社会貢献活動の他地域で開始を適時時示 ③社員のボランティア活動の定着と活動内容の拡充
		②地域社会貢献活動の社内向け開始を適時時示	②社内向けWebサイトの「CSR情報」内に「CSRニュース欄」を設け、参考資料の提・社会貢献活動を適時時示（日本）	○	
		③社員のボランティア活動の定着と活動内容の拡充	③社内用において社会貢献活動を社内へ発信し社員の活動のボランティア活動参加文化を定着	▲	
[達成像3] 地球環境保護の推進	環境保全の推進	①廃棄物の削減・リサイクル ・廃棄物（一般廃棄物と産業廃棄物）の発出量を160.4トン以下に抑制する（国内アンリツグループ） ・国内以外での廃棄物の排出量を2010年度第4四半期までに2009年度比（7%削減（LSA）	①廃棄物の削減・リサイクル ・廃棄物の発出量は114.8トン ・国内以外での廃棄物の排出量は、7.3%削減（LSA）	○ ▲	①廃棄物（一般廃棄物と産業廃棄物）の発出量を160.4トンに以下に抑制（国内アンリツグループ） ・国内以外での廃棄物の排出量を2011年度第4四半期までに2009年度比（7%削減（LSA） ②エネルギー・省エネルギー ・エネルギー使用量（原油換算）を2006年度比7.5%削減（国内アンリツグループ） ・エネルギー使用量を2009年度比（1%削減（LSA） ・他の使用量を2009年度比（7%削減 ・水の使用量を2009年度比2%削減（LSA） ③エコプロダクツ（国内アンリツグループ） ・対象製品のすべてを演算増製品にする ・対象製品のすべてを省資源（7%以上の製品にする ・対象製品のすべてを消費電力効率30%以上の製品にする ④特許取得活動 ・ゼロエミッションの維持（達成率0.5%未満（国内アンリツグループ） ・廃棄業務の社会管理保事経済ゼロの維持（0件（事業所 対応）
		②エネルギー・省エネルギー ・エネルギー使用量（原油換算）を2006年度比6.0%削減する（国内アンリツグループ） ・エネルギー使用量を2009年度比（1%削減（LSA） ・他の使用量を2009年度比（7%削減 ・水の使用量を2009年度比2%削減（LSA）	②エネルギー使用量（原油換算）は、10.6%削減 ・エネルギー使用量は、1.1%削減（LSA） ・他の使用量は、2009年度から増加（LSA） ・水の使用量は、2.1%削減（LSA）	○ ○ ×	
		③エコプロダクツ（国内アンリツグループ） ・対象製品の中で演算増製品品の占める割合：50%以上 ・対象製品の中で効果機能比省資源（10%以上の機種）の占める割合：30%以上（対象項目：体積、質量、出荷時、消費電力） ・対象製品の中で効果機能比消費電力効率30%以上の機種の占める割合：20%以上	③エコプロダクツ（国内アンリツグループ） ・演算増製品品の占める割合：100% ・省資源（10%以上の機種の占める割合：33.3% ・消費電力効率30%以上の機種の占める割合：66.7%	○ ○ ○	
		④特許取得活動 ・ゼロエミッションの維持（達成率0.5%未満（国内アンリツグループ） ・廃棄業務の社会管理保事経済ゼロの維持（0件（事業所 対応）	④特許取得活動 ・廃棄業務（一般廃棄物の達成率：0% ・社会管理保事経済中例：0件	○	
[達成像4] コミュニケーションの推進	ステークホルダーとのコミュニケーション	発信情報量増大によるCSR報告の強化	Webサイトのトップページにニュース発信情報を開設し、運用開始	○	Web版CSR報告の充実強化の推進

（LSAとはAnritsu Company（アメリカ）、UKとはAnritsu EMEA Limited（イギリス）、中国とはAnritsu Company Limited（香港）を表します。

詳細をご覧になる場合はこちらを開いてください。（PDF）

▲ページ先頭へ戻る

Copyright© Anritsu Corporation

事業概要

CSRホーム
CSR報告2011
トップコミットメント
CSRの考え方
アンリツのCSR達成像
CSRマネジメント
達成像1
安全・安心で快適な社会構築への貢献
達成像2
グローバル経済社会との調和
達成像3
地球環境保護の推進
達成像4
コミュニケーションの推進
2010年度の実績、
2011年度の目標
事業概要
第三者意見
第三者意見を受けて
編集方針

バックナンバー

詳細（Web）

- 2010 日本語版 英語版
- 2009 日本語版 英語版

ダイジェスト（PDF）

- 2010 日本語版 英語版
- 2009 日本語版 英語版
- 2008年以前は こちら から

事業概要

アンリツは、進化を続ける情報通信の分野で、各種通信システムやサービス・アプリケーションの開発、品質保証に欠かせない計測器を提供しています。
110年を超える歴史を通して蓄積してきたソリューションは、携帯電話からのWebアクセスや音楽ダウンロード、テレビ会議や動画配信、デジタル放送などさまざまなサービスを支えています。
また、IP通信機器や食品・医薬品用異物検出機や重量選別機、携帯電話、デジタルカメラなど各種デジタル製品用精密計測機器なども提供。
幅広い分野で、安全・安心で快適な社会づくりを支えています。

図を拡大する（PDF）

▲ページ先頭へ戻る

Copyright© Anritsu Corporation

第三者意見、第三者意見を受けて

CSRホーム
CSR報告2011
トップコミットメント
CSRの考え方
アンリツのCSR達成像
CSRマネジメント
達成像1
安全・安心で快適な社会構築への貢献
達成像2
グローバル経済社会との調和
達成像3
地球環境保護の推進
達成像4
コミュニケーションの推進
2010年度の実績、
2011年度の目標
事業概要
第三者意見
第三者意見を受けて
編集方針

バックナンバー

詳細（Web）

- 2010 日本語版 英語版
- 2009 日本語版 英語版

ダイジェスト（PDF）

- 2010 日本語版 英語版
- 2009 日本語版 英語版
- 2008年以前は こちら から

第三者意見

第三者意見を述べるにあたり、社長様はじめ役員の皆さまから、年間を通じたCSR取り組み内容の紹介を受ける機会を頂戴しました。
アンリツではこれまで毎年10月を企業倫理月間とされてきたところ、2010年度からはCSR推進月間と改め、社長様自ら「経営理念・経営ビジョン・経営方針」を社内浸透させる陣頭指揮をとり、多角的、多面的に自らの活動を見直す機会を設けるなど、社会的要請にしっかり応える企業として、活動を着実に進められています。
次に開示面について、私は以前から、コミュニケーションツールとしてのCSR報告掲載内容に求められる重要なポイントは、コンテクスト（背景）情報をまずは読者にきっちり提供したうえで、それをふまえてのコンテンツ内容、すなわち取り組み状況や成果報告を読者の皆さまに吟味していただく姿勢にあると考えていました。アンリツの今回の報告では、CSRについて事業活動との関連性を紹介する試みがなされています（ダイジェスト P6-7）。アンリツ独自のビジネス内容を読者の皆さまにご理解いただいたうえでCSRの取り組みを評価いただくことにつながることから、優れた開示姿勢であると評価します。
昨年、イノベーションについてキーパフォーマンス指標の設定を求めたいとする旨の第三者意見を述べさせていただきましたが、この点については、あまり進展が見られなかったようです。今やCSR報告は、社会の持続可能性に貢献することを通じ、企業自らの持続可能な成長性を訴求するツールと捉えられています。アンリツのキーファクターがイノベーションである限り、イノベーションへの考え方、マネジメント体制、ターゲット指標などを可能な限り外部開示することこそ、アンリツのこれからの成長性について、その魅力を訴求することにつながるものと信じます。イノベーションの成果を性急に求めたいということでなく、アンリツならではのイノベーションプロセスを紹介していただくことが、ステークホルダーがアンリツに期待する本業を通じた社会貢献に関してコミュニケーションをスタートさせるきっかけを与えるものと考えます。

SUSA
株式会社サステナビリティ会計事務所
代表取締役 福島 隆史

第三者意見を受けて

2010年度のCSR活動および事業活動とCSRの関連を記述した報告に対して評価をいただき、誠に有難うございます。ステークホルダーの皆さまに弊社CSR活動をより深くご理解いただくため、新たに「アンリツのCSR」というページ(ダイジェスト P6-7)を設けました。“社会の要請”と“事業”、さらにCSR活動のつながりを解説しました。これらの関連性を理解いただくための表現にはまだ工夫の余地があると考えますので、次回以降改善してまいります。
また、イノベーションに対応するキーパフォーマンス指標の設定については、社内におけるイノベーション活動を進めるとともに、ご提示いただいた開示項目を検討していきます。
今後も福島様からの指摘事項やステークホルダーの皆さまからのご意見などを真摯に受けとめ、CSR 活動を進展させていきます。

アンリツ株式会社
コーポレートコミュニケーション部CSR推進チーム

▲ページ先頭へ戻る

Copyright© Anritsu Corporation

編集方針

CSRホーム
CSR報告2011
トップコミットメント
CSRの考え方
アンリツのCSR達成像
CSRマネジメント
達成像1
安全・安心で快適な社会構築への貢献
達成像2
グローバル経済社会との調和
達成像3
地球環境保護の推進
達成像4
コミュニケーションの推進
2010年度の実績、
2011年度の目標
事業概要
第三者意見
第三者意見を受けて
編集方針

バックナンバー

詳細（Web）

- 2010 日本語版 英語版
- 2009 日本語版 英語版

ダイジェスト（PDF）

- 2010 日本語版 英語版
- 2009 日本語版 英語版
- 2008年以前は こちら から

編集方針

今回(2011年版)も昨年度に引き続きアンリツのCSR活動に関する情報は、Webサイトで詳細を、PDFでダイジェスト版として報告します。ダイジェスト版では、『アンリツCSR活動のあるべき姿(達成像)』ごとに特にお伝えしたい活動について分かりやすく報告することを基本としました。Webサイトでは、重要性測定により導き出された12の重要課題を達成像ごとに整理し、それぞれの具体的な活動状況を掲載することで、より多くのステークホルダーの皆さまにお伝えすることに努めました。

参考としたガイドラインなど
・GRI「サステナビリティ・レポーティング・ガイドライン 2006」
・ISO26000：2010

活動報告対象期間
2010年4月1日～2011年3月31日
（一部には、対象期間前後の活動内容も含まれます）

活動報告対象組織
報告内容については、項目によりアンリツ(株)のみの場合と、アンリツグループ会社を含めている場合があります。
以下のルールで区別しています。
・「アンリツ」または「アンリツグループ」
記事内容がアンリツ(株)およびグループ会社全体の場合
・「アンリツ(株)」
記事内容がアンリツ(株)単体の場合
・「グループ会社」
記事内容がグループ会社またはその一部の場合

公開日
2011年7月29日

▲ページ先頭へ戻る

Copyright© Anritsu Corporation